



Sun™ Management Center 3.5 バージョン 2 Sun Fire™ 15K/12K システムの ための追補マニュアル

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 817-4856-10
2003 年 11 月, Revision A

コメントの宛先: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com, Java, OpenBoot, および Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン・ロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Management Center 3.5 Version 2 Supplement for Sun Fire 15K/12K Systems
Part No: 817-3624-10
Revision A



目次

はじめに xxiii

1. 概要 1

2. インストールと設定 3

Sun Fire 15K/12K システムに固有のパッケージ 4

ネットワークポートの設定 5

Sun Management Center の主な機能と対応する節 6

インストール作業の工程 8

既存の Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアの更新 9

Sun Fire 15K/12K システム用の Sun Management Center 3.5 追加パッケージ
のアンインストール 9

Sun Fire 15K/12K システム用の Sun Management Center 3.5 追加パッケージ
のインストールと設定 9

Sun Management Center 3.0 ソフトウェアからのアップグレード 10

Sun Management Center 3.5 の新規追加ソフトウェアのインストールと設定 10

サーバーマシンの選択 12

サーバーマシンのサーバー階層 12

システムコントローラと Sun Fire 15K/12K ドメインのエージェント階層 12

ワークステーションまたはネットワークに対するコンソール階層と基本ヘル
プ 13

Sun Fire 15K/12K システムのホストとインストールする階層 13

Sun Management Center 3.5 のインストールウィザードによる Sun Fire 15K/12K
用追加ソフトウェアのインストール 15

Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードによる Sun Fire 15K/12K
用追加ソフトウェアの設定 15

- ▼ システムコントローラで Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアを設定する 16

- ▼ ドメインで Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアを設定する 25

- ▼ サーバマシンで Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアを設定する 27

「エージェント更新」による複数ホストの更新 28

エージェント更新プロセスを起動する前に 28

- ▼ 更新対象のホスト上でエージェント更新用設定ファイルを作成する 29

エージェント更新プロセスの使用 29

エージェント更新でサポートされる構成 29

- ▼ Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアが存在する構成を更新する 29

- ▼ 追加ソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 追加ソフトウェアが存在する構成を更新する 33

CLI によるソフトウェアのアンインストール 34

- ▼ Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする 34

- ▼ Sun Fire 15K/12K システム用の Sun Management Center 3.5 追加パッケージをアンインストールする 36

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動 38

- ▼ Sun Management Center ソフトウェアを起動する 38

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了 39

- ▼ サーバとエージェントを停止する 40

- ▼ コンソールを終了する 40

Sun Fire 15K/12K 設定パラメタの変更 41

- ▼ セットアップスクリプトを再実行する 41

Sun Management Center の Web インタフェース 43

インストールログファイルとセットアップログファイル 44

- 3. セキュリティーアクセス権の設定 45
 - グループを定義するときのセキュリティーに関する注意事項 45
 - スーパーユーザーのアクセス権 46
 - ネームサービススイッチ 47
 - ネットワークネームサービス 47
 - Sun Management Center のグループ 48
 - ▼ Sun Management Center ユーザーグループにユーザーを追加する 49
 - System Management Services のグループ 50
 - ▼ /etc/group ファイルを使用して SMS グループにユーザーを追加する 51
 - Sun Fire 15K/12K モジュールの使用に必要な権限 53
 - PDSM 操作に必要な SMS グループ権限 53
 - プラットフォーム表示に対するアクセス権 54
 - ドメイン表示に対するアクセス権 54
 - 1 つのユーザー ID に対するグループ ID 数の制限 55
- 4. Sun Fire 15K/12K のトポロジオブジェクト 57
 - Sun Fire 15K/12K プラットフォームの複合オブジェクト 57
 - ▼ Sun Fire 15K/12K の複合オブジェクトを作成する 60
 - ▼ Sun Fire 15K/12K の複合オブジェクトを検出する 61
 - Sun Fire 15K/12K プラットフォーム複合オブジェクトの更新 62
 - ▼ 「トポロジオブジェクトの作成」で作成した複合オブジェクトを更新する 63
 - ▼ 検出で作成された複合オブジェクトを更新する 63
 - ▼ 複合オブジェクトの障害追跡をする 64
 - Sun Fire 15K/12K のプラットフォームオブジェクト 65
 - ▼ Sun Fire 15K/12K のプラットフォームオブジェクトを作成する 66
- 5. Sun Fire 15K/12K システムの詳細ウィンドウ 67
 - 「ハードウェア」タブの表示 68

ハードウェアの概要	68
物理表示	68
論理表示	69
Sun Fire 15K/12K プラットフォームの詳細ウィンドウ	69
▼ Sun Fire 15K/12K プラットフォームのハードウェアの概要を表示する	70
▼ Sun Fire 15K/12K プラットフォームの物理表示をする	73
▼ Sun Fire 15K/12K プラットフォームの論理表示をする	75
Sun Fire 15K/12K ドメインの詳細ウィンドウ	77
▼ Sun Fire 15K/12K ドメインのハードウェアの概要を表示する	78
▼ Sun Fire 15K/12K ドメインの物理表示をする	79
▼ Sun Fire 15K/12K ドメインの論理表示をする	81
Sun Fire 15K/12K SC の詳細ウィンドウ	82
▼ Sun Fire 15K/12K システムコントローラのハードウェアの概要を表示する	83
▼ Sun Fire 15K/12K システムコントローラの物理表示をする	84
▼ Sun Fire 15K/12K システムコントローラの論理表示をする	88
6. Sun Fire 15K/12K 用エージェントモジュール	91
プラットフォーム用モジュールの使用不可	92
Sun Fire 15K/12K 用モジュールの属性	93
Sun Fire 15K/12K 用モジュールのアラーム規則	94
プラットフォーム構成リーダーモジュール	94
プラットフォーム構成リーダーモジュールの再表示機能	95
プラットフォーム構成リーダーの属性	96
システム	96
センタープレーン	98
拡張ボード	100
センタープレーンサポートボード	101
システムコントローラ	102

システムコントローラの周辺装置	104
ファントレー	105
電源装置	106
CPU ボード	107
HPCI ボード	108
HPCI+ ボード	110
WPCI ボード	113
MaxCPU ボード	116
HPCI カセット	118
Paroli カード	119
プロセッサ	120
メモリーバンク	121
DIMM	122
ドメイン	123
不明なコンポーネント (構成部品)	125
障害イベントテーブル	125
検出オブジェクトテーブル	125
プラットフォーム構成リーダーのアラーム規則	126
ボード電流規則 (scBCurr) 127	127
ボード電源規則 (scBPower) 127	127
ボード温度規則 (scBTemp) 128	128
ボード電圧規則 (scBVolt) 128	128
ドメイン停止および記録停止規則 (scStop) 129	129
HPCI カセット規則 (schPCIcd) 130	130
フェイルオーバー状態規則 (scFoStat) 130	130
OK/BAD/UNKNOWN 状態規則 (scOBURul) 131	131
OK/FAIL 規則 (scOkFail) 131	131
ON/OFF 規則 (scOnOff) 132	132

POST 状態規則 (scPOST)	132
電源装置遮断器規則 (scBreakr)	133
システムボード DR 状態規則 (scDrStat)	134
システムボードのテスト状態規則 (scBTest)	134
ドメインの状態のアラーム規則 (scDmnSt)	135
ドメインのバス構成規則 (scBusCfg)	137
ドメイン構成リーダーモジュール	138
構成が多数の外部ディスクからなるときの注意事項	139
▼ agent-stats-d.def ファイルを編集する	140
▼ ドメインのアラーム属性を変更する	140
ドメイン構成リーダーモジュールの再表示間隔	141
▼ ドメイン構成リーダーのデータを再表示する	141
ドメイン構成リーダーの属性	142
システム	142
CPU/ メモリーボード	143
HPCI/HPCI+ ボード	144
WPCI ボード	144
MaxCPU ボード	145
HPCI カセット	146
Paroli カード	147
プロセッサ	148
メモリーコントローラ	149
メモリーバンク	150
DIMM	151
ディスクデバイス	152
テープデバイス	153
ネットワークインタフェース	153
WCI	154

ドメイン構成リーダーのアラーム規則	155
CPU 状態規則 (scCPUStatus)	155
DIMM エラー数規則 (scDimmErrCnt)	155
ディスクエラー数規則 (scDskErrCnt)	156
POST 状態規則 (scPOSTStatus)	156
状態検査規則 (scStateCheck)	157
テープエラー数規則 (scTpeErrCnt)	158
リンクの状態規則 (scLnkSt)	158
リンクの妥当性規則 (scLnkVld)	159
SC 構成リーダーモジュール	159
SC 構成リーダーの属性	160
システム	161
SC ボード	162
プロセッサ	162
メモリーモジュール	163
PCI デバイス	164
ディスクデバイス	165
テープデバイス	166
ネットワークインタフェース	166
SC 構成リーダーのアラーム規則	167
ボード電圧規則 (scBVolt)	167
CPU 状態規則 (cpCPUStatus)	168
CPU 温度規則 (cpCPUtemp)	168
ディスクエラー数規則 (cpDskErrCnt)	169
テープエラー数規則 (scTpeErrCnt)	169
プラットフォーム / ドメインの状態管理モジュール	170
プラットフォーム表示	171
プラットフォーム情報	172

プラットフォームのスロット 0 のボード	172
プラットフォームのスロット 1 のボード	173
プラットフォームの空きスロット	174
電源装置	174
ファントレー	175
ドメイン X 表示	175
ドメイン X の情報	176
ドメイン X のスロット 0 のボード	177
ドメイン X のスロット 1 のボード	177
ドメイン X の空きスロット	178
動的再構成 (DR) モジュール	178
SC 監視モジュール	179
SC 監視の属性 - SC デーモンプロセス	181
SC 監視アラーム規則 - プロセス停止規則 (rDownProc)	183
SC 状態モジュール	183
SC 状態属性	184
SC 状態のアラーム規則 (rscstatus)	185
プラットフォームおよびドメインログファイルの表示	185
7. システムコントローラからのプラットフォーム / ドメインの状態管理	187
前提条件	187
PDSM がサポートする SMS のコマンド	188
システムコントローラからのプラットフォーム管理操作	189
プラットフォーム情報の表示	189
ボードの追加	190
▼ ボードを追加する	190
ボードの削除	190
▼ ボードを削除する	191
ボードの移動	191

▼ ボードを移動する	191
ボードまたは周辺装置の電源オン	192
▼ ボードまたは周辺装置の電源をオンにする	192
ボードまたは周辺装置の電源オフ	192
▼ ボードまたは周辺装置の電源をオフにする	193
状態の表示	193
▼ 状態を表示する	193
システムコントローラからのドメイン管理操作	194
システムコントローラからのドメイン情報の表示	194
ボードの追加	195
▼ ボードを追加する	195
ボードの削除	195
▼ ボードを削除する	195
ボードの移動	196
▼ ボードを移動する	196
ボードの電源オン	197
▼ ボードの電源をオンにする	197
ボードの電源オフ	197
▼ ボードの電源をオフにする	198
ボードのテスト	198
▼ ボードをテストする	198
ドメインのタグの追加 / 変更	199
▼ ドメインのタグを追加または変更する	199
タグの削除	199
▼ ドメインのタグを削除する	200
キースイッチ位置の変更	200
▼ キースイッチ位置を変更する	200
アクセス制御リスト (ACL) の設定 / 変更	201

- ▼ アクセス制御リストを設定または変更する 201
 - ドメインのリセット 202
- ▼ ドメインをリセットする 202
 - 状態の表示 202
 - ▼ 状態を表示する 203
- DR 操作に失敗した場合の対処方法 203

8. ドメインからの動的再構成 (DR) 接続点 205

前提条件 205

動的再構成 (DR) モジュール 206

動的再構成 (DR) の属性 207

接続点 208

CPU / メモリー 208

PCI/cPCI/hPCI 入出力ボード 209

WPCI 210

cPCI/hPCI カード 211

SCSI 212

空きスロット 213

MaxCPU 214

動的接続点 214

CPU コンポーネント 215

メモリーコンポーネント 216

入出力コンポーネント 217

SCSI コンポーネント 218

ドメインからの動的再構成 (DR) 操作 218

サポートされている `cfgadm` のオプション 219

ドメインからのドメイン情報の表示 220

ボードがドメインの ACL に登録されていることの確認 220

ボードの割り当て 220

- ▼ ボードを割り当てる 220
- ボードの割り当て解除 221
- ▼ ボードを割り当て解除する 221
- システムボードのアタッチ 222
- ▼ システムボードをアタッチする 222
- システムボードのデタッチ 223
- ▼ システムボードをデタッチする 223
- ボードの接続 224
- ▼ システムボードを接続する 224
- ボードの切断 224
- ▼ SCSI ボード以外のシステムボードを切断する 225
- ▼ SCSI ボードを切断する 226
- ボード、コンポーネント、メモリーの構成 226
- ▼ システムボード、またはコンポーネント、メモリーを構成する 226
- ボード、コンポーネント、メモリーの構成解除 227
- ▼ システムボードまたはコンポーネントを構成解除する 227
- ▼ メモリーを構成解除する 228
- ボードの電源オン 229
- ▼ ボードの電源をオンにする 229
- ボードの電源オフ 229
- ▼ ボードの電源をオフにする 230
- ボードのテスト 230
- ▼ ボードをテストする 230
- 状態の表示 231
- ▼ 状態を表示する 231

A. CLI によるインストールと設定 233

CLI による Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアのインストール 233

CLI による Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアの設定 234

システムコントローラの設定 234

Sun Fire 15K/12K ドメインの設定 237

用語集 239

索引 247

目次

- 図 2-1 インストール作業の流れ 8
- 図 2-2 Sun Fire 15K/12K システムでの新規インストールと設定 11
- 図 2-3 プラットフォームエージェントのポート番号の設定 18
- 図 2-4 予備のシステムコントローラに関する問い合わせ 20
- 図 2-5 CP 1500 システムコントローラのエージェントの設定 22
- 図 2-6 CP2140 システムコントローラのエージェントの設定 23
- 図 2-7 サポートされていないシステムコントローラのエージェントの設定 24
- 図 2-8 ドメインのテープポーリングの無効に関する問い合わせ 26
- 図 2-9 「ジョブの管理」パネル 30
- 図 2-10 「新しいタスク」パネル 31
- 図 4-1 Sun Fire 15K/12K の複合オブジェクトの例 61
- 図 5-1 Sun Fire 15K/12K プラットフォームのハードウェアの概要 71
- 図 5-2 Sun Fire 15K/12K プラットフォームの物理表示 - 正面 74
- 図 5-3 プラットフォームの物理表示における CPU ボードの上面 75
- 図 5-4 Sun Fire 15K/12K プラットフォームの論理表示 76
- 図 5-5 Sun Fire 15K/12K ドメインのハードウェアの概要 78
- 図 5-6 Sun Fire 15K/12K ドメインの物理表示 - 正面 80
- 図 5-7 ドメインの物理表示における HPCI ボードの上面 81
- 図 5-8 Sun Fire 15K/12K ドメインの論理表示 82
- 図 5-9 Sun Fire 15K/12K システムコントローラのハードウェアの概要 84

図 5-10	Sun Fire 15K/12K システムコントローラの物理表示 - 正面	85
図 5-11	システムコントローラ上面の物理表示	86
図 5-12	CP2140 システムコントローラ上面の物理表示	87
図 5-13	Sun Fire 15K/12K システムコントローラ (CP1500) の論理表示	89
図 5-14	Sun Fire 15K/12K システムコントローラ (CP2140) の論理表示	90
図 6-1	プラットフォーム構成リーダーモジュール	95
図 6-2	ドメイン構成リーダーモジュール	139
図 6-3	SC 構成リーダーモジュール	160
図 6-4	プラットフォーム / ドメインの状態管理 (PDSM) モジュール	171
図 6-5	SC 監視モジュール	180
図 6-6	SC 情報 (MAIN の状態であることが示されている)	184
図 8-1	動的再構成 (DR) の機能	207
図 8-2	「デタッチ」確認ダイアログボックス	223
図 8-3	「切断」パネル	225
図 8-4	「メモリーの構成解除」パネル	228
図 8-5	「ボードのテスト」パネル	231
図 8-6	ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (異常終了の場合)	232
図 8-7	ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (正常終了の場合)	232

表目次

表 1-1	Sun Fire 15K/12K 用エージェントモジュール	1
表 2-1	Sun Fire 15K/12K システム用の Sun Management Center パッケージ	4
表 2-2	Sun Management Center のデフォルトのポートアドレス	5
表 2-3	インストールと設定、アンインストール、更新作業	6
表 2-4	Sun Fire 15K/12K システムのホストとインストールする階層	13
表 3-1	デフォルトの Sun Management Center 管理グループ	48
表 3-2	デフォルトの SMS 管理グループ	50
表 3-3	Sun Fire 15K/12K モジュールと管理グループ	53
表 3-4	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム表示で可能な管理操作とアクセス権	54
表 3-5	Sun Fire 15K/12K ドメイン表示で可能な管理操作とアクセス権	54
表 4-1	Sun Fire 15K/12K のアイコン	58
表 5-1	詳細ウィンドウから見る事が可能な Sun Fire 15K/12K エージェントモジュール	67
表 5-2	Sun Fire 15K/12K プラットフォームの情報	72
表 5-3	Sun Fire 15K/12K プラットフォームのハードウェア資源	72
表 5-4	Sun Fire 15K/12K ドメインのハードウェアの概要	79
表 5-5	Sun Fire 15K/12K SC のハードウェアの概要	84
表 6-1	Sun Fire 15K/12K 用のエージェントモジュールの概要	91
表 6-2	プラットフォーム用モジュールに必須の SMS デーモン	93
表 6-3	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのシステム属性	96
表 6-4	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのセンタープレーン属性	98

表 6-5	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの拡張ボード属性	100
表 6-6	Sun Fire 15K プラットフォーム構成リーダーの センタープレーンサポートボード属性	101
表 6-7	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの システムコントローラ属性	102
表 6-8	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのシステムコントローラ周辺装置属 性	104
表 6-9	Sun Fire 15K プラットフォーム構成リーダーのファントレー属性	105
表 6-10	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの電源装置属性	106
表 6-11	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの CPU ボード属性	107
表 6-12	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの HPCI ボード属性	108
表 6-13	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの HPCI+ ボード属性	110
表 6-14	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの WPCI ボード属性	113
表 6-15	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの MaxCPU ボード属性	116
表 6-16	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの HPCI カセット属性	118
表 6-17	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの Paroli カード属性	119
表 6-18	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのプロセッサ属性	120
表 6-19	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのメモリーバンク属性	121
表 6-20	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの DIMM 属性	122
表 6-21	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのドメイン属性	123
表 6-22	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの不明なコンポーネント属性	125
表 6-23	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの障害イベントテーブル	125
表 6-24	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの検出オブジェクトテーブル属性	126
表 6-25	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのボード電流規則	127
表 6-26	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのボード電源規則	127
表 6-27	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのボード温度規則	128
表 6-28	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのボード電圧規則	128
表 6-29	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのドメイン停止と 記録停止規則	129
表 6-30	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの HPCI カセット規則	130

表 6-31	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの フェイルオーバー状態規則	130
表 6-32	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの OK/BAD/UNKNOWN 状態規則	131
表 6-33	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの OK/FAIL 規則	131
表 6-34	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの ON/OFF 規則	132
表 6-35	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの POST 状態規則	132
表 6-36	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの電源装置遮断器規則	133
表 6-37	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの システムボード DR 状態規則	134
表 6-38	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの システムボードテスト状態規則	134
表 6-39	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのドメインの 状態アラーム規則	135
表 6-40	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの ドメインのバス構成規則	137
表 6-41	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのシステム属性	142
表 6-42	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの CPU/メモリーボード属性	143
表 6-43	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの HPCI/HPCI+ ボード属性	144
表 6-44	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの WPCI ボード属性	144
表 6-45	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの MaxCPU ボード属性	145
表 6-46	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの HPCI カセット属性	146
表 6-47	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの Paroli カード属性	147
表 6-48	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのプロセッサ属性	148
表 6-49	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのメモリーコントローラ属性	149
表 6-50	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのメモリーバンク属性	150
表 6-51	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの DIMM 属性	151
表 6-52	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのディスクデバイス属性	152
表 6-53	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのテープデバイス属性	153
表 6-54	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの ネットワークインタフェース属性	153
表 6-55	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの WCI 属性	154

表 6-56	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの CPU 状態規則	155
表 6-57	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの DIMM エラー数規則	155
表 6-58	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのディスクエラー数規則	156
表 6-59	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの POST 状態規則	156
表 6-60	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの状態検査規則	157
表 6-61	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのテープエラー数規則	158
表 6-62	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのリンクの状態規則	158
表 6-63	Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのリンクの妥当性規則	159
表 6-64	Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのシステム属性	161
表 6-65	Sun Fire 15K/12K 構成リーダーの CP1500 ボード、CP2140 ボード属性	162
表 6-66	Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのプロセッサ属性	162
表 6-67	Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのメモリーモジュール属性	163
表 6-68	Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーの PCI デバイス属性	164
表 6-69	Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのディスクデバイス属性	165
表 6-70	Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのテープデバイス属性	166
表 6-71	Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのネットワークインタフェース属性	166
表 6-72	Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのボード電圧規則	167
表 6-73	Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーの CPU 状態規則	168
表 6-74	Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーの CPU 温度規則	168
表 6-75	Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのディスクエラー数規則	169
表 6-76	Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのテープエラー数規則	169
表 6-77	Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのプラットフォーム情報属性	172
表 6-78	Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのプラットフォームの スロット 0 のボード属性	172
表 6-79	Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのプラットフォームの スロット 1 のボード属性	173
表 6-80	Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのプラットフォームの空きスロット属性	174
表 6-81	Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのプラットフォームの電源装置属性	174
表 6-82	Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのプラットフォームのファントレーの 属性	175
表 6-83	Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのドメイン X 情報属性	176

表 6-84	Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのドメイン X のスロット 0 のボード属性	177
表 6-85	Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのドメイン X のスロット 1 のボード属性	177
表 6-86	Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのドメイン X の空きスロット属性	178
表 6-87	Sun Fire 15K/12K SC デーモンプロセスの属性	181
表 7-1	PDSM がサポートする SMS の CLI コマンド	188
表 8-1	CPU / メモリーボードの接続点属性	208
表 8-2	PCI/cPCI/hPCI 入出力ボードの接続点属性	209
表 8-3	WPCI ボードの接続点属性	210
表 8-4	cPCI/hPCI の接続点属性	211
表 8-5	SCSI の接続点属性	212
表 8-6	空きスロットの接続点属性	213
表 8-7	Sun Fire 15K/12K の MaxCPU ボードの接続点属性	214
表 8-8	CPU コンポーネントの動的接続点属性	215
表 8-9	メモリーコンポーネントの動的接続点属性	216
表 8-10	入出力コンポーネントの動的接続点属性	217
表 8-11	SCSI コンポーネントの動的接続点属性	218
表 8-12	DR がサポートする cfigadm のオプション	219

はじめに

このマニュアルでは、Sun Fire™ 15K/12K システムに Sun™ Management Center ソフトウェアをインストールしてセットアップする方法と、その使用方法を説明します。

このマニュアルは、Sun Fire 15K/12K システムを監視、管理するために、Sun Management Center ソフトウェアをインストールして使用する Sun Fire 15K/12K のシステム管理者向けです。

Sun Fire 15K/12K システム用の Sun Management Center 3.5 ソフトウェアおよびマニュアルには、フランス語、日本語、韓国語、簡体字中国語、繁体字中国語版があります。ただし、このマニュアルで使用している画面例は英語版です。

注 – ウィンドウに当該言語のすべてのテキストが表示されていない場合は、ウィンドウのサイズを変更してください。

お読みになる前に

このマニュアルは、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』および『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の後にお読みください。『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』では、Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストールおよび設定方法、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』では、Sun Management Center の使用方法をそれぞれ説明しています。

注 – この製品の最新情報については、Sun Management Center の Web サイト (<http://www.sun.com/sunmanagementcenter>) をご覧ください。

マニュアルの構成

第 1 章では、Sun Fire 15K/12K システム用の Sun Management Center ソフトウェアの概要を説明しています。

第 2 章では、Sun Fire 15K/12K システムに対する Sun Management Center ソフトウェアのインストール、セットアップ、起動、停止、アンインストール、再インストール、再構成方法を説明しています。『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』と併せてお読みください。

第 3 章では、Sun Fire 15K/12K システムで Sun Management Center を管理する際のセキュリティアクセス権の設定方法を説明しています。

第 4 章では、Sun Fire 15K/12K システムのトポロジオブジェクトの作成、変更、検出方法を説明しています。

第 5 章では、Sun Fire 15K/12K システムに固有のプラットフォーム、システムコントローラ、ドメインデータについて説明しています。これらのデータは、それぞれの詳細ウィンドウに表示されます。

第 6 章では、Sun Fire 15K/12K システム用の追加コンポーネントで使用される各属性とアラーム規則を簡単に説明しています。

第 7 章では、プラットフォーム / ドメインの状態管理 (PDSM) モジュールから動的再構成 (DR) コマンドとその他の管理コマンドを使用する方法を説明しています。PDSM モジュールは、SMS (System Management Services) のコマンドに依存しています。

第 8 章では、動的再構成 (DR) モジュールから DR コマンドとその他の管理コマンドを使用する方法を説明しています。DR モジュールは、cfgadm コマンドに依存しています。

付録 A では、コマンド行インタフェース (CLI) を使用して Sun Management Center ソフトウェアをインストールし、セットアップする方法を説明しています。

用語集では、このマニュアル、および Sun Fire 15K/12K システム専用のモジュール用の Sun Management Center のグラフィカルユーザーインタフェース (GUI) で使用されている略語と頭字語をまとめています。

索引を利用すると、このマニュアルの説明箇所を簡単に見つけることができます。

今回のリリースに含まれているオープンソースソフトウェアのライセンス条件と帰属、著作権情報については、以下の場所のファイルを参照してください。

```
/cdrom/sunmc_3_5_sparc/image/Webserver/Solaris_9/SUNWtcatr \  
/install/copyright
```


Solaris 8 ソフトウェアを使用している場合は、このパスの Solaris_9 の部分を Solaris_8 に置き換えてください。

UNIX コマンド

このマニュアルには、UNIX[®] の基本的なコマンド、およびシステムの停止、システムの起動、デバイスの構成などの基本的な手順の説明は記載されていません。

基本的なコマンドや手順についての説明は、次のマニュアルを参照してください。

- 本システムに付属している他のソフトウェアマニュアル
- 次のサイトにある Solaris[™] オペレーティング環境についてのマニュアル
<http://docs.sun.com>

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	マシン名%
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

書体と記号について

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	マシン名% su Password:
AaBbCc123 またはゴシック	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。 rm ファイル名 と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「」	参シェルプロンプトについて照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅をこえる場合に、継続を示します。	% grep <code> `^#define` \</code> <code> XV_VERSION_STRING'</code>

関連マニュアル

用途	タイトル	Part No.
概要	Sun Fire 15K/12K ソフトウェアの概要	817-4178
Sun Management Center のインストールと設定	Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド	817-3019
Sun Management Center の使用方法	Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド	817-3024
Sun Management Center に関する注意事項、制限事項、問題点	Sun Management Center 3.5 ソフトウェアご使用にあたって	817-3049
Solaris 8 または 9 のリファレンス	Sun Solaris 8 または 9 Reference Manual Collection (docs.sun.com を参照)	なし
SMS および SMS DR に関する注意事項、制限事項、問題点	System Management Services (SMS) 1.4 ご使用にあたって	817-4183
SMS のインストールと設定	System Management Services (SMS) 1.4 インストールマニュアル	817-4171
SMS リファレンス	System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル	817-4176
SMS 管理	System Management Services (SMS) 1.4 管理者マニュアル	817-4175
Sun Fire 15K/12K DR	Sun Fire 15K/12K Dynamic Reconfiguration (DR) ユーザーマニュアル	817-1383
SMS の DR	System Management Services (SMS) 1.4 Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル	817-4608
ハードウェア	Sun Fire 15K/12K システムサービスマニュアル	816-2194
luxadm	Platform Notes : Using luxadm Software	816-5074
Netra サーバー	Sun Management Center 3.5 Netra サーバーのための追補マニュアル	817-3126

用途	タイトル	Part No.
Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム	Sun Management Center 3.5 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのための追補マニュアル	817-2725
Sun Fire™ Link システムの管理	Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル	817-0746
Sun Fire™ Link システムの設置	Sun Fire Link ハードウェア設置マニュアル	817-0557
ワークグループサーバー	Sun Management Center 3.5 VSP High-End Entry サーバー (ワークグループサーバー) のための追補マニュアル	817-2931
ワークステーション	Sun Management Center 3.5 ワークステーションのための追補マニュアル	817-2893
Advanced System Monitoring (ASM)	SPARCengine™ ASM Reference Manual	805-7581

Sun のオンラインマニュアル

サンの各種マニュアルは下記 URL より参照できます。

<http://www.sun.com/documentation>

Sun のテクニカルサポート

この製品に関する技術的なご質問で、このマニュアルに記述されていない事項については、次のサイトからお問い合わせください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

コメントをお寄せください

弊社では、マニュアルの改善に努力しており、お客様からのコメントおよびご忠告をお受けしております。コメントは下記宛に電子メールでお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

電子メールの表題にはマニュアルの Part No. (817-3624-10) とタイトル (『Sun Management Center 3.5 Version 2 Supplement for Sun Fire 15K/12K Systems』) を記載してください。

なお、現在日本語によるコメントには対応できませんので、英語で記述してください。

第1章

概要

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアは、Java™ ソフトウェアプロトコルと SNMP (Simple Network Management Protocol) を使用して、サンの製品とそのサブシステム、コンポーネント、周辺装置の統合および総合的な大規模の管理機能を提供する、拡張可能な開かれたシステム監視および管理アプリケーションです。

『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』には、Sun Management Center のアーキテクチャを理解するための定義と説明、および図が掲載されています。コンソール、サーバー、エージェント、ドメイン、モジュールの対話の仕組みについて不明な点がある場合には、適宜参照してください。

Sun Fire 15K/12K 追加パッケージは、Sun Fire 15K/12K のプラットフォーム、システムコントローラ、ドメインに対するサポート機能を提供します。Sun Fire 15K/12K プラットフォームの場合、ハードウェアの構成情報は両方のシステムコントローラ (SC: 現在の CP 1500 または CP2140) とすべてのプラットフォームドメイン (Sun Fire 15K システムの場合は最高 18、Sun Fire 12K システムの場合は最高 9) に置かれます。Sun Fire 15K/12K システムのハードウェア構成情報、プロセス監視、管理機能は、表 1-1 の Sun Fire 15K/12K エージェントモジュールによって提供されます。

表 1-1 Sun Fire 15K/12K 用エージェントモジュール

エージェントモジュール	説明
プラットフォーム構成リーダー (PCR)	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム全体のハードウェア構成に関する情報を提供します。
プラットフォーム / ドメインの状態管理 (PDSM)	プラットフォームおよびドメインの管理と、プラットフォーム全体のシステムボードの大域的な動的再構成 (DR) を可能にします。
ドメイン構成リーダー (DCR)	Sun Fire 15K/12K ドメインのハードウェア構成情報を提供します。
動的再構成 (DR)	1 つのドメインのボードを一度に動的に再構成することを可能にします。

表 1-1 Sun Fire 15K/12K 用エージェントモジュール (続き)

エージェントモジュール	説明
SC 構成 リーダー	Sun Fire 15K/12K システムコントローラのハードウェア構成情報を提供します。
SC 監視 (SCM)	アクティブな Sun Fire 15K/12K システムコントローラ上の SMS (System Management Services) デーモンを監視します。
SC の状態	Sun Fire 15K/12K システムコントローラがメインまたは予備のどちらであるかを確認します。

第2章

インストールと設定

この章では、Sun Management Center 3.5 のウィザードを使った、Sun Fire 15K/12K システムに対する Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストール、設定、アンインストール、再インストール、再構成方法を説明します。

Sun Management Center ソフトウェアは、以下から構成されます。

- Sun Management Center の基本部分と基本的なサポート機能を提供する主要パッケージ
- 特定のハードウェアプラットフォームに対するサポート機能を提供する追加コンポーネント
- 追加機能用の追加製品 (ライセンス契約の下に使用許可)

Sun Fire 15K/12K のサポート機能を使用するには、Sun Management Center 3.5 の主要パッケージと Sun Fire 15K/12K 用の追加パッケージが必要です。Sun Management Center 3.5の主要パッケージのインストールと設定、また Sun Management Center 3.5ソフトウェアの起動と停止に関する基本的な情報については、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。この章では、Sun Fire 15K/12K システムに固有の内容についてのみ説明します。



注意 – Sun Management Center 3.5 ソフトウェアに付属しているインストールおよびセットアップスクリプトを使用してください。パッケージを手動で追加したり、構成ファイルを手動で変更したりしないでください。

Sun Management Center 3.5 のスクリプトあるいはウィザードパネルによって表示されるメッセージの内容および順番が、このマニュアルで示す例と異なることがあります。それらの例は、実際に表示されるメッセージのほしい内容と順番を示すためのものです。実際のインストールスクリプトおよびセットアップスクリプトは、インストールする追加コンポーネントや、その他の選択するオプションによって異なります。

Sun Fire 15K/12K システムに固有のパッケージ

表 2-1 は、Sun Management Center 3.5 の基本機能に付属している Sun Fire 15K/12K システムに固有のパッケージとそのインストールに必要な最小ディスク容量 (キロバイト単位) をまとめたものです。Sun Management Center を使用する際に必要となる、最小ディスク容量などの一般的な条件については、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。

表 2-1 Sun Fire 15K/12K システム用の Sun Management Center パッケージ

パッケージ	説明	サイズ (K バイト)
SUNWesscp	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム用の Sun Management Center エージェントサポート	2558 K バイト
SUNWesscd	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム用の Sun Management Center ドメインエージェントサポート	1838 K バイト
SUNWscsca	Sun Fire 15K/12K システムコントローラ用の Sun Management Center エージェントサポート	1568 K バイト
SUNWesscs	Sun Fire 15K/12K 用の Sun Management Center サーバーサポート	1500 K バイト
SUNWscscs	Sun Fire 15K/12K システムコントローラ用の Sun Management Center サーバーサポート	228 K バイト
SUNWesscg	Sun Fire 15K/12K 共通の Sun Management Center サポート (マスターの設定およびアンインストールスクリプト)	15 K バイト
SUNWesadf	Sun Fire 15K/12K/6800/4810/4800/3800 システム上の動的再構成用の Sun Management Center エージェントサポート	176 K バイト
SUNWescdf	Sun Fire 15K/12K/6800/4810/4800/3800 システム上の動的再構成用の Sun Management Center コンソールサポート	160 K バイト
SUNWessdf	Sun Fire 15K/12K/6800/4810/4800/3800 システム上の動的再構成用の Sun Management Center サーバーサポート	140 K バイト
SUNWensca	Sun Fire 15K/12K 用の Sun Management Center 英語メッセージファイル	88 K バイト
SUNWescdd	Sun Management Center の Sun Fire サポート - 動的再構成用のコンソールコンポーネント	64 K バイト
SUNWensdr	Sun Fire 15K/12K/6800/4810/4800/3800 用の Sun Management Center 英語 DR メッセージファイル	40 K バイト

ネットワークポートの設定

Sun Management Center ソフトウェアは、ネットワークポートを介して、システムのさまざまなコンポーネントと通信します。各コンポーネントのデフォルトのポートアドレスは、表 2-2 に示すとおりです。

表 2-2 Sun Management Center のデフォルトのポートアドレス

階層	コンポーネント	デフォルトのポート番号
エージェント	エージェント	161
サーバー	トラップハンドラ	162
サーバー	イベントマネージャー	163
サーバー	トポロジマネージャー	164
サーバー	構成サーバー	165
エージェント	プラットフォームエージェント	166
サーバー	メタデータ	168

このデフォルトのポート設定が、システムですでに動作中のソフトウェアと衝突することがあります。一部の Sun Fire 15K/12K ドメインでも、従来の SNMP エージェントがあるためにポート 161 で衝突することがあります。このような衝突を回避するには、Sun Management Center ソフトウェアの設定でかわりのネットワークポートを指定してください。ポートの衝突を解決する方法についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。

トポロジオブジェクトの作成、アクセスの際、Sun Management Center のエージェント階層ソフトウェアはデフォルトではポート 161 を使用します。エージェントが別のポートを使用するように設定するには、トポロジオブジェクトが作成または検出されたときに、そのポートを指定する必要があります。Sun Management Center のネットワーク構成と管理を簡略化し、Sun Management Center エージェントをより効率的に検出できるようにするには、デフォルトのポート設定を使用できないすべてのエージェントのインストール先について、別のポート番号を選択して、その番号を使用してください。

Sun Fire 15K/12K システムコントローラには、エージェントおよびプラットフォームエージェントの 2 つの Sun Management Center エージェントがあります。このうち、エージェントはシステムコントローラの情報、プラットフォームエージェントは Sun Fire 15K/12K システムの情報を提供します。通常、プラットフォームエージェントについては、デフォルトのポート設定でポートの衝突が発生することはありません。プラットフォームトポロジオブジェクトが作成または検出されると、デフォルトで正しいポートが提供されるため、ユーザーがポートを指定する必要はありません。

Sun Management Center の主な機能と対応する節

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアでは、いくつかの方法でインストール、設定、アンインストール、更新を行うことができます。表 2-3 は、それらの方法と、このマニュアルおよび『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』におけるその説明箇所をまとめています。

表 2-3 インストールと設定、アンインストール、更新作業

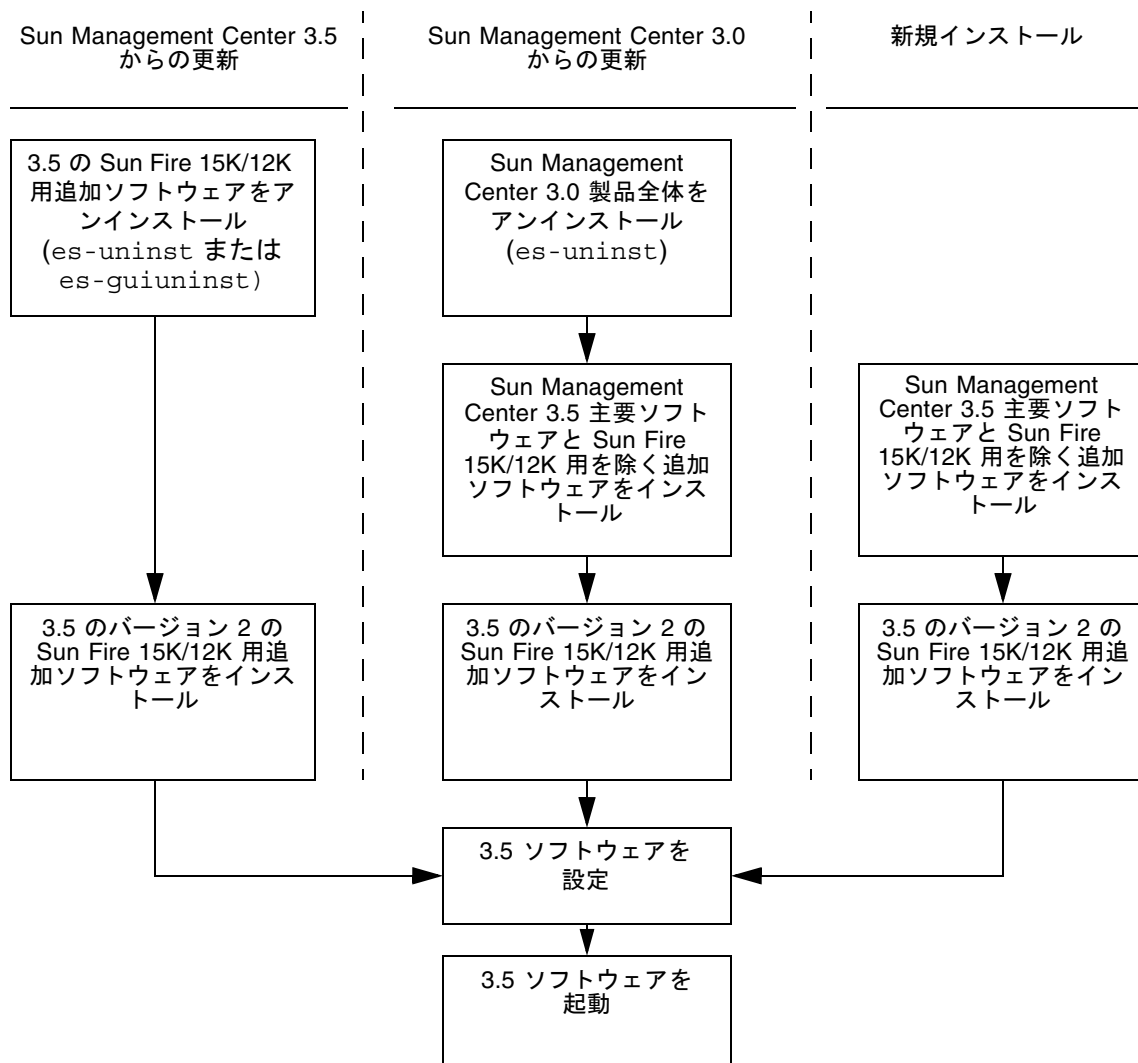
行う作業	説明している箇所
CLI による主要および追加ソフトウェアのインストール	『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の付録 B
CLI による Sun Fire 15K/12K 用追加パッケージの設定	『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の付録 B
エージェント更新による複数ホストの更新	28 ページの「「エージェント更新」による複数ホストの更新」 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章の「エージェント更新 (インストール) イメージの作成」
CLI によるアンインストール	34 ページの「CLI によるソフトウェアのアンインストール」 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の付録 B
CLI によるソフトウェアの起動	38 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動」 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-start によるコンポーネントの起動」
CLI によるソフトウェアの停止	39 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了」 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-stop によるコンポーネントの停止」
Sun Management Center 3.5 のインストールウィザードによるソフトウェアのインストール	15 ページの「Sun Management Center 3.5 のインストールウィザードによる Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアのインストール」 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章の「Solaris プラットフォームへの Sun Management Center 3.5 のインストール」
Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードによる設定	15 ページの「Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードによる Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアの設定」 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章の「Solaris プラットフォーム上のベース製品とアドオンの設定」

表 2-3 インストールと設定、アンインストール、更新作業 (続き)

行う作業	説明している箇所
ウィザードによる起動	『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-guistart によるコンポーネントの起動」
ウィザードによる停止	『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-guistop によるコンポーネントの停止」
ウィザードによるアンインストール	『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の付録 A の「Sun Management Center 3.5 のアンインストール」

インストール作業の工程

図 2-1 は、インストール作業の工程を示しています。



注 - エージェント更新を使用して、複数のエージェントホストに 3.5 ソフトウェアをインストールすることができます。

図 2-1 インストール作業の流れ

既存の Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアの更新

Sun Fire 15K/12K システムから既存の Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアを更新する場合は、以下のことを行う必要があります。

- Sun Fire 15K/12K システム上のサーバー、システムコントローラ、ドメインから既存の追加ソフトウェアを削除する。
- Sun Fire 15K/12K システム上のサーバー、システムコントローラ、ドメインに新しい追加ソフトウェアをインストールして設定する。

Sun Fire 15K/12K システム用の Sun Management Center 3.5 追加パッケージのアンインストール

- Sun Fire 15K/12K システム用の Sun Management Center 3.5 追加パッケージのアンインストール方法については、36 ページの「Sun Fire 15K/12K システム用の Sun Management Center 3.5 追加パッケージをアンインストールする」を参照してください。このアンインストールは、Sun Management Center 3.5 のアンインストールウィザード (es-guiuninst) を使用して行うことができます。アンインストールオプションと方法の詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の付録 A の「Sun Management Center 3.5 のアンインストール」を参照してください。

Sun Fire 15K/12K システム用の Sun Management Center 3.5 追加パッケージのインストールと設定

注 – 作業に取り掛かる前に、エージェント更新を使用して、複数のエージェントホストに Sun Management Center 3.5 ソフトウェアをインストールできることを忘れないでください。エージェント更新を利用した複数ホストの更新方法については、28 ページの「エージェント更新」による複数ホストの更新」を参照してください。

CLI あるいは GUI を使ったインストールおよび設定は、それぞれ以下の節または付録で説明しています。

- ウィザードによるインストールと設定 - 9 ページの「Sun Fire 15K/12K システム用の Sun Management Center 3.5 追加パッケージのインストールと設定」
- CLI によるインストールと設定 - 付録 A

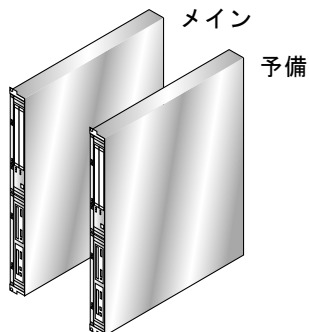
Sun Management Center 3.0 ソフトウェアからのアップグレード

Sun Management Center 3.0 ソフトウェアからのアップグレードに関する詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 5 章を参照してください。

Sun Management Center 3.5 の新規追加ソフトウェアのインストールと設定

この節では、Sun Fire 15K/12K システムでの Sun Management Center 3.5 ソフトウェアの新規インストールおよび設定手順の概略を説明します。図 2-2 は、Sun Fire 15K/12K のシステムコントローラおよびその他ホストにインストールする必要がある Sun Management Center ソフトウェアを表しています。

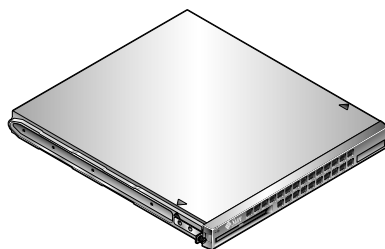
Sun Fire 15K/12K システムコントローラ



- Sun Management Center の主要エージェント階層
- Sun Fire 15K/12K プラットフォームエージェント、システムコントローラ、エージェントの DR、共通サポート

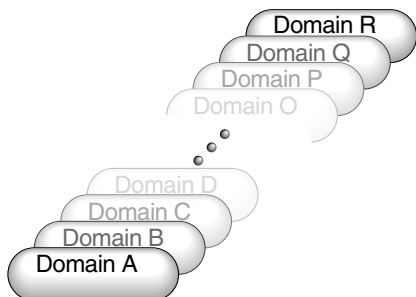
Sun Management Center サーバー

(512M バイトの RAM を搭載した任意のホスト)



- Sun Management Center のサーバー階層とエージェント階層
- Sun Fire 15K/12K サーバー、システムコントローラサーバー、サーバーの DR、共通サポート

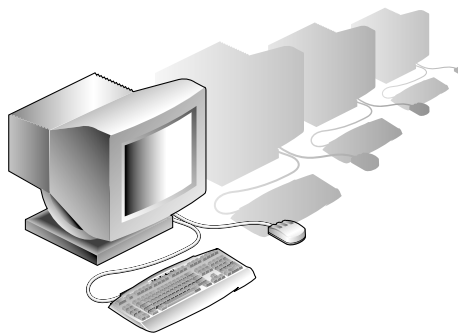
Sun Fire 15K/12K ドメイン



- Sun Management Center の主要エージェント階層
- Sun Fire 15K/12K ドメインエージェント

ワークステーション

(またはネットワーク上の共通の場所)



- Sun Management Center の主要コンソール階層と基本ヘルプコンポーネント
- Sun Fire 15K/12K コンソールの DR のサポート

図 2-2 Sun Fire 15K/12K システムでの新規インストールと設定

サーバーマシンの選択

Sun Management Center ソフトウェアをインストールする前に、**Sun Management Center** サーバーマシンにするサーバーを決定します。このサーバーには、最小でも 512M バイトのメモリーが必要です。使用可能なメモリーが 512M バイト未満のサーバーに主要サーバーコンポーネントをインストールしようとすると、エラーメッセージが表示され、インストールが停止します。

また、サーバーは高可用性 (HA) システムである必要があります。HA システムでない場合、**Sun Management Center** サーバーが停止したときに、**Sun Management Center** ソフトウェアを使ってシステムを管理できなくなります。サーバーマシンの要件についての詳細は、『**Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド**』を参照してください。

サーバーマシンのサーバー階層

サーバーマシンに **Sun Management Center 3.5** ソフトウェアをインストールする手順の概要は、以下に示すとおりです。

- **Sun Management Center** サーバーとして選択したマシンに **Sun Management Center 3.5** の主要サーバー階層と、**Sun Fire 15K/12K** およびシステムコントローラサーバー用の追加コンポーネントをインストールして、設定します。**Sun Management Center 3.5** サーバーマシンに、**Sun Management Center 3.5** の主要サーバー階層をインストールすると、主要エージェント階層が自動的にインストールされます。これで、サーバーマシン自体を監視できるようになります。

システムコントローラと Sun Fire 15K/12K ドメインのエージェント階層

システムコントローラと **Sun Fire 15K/12K** ドメインに **Sun Management Center 3.5** ソフトウェアをインストールして、設定する手順の概要は、以下に示すとおりです。

1. メインおよび予備のシステムコントローラに **Sun Management Center 3.5** 主要エージェント階層と、**Sun Fire 15K/12K** プラットフォームエージェントおよびシステムコントローラ用の追加コンポーネントをインストールして、設定します。
2. 監視するすべての **Sun Fire 15K/12K** ドメインに対して、**Sun Management Center 3.5** 主要エージェント階層と **Sun Fire 15K/12K** ドメインエージェント用の追加コンポーネントをインストールして、設定します。

ワークステーションまたはネットワークに対する コンソール階層と基本ヘルプ

ワークステーションまたはネットワークに Sun Management Center 3.5 ソフトウェアをインストールする手順の概要は、以下に示すとおりです。

- GUI を使った監視に使用するネットワーク上の共通の場所またはすべてのワークステーションに Sun Management Center 3.5 の主要コンソール階層と基本ヘルプ、コンソールの DR サポートをインストールして、設定します。

Sun Fire 15K/12K システムのホストとインストールする階層

Sun Fire 15K/12K システムをサポートするには、表 2-4 に示すように Sun Fire 15K/12K システムに Sun Management Center 3.5 ソフトウェアをインストールして、セットアップします。主要ソフトウェアのインストールとセットアップについては、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。このマニュアルではまた、Sun Management Center 3.5 ソフトウェアの起動および停止方法も説明しています。

表 2-4 Sun Fire 15K/12K システムのホストとインストールする階層

ホスト	階層	インストールするソフトウェア
Sun Management Center サーバーマシン	サーバー	Sun Management Center の主要サーバー階層
		Sun Management Center の主要エージェント階層 (自動)
		Sun Fire 15K/12K サーバー用の追加コンポーネント
		Sun Fire 15K/12K システムコントローラサーバー用の追加コンポーネント
		Sun Fire 15K/12K/6800/4810/4800/3800 サーバーの DR サポート
Sun Fire 15K/12K の共通サポート		
Sun Fire 15K/12K のメッセージファイル		
Sun Fire 15K/12K ドメイン	エージェント	Sun Management Center の主要エージェント階層
		Sun Fire 15K/12K 監視コンポーネント
		Sun Fire 15K/12K の共通サポート
		Sun Fire 15K/12K のメッセージファイル

表 2-4 Sun Fire 15K/12K システムのホストとインストールする階層 (続き)

ホスト	階層	インストールするソフトウェア
メイン SC	主要エージェント	<p>Sun Management Center の主要エージェント階層</p> <p>Sun Fire 15K/12K 監視コンポーネント</p> <p>Sun Fire 15K/12K システムコントローラ用の追加コンポーネント</p> <p>Sun Fire 15K/12K/6800/4810/4800/3800 エージェントの DR サポート</p> <p>Sun Fire 15K/12K の共通サポート</p> <p>Sun Fire 15K/12K のメッセージファイル</p> <p>このホストに、その他の Sun Management Center 階層をインストールしないでください。</p>
予備の SC	エージェント	<p>Sun Management Center の主要エージェント階層</p> <p>Sun Fire 15K/12K 監視コンポーネント</p> <p>Sun Fire 15K/12K システムコントローラ用の追加コンポーネント</p> <p>Sun Fire 15K/12K/6800/4810/4800/3800 エージェントの DR サポート</p> <p>Sun Fire 15K/12K の共通サポート</p> <p>Sun Fire 15K/12K のメッセージファイル</p> <p>このホストに、その他の Sun Management Center 階層をインストールしないでください。</p>
ワークステーション、またはネットワーク上の共通の場所	コンソール	<p>Sun Management Center の主要コンソール階層と基本ヘルプコンポーネント</p> <p>Sun Fire 15K/12K/6800/4810/4800/3800 コンソールの DR サポート</p>

Sun Management Center 3.5 のインストールウィザードによる Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアのインストール

ソフトウェア全体のインストール方法については、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章の「Solaris プラットフォームへの Sun Management Center 3.5 のインストール」に詳しい説明があります。ここでは、インストール手順の概略を示します。

1. 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章「Sun Management Center 3.5 のインストールと設定」で説明しているように、スーパーユーザーで `es-guiinst` スクリプトを実行します。
2. 主要ソフトウェアをインストールすると、選択してインストールすることが可能な追加製品の一覧からなる「アドオン製品の選択」画面が表示されます。Sun Fire 15K/12K システムに適用するアドオン製品を選択して、「次へ」をクリックします。
3. すべてのソフトウェアをインストールすると、Sun Management Center のセットアップウィザードが自動的に起動します。



注意 – システムコントローラが CP2140 ボードの場合は、そのサポートのために、システムコントローラと Sun Management Center サーバーの両方にシステムコントローラ用エージェントソフトウェアを再インストールする必要があります。

Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードによる Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアの設定

この節では、Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードを使用して Sun Fire 15K/12K 追加ソフトウェアの設定をする方法を説明します。

注 – パネルの下部にある「戻る」ボタンが有効な場合は (その場合、ボタンがグレー表示されていない)、ボタンをクリックすることによって直前の操作に戻ることができます。「戻る」ボタンがグレー表示されている場合、ボタンは無効で、直前の操作に戻ることはできません。

注 – Sun Management Center 3.5 主要ソフトウェアのセットアップ中に `setup-responses-file` を使用して、現在のマシンの設定の複製を他のマシン上に作成する場合は、必ず「セットアップ応答データの保存」をクリックします。これで、自分の行ったすべての応答が、`/var/opt/SUNWsymon/install/setup-responses-file` に保存されます。詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「Solaris プラットフォーム上のベース製品とアドオンの設定」を参照してください。

▼ システムコントローラで Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアを設定する

1. システムコントローラで `es-guisetup` を入力して、Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードを起動します。

Sun Management Center 主要ソフトウェアのセットアップを完了すると、システムにインストールされているプラットフォーム別追加製品の一覧からなる「アドオン製品の選択」パネルが表示されます。この例では、製品およびプラットフォームは Sun Fire 15K/12K Monitoring です。

```
The following add-on products are newly installed on this system
and will be set up.
```

```
- Sun Fire 15K/12K Monitoring
```

2. 「次へ」をクリックしてプラットフォームエージェントのセットアップを開始します。

「Sun Fire 15K/12K プラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Checking configuration files...

Status:

Set the platform server: <SC ホスト名>
Checking for default platform agent port...

Checking of configuration files complete.
```

3. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

以前にデフォルトのプラットフォームポートが設定されていない場合は、「Sun Fire 15K/12K プラットフォームの設定」パネルに以下が表示されます。

```
The default port for the Sun Management Center platform agent is 166

Would you like to use the default Sun Management Center platform agent port?
 Yes
 No
```

- プラットフォーム管理モジュールの設定を行う場合は、「はい」のラジオボタンをクリックします。
 - プラットフォーム管理モジュールの設定を行わない場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。
4. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 15K/12K プラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。



図 2-3 プラットフォームエージェントのポート番号の設定

- デフォルトのポート番号が表示された場合は、そのまま採用するか、変更します。
- デフォルトのポート番号が表示されない場合は、ポート番号を入力します。

5. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 15K/12K プラットフォームの設定」パネルに、選択されたポート番号が確認表示されます。

Confirmation of the platform agent port.

Platform agent port: 166

6. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

ポート番号を追加または変更した場合は、「Sun Fire 15K/12K プラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
The Sun Management Center security keys must be regenerated because
the platform agent port number has been changed.
```

```
Would you like to regenerate the security keys now?
```

```
 Yes
```

```
 No
```

- ここでセキュリティーキーを再生成する場合は、「はい」のラジオボタンをクリックします。

「はい」をクリックすると、「Sun Fire 15K/12K プラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
This part of setup generates security keys used for communications
between processes. A seed must be provided to initialize the keys.
Make sure you use the same seed for all the machines you install.
You may like to keep record of this seed for future use.
```

```
Enter the seed to generate keys:
```

```
Re-enter the seed to confirm:
```

注 – シードのパスワードは必ず安全な場所に保管してください。Sun Management Center のインストール内容に変更を加えた場合に必要になります。

- i. 初めてインストールした場合は、シードの一意のパスワードを入力します。初めてのインストールでない場合は、以前のバージョンの Sun Management Center で使用したのと同じシードを入力します。
 - ii. 確認のためにシードを再度入力します。
- ここでセキュリティーキーを再生成しない場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。

「いいえ」をクリックすると、「Sun Fire 15K/12K プラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
The Sun Management Center security keys have not been regenerated.
Remember to regenerate them prior to starting Sun Management Center.
```

7. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 15K/12K プラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。



図 2-4 予備のシステムコントローラに関する問い合わせ

- Sun Fire 15K/12K システムに予備の SC がある場合：
 - i. 「はい」のラジオボタンをクリックします。
 - ii. 予備 SC のホスト名を入力します。
- Sun Fire 15K/12K システムに予備の SC がない場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。

8. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 15K/12K プラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

The Platform Agent will create a composite object that includes Sun Management Center agents loaded on Sun Fire 15K/12K domains.

9. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 15K/12K プラットフォームの設定」パネルに、デフォルトの Sun Fire 15K/12K ドメインのポートが表示されます。

```
The default port to check for Sun Fire 15K/12K domains is 161.

Would you like to change the port to be checked?
O Yes
O No

Domain port number:                (なしの場合は何も入力しない)
```

■ 検査する Sun Fire 15K/12K ドメインのポートを変更する場合：

i. 「はい」のラジオボタンをクリックします。

ii. ポート番号を入力するか、空白のままにしてポートの検査を省略します。

■ 検査するポートを変更しない場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。

10. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 15K/12K プラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files...

Status:

Updated Discovery Table information via es-dt
Creating Smart Update configuration file.

Update of configuration files complete.
```

11. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 15K/12K プラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire 15K/12K platform setup is complete.
```

12. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

SC 用に使用されているマシンに従って、「Sun Fire 15K/12K システムコントローラのエージェントの設定」パネルに次のメッセージのうちのいずれかが表示されます。

- CP1500 が使用されていることが検出された場合:

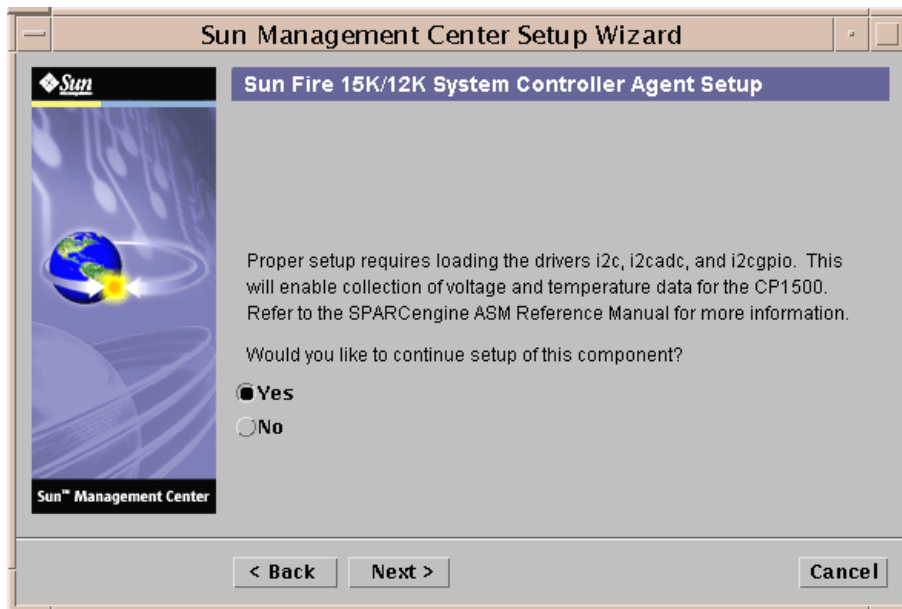


図 2-5 CP 1500 システムコントローラのエージェントの設定

- ドライバの `i2c`、`i2cadc`、`i2cgpio` を読み込んで、システムコントローラのエージェントの設定を続ける場合は、「はい」のラジオボタンをクリックします。
- システムコントローラのエージェントの設定を続けない場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。
- CP2140 が使用されていることが検出された場合 :

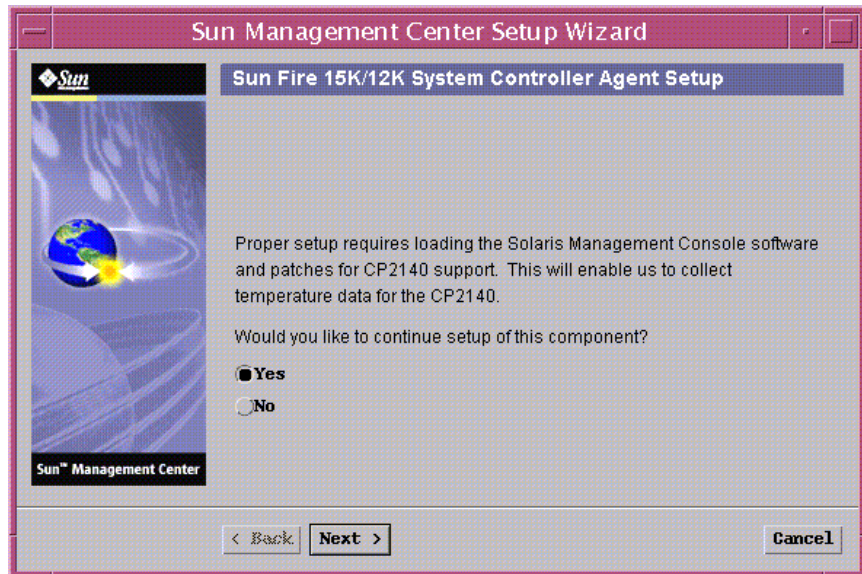


図 2-6 CP2140 システムコントローラのエージェントの設定

- Solaris Management Console ソフトウェアとパッチを読み込んで、システムコントローラのエージェントの設定を続ける場合は、「はい」のラジオボタンをクリックします。
- システムコントローラのエージェントの設定を続けない場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。
- CP1500 と CP2140 のどちらも使用されていないことが検出された場合：

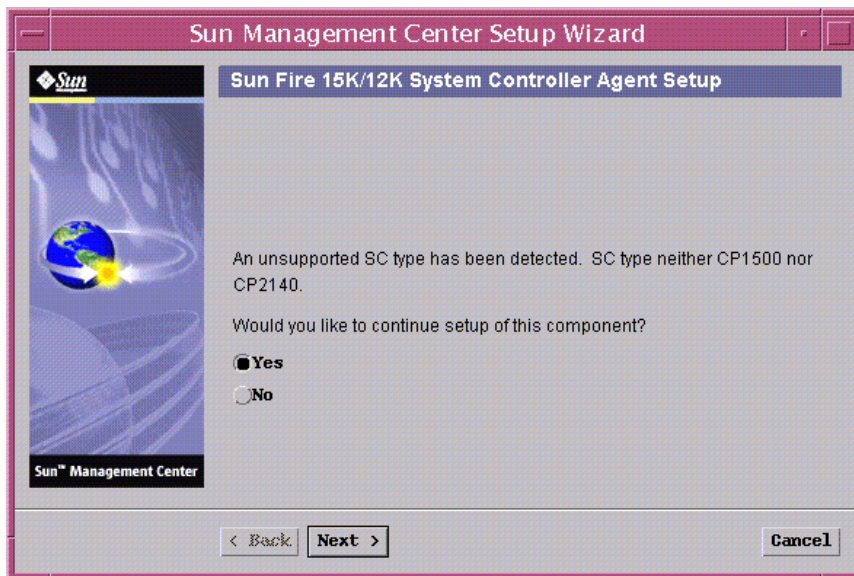


図 2-7 サポートされていないシステムコントローラのエージェントの設定

- システムコントローラのエージェントの設定を続ける場合は、「はい」のラジオボタンをクリックします。
- システムコントローラのエージェントの設定を続けない場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。

13. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 15K/12K システムコントローラのエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files...

Status:

Created deviceinfo.conf file
....

Update of configuration files complete.
```

14. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 15K/12K システムコントローラのエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire 15K/12K platform setup is complete.
```

▼ ドメインで Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアを設定する

1. Sun Fire 15K/12K ドメインで `es-guisetup` を入力して、Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードを起動します。

Sun Management Center 主要ソフトウェアのセットアップを完了すると、システムにインストールされているプラットフォーム別追加製品の一覧からなる「アドオン製品の選択」パネルが表示されます。この例では、製品およびプラットフォームは Sun Fire 15K/12K Monitoring です。

```
The following add-on products are newly installed on this system  
and will be set up.
```

```
- Sun Fire 15K/12K Monitoring
```

2. 「次へ」をクリックしてドメインの設定を開始します。

「Sun Fire 15K/12K ドメインの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

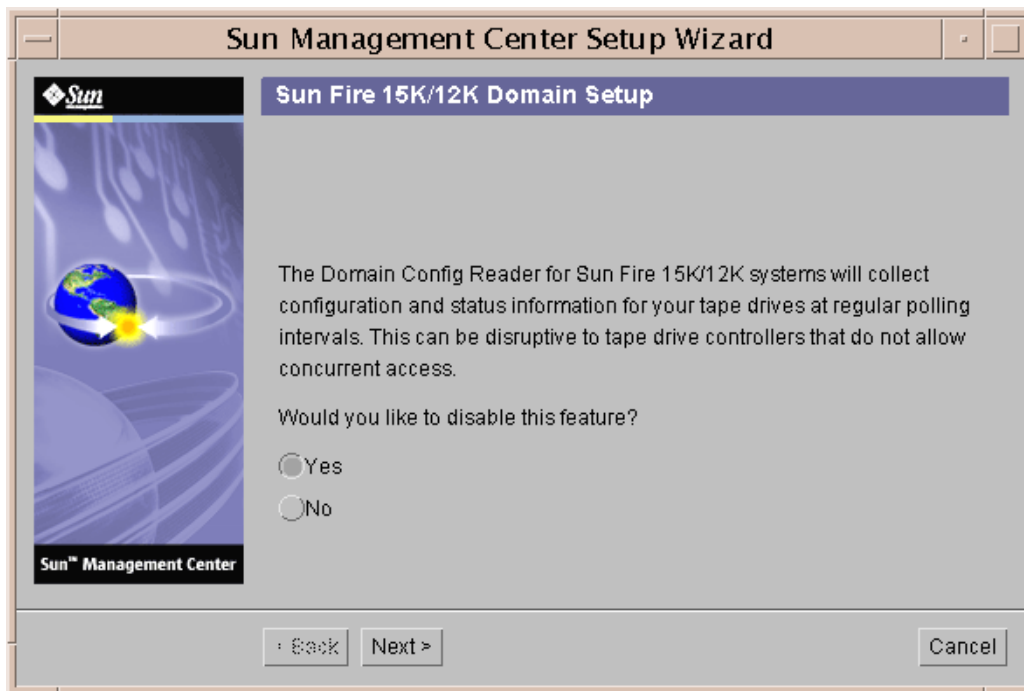
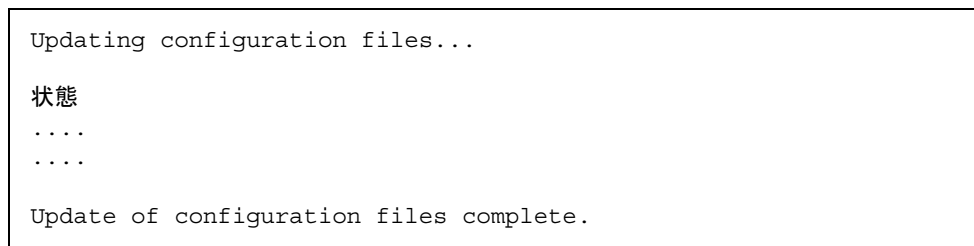


図 2-8 ドメインのテープポーリングの無効に関する問い合わせ

- テープドライブに対するポーリングを無効にする場合は「はい」のラジオボタンをクリックします。
テープドライブコントローラによって同時並行アクセスが禁止されている場合は、この機能を無効にできます。
- テープドライブのポーリングを有効にする場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。

3. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 15K/12K ドメインの設定」パネルに、構成ファイルの更新状況が表示されます。



4. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 15K/12K ドメインの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire 15K/12K platform setup is complete.
```

▼ サーバマシンで Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアを設定する

1. Sun Management Center サーバマシンで `es-guisetup` を入力して、Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードを起動します。

Sun Management Center 主要ソフトウェアのセットアップを完了すると、システムにインストールされているプラットフォーム別追加製品の一覧からなる「アドオン製品の選択」パネルが表示されます。この例では、製品およびプラットフォームは Sun Fire 15K/12K Monitoring です。

```
The following add-on products are newly installed on this system  
and will be set up.
```

```
- Sun Fire 15K/12K Monitoring
```

2. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 15K/12K サーバの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files...
```

「Sun Fire 15K/12K サーバの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire 15K/12K server setup is complete.
```

3. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 15K/12K システムコントローラのサーバーの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files...
```

更新が完了すると、「Sun Fire 15K/12K システムコントローラのサーバーの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire 15K/12K SC server setup is complete.
```

「エージェント更新」による複数ホストの更新

この節では、エージェント更新を使用して一度に複数のホストを更新する方法を説明します。このエージェント更新プロセスそのものは、**Sun Management Center** サーバーマシンで実行する必要があります。また、更新対象のすべてのホスト上で **Sun Management Center 3.5** エージェントを必ず動作させておく必要もあります。

エージェント更新プロセスを起動する前に

エージェント更新を使用して **Sun Fire 15K/12K** プラットフォームエージェントモジュールを完全にインストールして設定するには、**Sun Management Center** サーバーマシンでエージェント更新プロセスを実行する前に、更新対象のホスト上のモジュール用のエージェント更新用構成ファイルを作成しておく必要があります。

注 – **Sun Management Center 3.5** 主要ソフトウェアのセットアップ中に `setup-responses-file` を使用して、現在のマシンの設定の複製を他のマシン上に作成する場合は、必ず「セットアップ応答データの保存」をクリックします。これで、自分の行ったすべての応答が、`/var/opt/SUNWsymon/install/setup-responses-file` に保存されます。詳細は、『**Sun Management Center 3.5** インストールと構成ガイド』の「**Solaris** プラットフォーム上のベース製品とアドオンの設定」を参照してください。

▼ 更新対象のホスト上でエージェント更新用設定ファイルを作成する

1. Sun Fire 15K/12K プラットフォームエージェントが更新対象のすべてのホストにインストールされていることを確認します。
2. es-setup スクリプトまたは es-guisetup ウィザードを使用して、更新対象のホスト上で Sun Fire 15K/12K プラットフォームエージェントモジュールが設定されていることを確認します。

この確認を終えると、最初に提供されたホスト別の情報を利用した、エージェント更新による以降のプラットフォームエージェント設定処理が自動的に機能します。

エージェント更新プロセスの使用

エージェント更新では、目的のマシンに配布する追加コンポーネントかなるイメージファイルを作成し、「ジョブの管理」タスクリストに新しいジョブを追加します。

エージェント更新でサポートされる構成

エージェント更新を使用して以下の構成を更新することができます。

- 29 ページの「Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアが存在する構成を更新する」
- 33 ページの「追加ソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 追加ソフトウェアが存在する構成を更新する」

▼ Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアが存在する構成を更新する

この手順は、Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアが存在する構成の更新にのみ使用できます。

1. es-gui-imagetool または es-imagetool (基本 Sun Management Center スクリプト) のいずれかを使用して目的のエージェントマシンに配布する、適切な Sun Fire 15K/12K 用追加コンポーネントからなるイメージファイルを作成します。

ウィザードまたは CLI 形式のイメージツールの使用方法に関する詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 7 章「Sun Management Center のインストール後の作業」の参照してください。

2. Sun Management Center メインコンソールウィンドウの「ツール」メニューから「ジョブの管理...」オプションを選択します。

「ジョブの管理」パネルが表示され (図 2-9)、このパネルからイメージファイルを配布することができます。

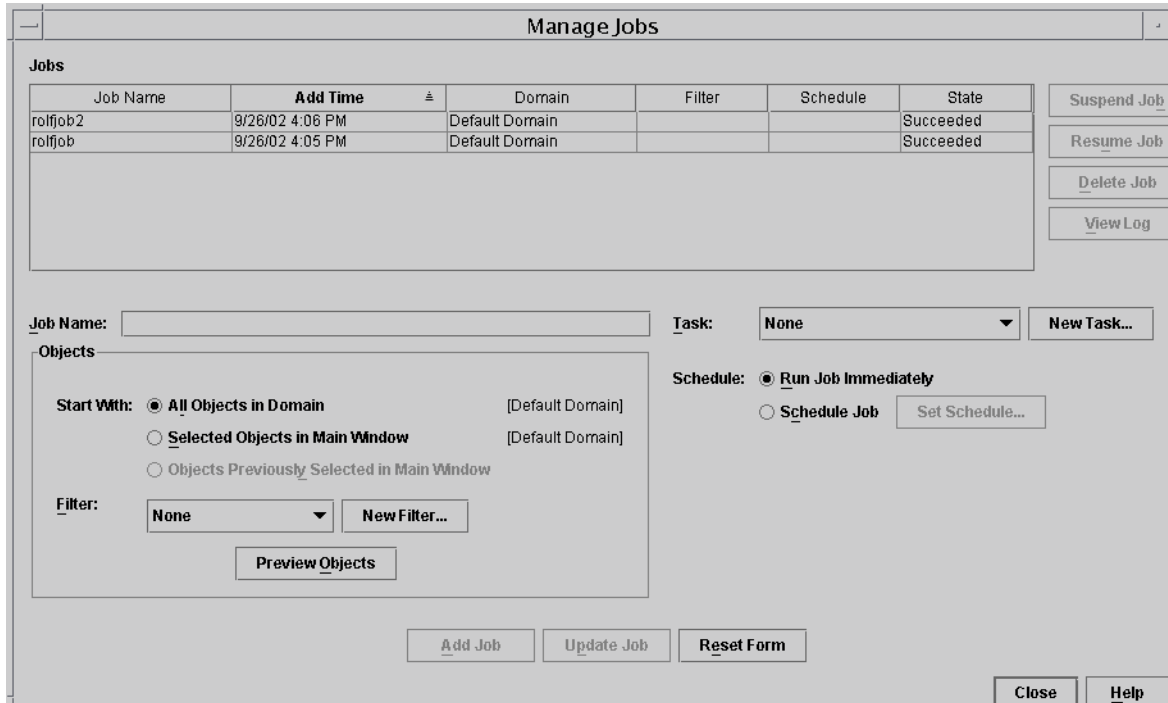


図 2-9 「ジョブの管理」パネル

3. 「ジョブの管理」パネルで「新しいタスク...」ボタンを選択します。

「新しいタスク」パネルが表示され (図 2-10)、このパネルから配布するエージェント更新イメージファイルを指定することができます。

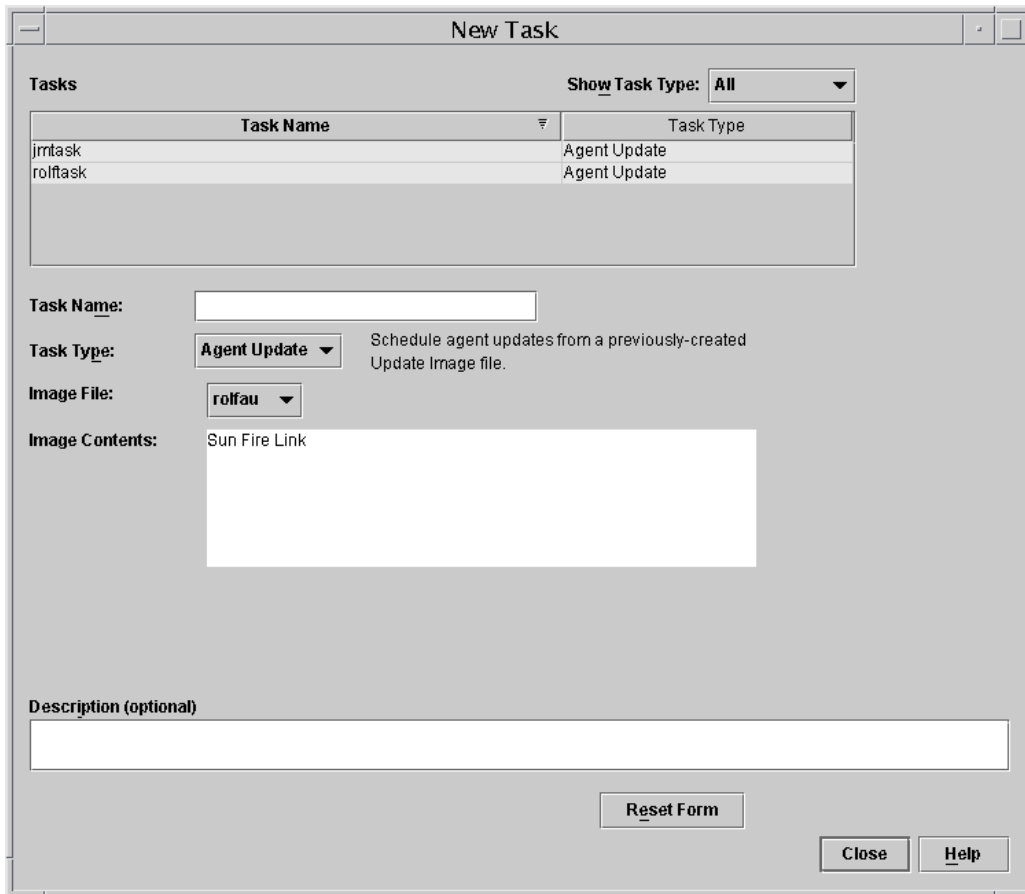


図 2-10 「新しいタスク」パネル

4. 「新しいタスク」パネル (図 2-10) で、以下のことを行います。
 - a. 「タスクタイプ」で「エージェント更新」を選択します。
 - b. 手順 1 で作成したイメージファイルを選択します。
 - c. タスク名を入力します。
 - d. 「タスクの追加」ボタンをクリックします。
 - e. 「閉じる」ボタンをクリックします。
5. 「ジョブの管理」パネル (図 2-9) で、以下のことを行います。
 - a. ジョブ名を入力します。
 - b. 手順 4 で作成したタスクを選択します。

c. 以下のいずれかを行って、タスクの実行予定を作成します。

- タスクをただちに実行する場合は、「すぐに実行」のラジオボタンをクリックします。
- タスクの実行予定を作成する場合は、「ジョブスケジュール」のラジオボタンをクリックして、実行時期を設定します。

注 – イメージファイルの配布先のオブジェクト (エージェントマシン) を選択する前に、すべてのエージェントマシンを含むグループオブジェクトを作成できます。これにより、1 つずつエージェントマシンを選択する必要はなくなります。オブジェクトグループの作成についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 3 章「グループを作成する」を参照してください。

d. 以下のいずれかを行って、イメージファイルの配布先のオブジェクト (エージェントマシン) を選択します。

- 「ドメイン内のすべてのオブジェクト」のボタンをクリックして、オブジェクトをさらに選別するためのフィルタを指定します。
- 「メインウィンドウ内の選択オブジェクト」のボタンをクリックして、オブジェクトを 1 つずつ選択します。

e. 選択したオブジェクト (エージェントマシン) を確認し、選択内容に誤りがあれば、やり直します。

f. 「ジョブの追加」ボタンをクリックします。

ジョブが開始され、選択されたオブジェクト (エージェントマシン) にイメージファイルが配布されます。ジョブの実行中は、「ジョブの管理」パネルの「ジョブ」リストにそのことが表示されます。ジョブのステータスとして、ジョブの実行中と完了が示されます。

注 – 複数ホストの更新に、あるホストで問題が発生すると、他の大部分のホストが正常に更新されたとしても、ステータスとして Failed (失敗) が返されます。その場合は、「ジョブの管理」パネルの「ジョブ」リストの右側の「ログ表示」をクリックして、成功および失敗した更新の一覧を参照してください。エージェント更新が成功した場合、Sun Management Center エージェントは自動的に再起動します。配布先のホストのそれぞれについて、Sun Management Center コンソールのホストの詳細ウィンドウで、適切なモジュールが存在し、動作しているかを確認することができます。

▼ 追加ソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 追加ソフトウェアが存在する構成を更新する

この手順は、以下のいずれかの構成の場合に行います。

- 追加ソフトウェアが存在しない構成から Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアへの更新
 - Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 追加ソフトウェアが存在する構成から Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアへの更新
1. Sun Management Center サーバマシン上でスーパーユーザーとしてログインします。
 2. イメージツールのいずれかを使用してエージェント更新イメージを作成します。
 - `es-gui-imagetool` を使用してエージェント更新イメージを作成するには、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「GUI イメージツールを使用する」の手順に従います。
 - `es-imagetool` を使用してエージェント更新イメージを作成するには、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「コマンド行イメージツールを使用する」の手順に従います。
 3. 各更新対象マシンのルートディレクトリに
`/opt/SUNWsymon/base/bin/agent-update.bin` ファイルをダウンロードします。

`/opt` 以外のディレクトリに Sun Management Center をインストールしている場合は、`/installldir/SUNWsymon/base/bin/agent-update.bin` をダウンロードします。`installldir` はユーザー指定のインストールディレクトリです。
 4. 更新対象のマシン上でスーパーユーザーとしてログインします。
 5. ダウンロードした `agent-update.bin` が存在するディレクトリに移動します。
 6. `./agent-update.bin -s server -r http-port -p image-name` と入力します。
 - `server` は手順 1 でログインしたサーバーです。
 - `http-port` は Sun Management Center Web サーバーポートです。
 - `image-name` は手順 2 で作成したエージェント専用イメージの名前です。
 7. セキュリティーシードおよび SNMPv1 コミュニティー文字列を指定します。
エージェント更新プロセスは、セキュリティーシードおよび SNMPv1 コミュニティー文字列を入力するよう求めます。
 - セキュリティーシードは、Sun Management Center サーバーおよびエージェントの設定で指定したのと同じシードである必要があります。

- SNMPv1 コミュニティー文字列は、Sun Management Center サーバーおよびエージェントの設定で指定したのと同じ文字列である必要があります。

上記以外の情報を入力する必要はありません。更新プロセスがマシンに更新イメージを適用します。

更新プロセスが完了したら、サーバーホスト上のログファイル `/var/opt/SUNWsymon/log/agent-update.log` を表示して、更新状態を確認します。

注 – プラットフォームエージェントを設定するには、`./es-setup -F` を再実行する必要があります。

CLI によるソフトウェアのアンインストール

CLI を使用して以下をアンインストールすることができます。

- Sun Management Center ソフトウェア全体 (34 ページの「Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする」を参照)
- Sun Fire 15K/12K 用の追加コンポーネント (36 ページの「Sun Fire 15K/12K システム用の Sun Management Center 3.5 追加パッケージをアンインストールする」を参照)

▼ Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする

1. スーパーユーザーで以下を入力します。

```
# ./es-uninst
```


以下のメッセージが表示されます。

```
This script will help you to uninstall the Sun Management Center software.

Following Sun Management Center Products are installed:
-----
PRODUCT                                DEPENDENT PRODUCTS
-----
Production Environment                  All Addons
Sun Fire 15K/12K Monitoring              None

Do you want to uninstall Production Environment? [y|n|q]
```

2. 製品環境をアンインストールしてもよい場合は **y** を入力します。これで、Sun Management Center ソフトウェア全体がアンインストールされます。

以下のメッセージが表示されます。

```
This will uninstall ALL Sun Management Center Products. !!!

Do you want to change selection? [y|n|q]
```

3. 以下のいずれかの操作をします。

- 選択内容を変更する場合は、**y** を入力します。
選択内容が表示され、手順 2 の先頭に戻ります。
- 選択内容を変更しない場合は、**n** を入力します。
以下のメッセージが表示されます。

```
Select Save Data to save all user and configuration data. Your data
is saved and can be restored when you re-install Sun Management
Center.
Do you want to preserve data? [y|n|q]
```

注 - **y** (はい) と応答すると、開および閉状態のアラーム、読み込み済みのモジュールとその設定、検出情報、管理対象オブジェクト、規則しきい値などの、データベース内のあらゆるデータが残されます。

4. 現在のトポロジやイベントデータを残す場合は `y`、廃棄する場合は `n` を入力します。
以下のメッセージが表示されます。

```
Proceed with uninstall? [y|n|q]
```

5. アンインストールしてもよい場合は `y`、アンインストールしない場合は `n` を入力します。

`y` を入力した場合は、アンインストールするパッケージの一覧が表示され、アンインストールされたパッケージ、アンインストール状況、ログファイルの場所が表示されます。

▼ Sun Fire 15K/12K システム用の Sun Management Center 3.5 追加パッケージをアンインストールする

1. スーパーユーザーで以下を入力します。

```
# ./es-uninst
```

以下のメッセージが表示されます。

```
This script will help you to uninstall the Sun Management Center software.
```

```
Following Sun Management Center Products are installed:
```

```
-----  
PRODUCT                                DEPENDENT PRODUCTS  
-----  
Production Environment                  All Addons  
Sun Fire 15K/12K Monitoring              None
```

```
Do you want to uninstall Production Environment? [y|n|q]
```

2. 製品環境をアンインストールしない場合は、`n` を入力します。

(製品環境をアンインストールすることを指示する `y` を入力すると、主要ソフトウェアを含む Sun Management Center ソフトウェア全体が削除されます。)

以下のメッセージが表示されます。

```
Do you want to uninstall Sun Fire 15K/12K Monitoring? [y|n|q]
```

3. Sun Fire 15K/12K の監視機能をアンインストールする場合は、**y** を入力します。
削除される製品に続けて次のメッセージが表示されます。

```
Do you want to change selection? [y|n|q]
```

4. 以下のいずれかの操作をします。
- 選択内容を変更する場合は、**y** を入力します。
選択内容が表示され、手順 2 の先頭に戻ります。
 - 選択内容を変更しない場合は、**n** を入力します。
以下のメッセージが表示されます。

```
Select Save Data to save all user and configuration data. Your data  
is saved and can be restored when you re-install Sun Management  
Center.  
Do you want to preserve data? [y|n|q]
```

注 - **y** (はい) と応答すると、開および閉状態のアラーム、読み込み済みのモジュールとその設定、検出情報、管理対象オブジェクト、規則しきい値などの、データベース内のあらゆるデータが残されます。

5. 現在のトポロジやイベントデータを残す場合は **y**、廃棄する場合は **n** を入力します。
以下のメッセージが表示されます。

```
Proceed with uninstall? [y|n|q]
```

6. アンインストールしてもよい場合は **y**、アンインストールしない場合は **n** を入力します。
y を入力した場合は、アンインストールするパッケージの一覧が表示され、アンインストールされたパッケージ、アンインストール状況、ログファイルの場所が表示されます。

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動

es-start コマンドに指定する引数は、起動するコンポーネントによって異なります。『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の es-start のオプション一覧を参照してください。この一覧は、es-start の -h オプションを使って表示することもできます。よく使われる es-start のオプションは、以下の手順に示すとおりです。

▼ Sun Management Center ソフトウェアを起動する

1. 起動しようとするコンポーネントがあるマシン上でスーパーユーザーとしてログインします (コンポーネントの格納場所については、表 2-4 を参照)。
2. /opt/SUNWsymon/sbin ディレクトリに移動します。

この例では、ソフトウェアがデフォルトの /opt にあると仮定しています。/opt 以外のディレクトリにある場合は、そのディレクトリに置き換えてください。

```
# cd /opt/SUNWsymon/sbin
```

システムコントローラ上で Sun Management Center エージェントを起動します。

```
# ./es-start -al
```

このコマンドによって主要およびプラットフォームエージェントが起動されます。プラットフォームエージェントは、あらゆる Sun Fire 15K/12K システム情報を Sun Management Center ソフトウェアに提供します。

3. Sun Management Center のエージェント階層だけインストールされている Sun Fire 15K/12K ドメインの場合は、Sun Management Center エージェントを起動します。

```
# ./es-start -a
```

- すべての階層がインストールされている Sun Management Center サーバーホスト上のすべての Sun Management Center コンポーネントを起動する場合は、以下を入力します。

```
# ./es-start -A
```

注 – 再起動すると、すべての Sun Management Center エージェントが自動的に起動します。

- コンソールを起動するには、以下を入力します。

```
# ./es-start -c
```

注 – コンソールの起動では、自分のユーザー ID を使ってログインすることもできます。スーパーユーザーでログインする必要はありません。ただし、プラットフォームまたはドメイン構成リーダーにアクセスする場合は、適切なセキュリティーアクセスグループに属している必要があります。45 ページの「グループを定義するときのセキュリティーに関する注意事項」を参照してください。

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了

ここでは、Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了について説明します。

- 適切なコマンド引数を指定して `es-stop` コマンドを入力することによるサーバーとエージェントコンポーネントの停止
- メインコンソールウィンドウからのコンソールの終了

▼ サーバーとエージェントを停止する

es-stop コマンドに指定するコマンド引数は、停止するコンポーネントによって異なります。『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の es-stop のオプション一覧を参照してください。この一覧は、es-stop の -h オプションを使って表示することもできます。よく使われる es-stop のオプションは、以下の手順に示すとおりです。

1. 停止しようとするコンポーネントがあるマシン上でスーパーユーザーとしてログインします (コンポーネントの格納場所については、表 2-4 を参照)。
2. /opt/SUNWsymon/sbin ディレクトリに移動します。

この例では、ソフトウェアがデフォルトの /opt にあると仮定しています。/opt 以外のディレクトリにある場合は、そのディレクトリに置き換えてください。

```
# cd /opt/SUNWsymon/sbin
```

3. サーバマシン上のサーバーとエージェントコンポーネントを停止する場合は、以下を入力します。

```
# ./es-stop -Sa
```

4. ドメインのホストマシン上のドメインエージェントコンポーネントを停止する場合は、以下を入力します。

```
# ./es-stop -a
```

5. SC を監視するホストエージェントとプラットフォームエージェントを停止するには、システムコントローラ上で次のコマンドを入力します。

```
# ./es-stop -al
```

▼ コンソールを終了する

1. メインコンソールウィンドウのメニューバーから「ファイル」->「終了」を選択します。
2. 「Sun Management Center の終了」パネルで「終了」ボタンをクリックします。

Sun Fire 15K/12K 設定パラメタの変更

Sun Fire 15K/12K 設定パラメタは、セットアップスクリプト (es-setup) を再実行することによっていつでも変更できます。次にあげるような変更を行った場合は、必ずその変更に合わせて Sun Fire 15K/12K 設定パラメタを適切な値に変更してください。

- Sun Fire 15K/12K システムの名前を変更した場合は、Sun Fire 15K/12K ドメインとプラットフォームコンポーネントの再設定をします。
- Sun Fire 15K/12K ドメインエージェント用の Sun Management Center エージェントのポート設定を変更した場合は、Sun Fire 15K/12K プラットフォームコンポーネントの再設定をします。
- プラットフォーム構成にスペアのシステムコントローラを追加したり、構成から削除したりした場合は、Sun Fire 15K/12K プラットフォームコンポーネントの再設定をします。
- Sun Management Center サーバーホストまたはトラップエージェントのポート設定を変更した場合は、Sun Fire 15K/12K プラットフォームおよびドメインコンポーネントの再設定をします。
- ホストの IP アドレスを変更した場合は、ホスト上のコンポーネントの再設定をします。

主要コンポーネントの格納場所については、表 2-4 を参照してください。

注 – SMS (System Management Services) の再インストール後にセットアップを再実行する必要はありませんが、Sun Management Center ソフトウェアを起動し直す必要があります。SMS ソフトウェアが起動する前に Sun Management Center ソフトウェアを再起動すると、「status is spare」状態であることを示すグレーの停止標識が表示されることがあります。また、SC 監視モジュールが読み込まれると、「Module is on the spare SC or required SMW daemon(s) is stopped」というメッセージが表示されることがあります。ただし、こうしたメッセージは SMS ソフトウェアが起動すると画面から消えます。何の操作も必要ありません。

▼ セットアップスクリプトを再実行する

1. 再設定するコンポーネントがあるマシン上でスーパーユーザーとしてログインします (コンポーネントの格納場所については、表 2-4 を参照)。

2. /opt/SUNWsymon/sbin ディレクトリに移動します。

この例では、デフォルトの /opt を使用していると仮定しています。/opt 以外のディレクトリにある場合は、そのディレクトリに置き換えてください。

```
# cd /opt/SUNWsymon/sbin
```

3. 再設定するコンポーネントを停止します。

コンポーネントの停止に使用するコマンドは、再設定するコンポーネントによって異なります。

- サーバマシンで動作している Sun Fire 15K/12K サーバとエージェントコンポーネントを停止する場合は、以下を入力します。

```
# ./es-stop -Sa
```

- ドメインで動作している Sun Fire 15K/12K ドメインエージェントを停止する場合は、以下を入力します。

```
# ./es-stop -a
```

- SC で動作しているホストエージェント (SC を監視) とプラットフォームエージェントを停止する場合は、以下を入力します。

```
# ./es-stop -al
```

4. セットアップスクリプトを実行して、Sun Management Center 3.5 の主要および追加ソフトウェアを再構成します。

```
# ./es-setup -F
```

es-setup コマンドのその他の引数の使用方法については、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。

5. 以下の 2 つのプロンプトでは、対応するコンポーネントの設定手順に従います。

- Sun Management Center サーバの設定では、以下のメッセージが表示されます。

```
Do you want to preserve your existing data? [y|n|q]
```

注 – y (はい) と応答すると、開および閉状態のアラーム、読み込み済みのモジュールとその設定、検出情報、管理対象オブジェクト、規則しきい値などの、データベース内のあらゆるデータが残されます。

- a. 現在のトポロジやイベントデータを残す場合は **y**、廃棄する場合は **n** を入力します。
- Sun Fire 15K/12K ドメインエージェントの設定では、以下のメッセージが表示されます。

サーバーホスト名 appears to be configured as your Sun Management Center server. Is this correct? [y|n|q]

- a. これが Sun Management Center サーバーの場合は **y** (はい)、Sun Management Center サーバーでない場合は **n** (いいえ) を入力します。n を入力すると、サーバーの正しいホスト名を入力するように求められます。
6. 停止したコンポーネントを再起動します。

Sun Management Center の Web インタフェース

Sun Management Center の Web インタフェースは、Java ベースの Sun Management Center コンソールに用意されている機能の大部分を提供する、ライセンス契約の下に使用許可される別売りの Sun Management Center コンポーネントです。Sun Management Center Web インタフェースについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

注 – Web インタフェースには、Sun Fire 15K/12K システムの物理表示と論理表示機能がないことに注意してください。物理表示と論理表示については、このマニュアルの第 5 章を参照してください。

インストールログファイルとセットアップログファイル

ここでは、インストールおよびセットアップスクリプトの終了時に表示されるメッセージ例を示します。ログファイルを調べることによって、インストールおよび設定中に発生したすべての問題を確認することができます。また、これらのファイルは、エラーの診断にも利用できます。

次の例は、インストールスクリプトが終了したときのメッセージを示しています。*nnnnnnnnnnnnnnnnnnnn* は、インストールログの識別番号です。

```
Log file: /var/opt/SUNWsymon/install/install.nnnnnnnnnnnnnnnnnnn
```

次の例は、セットアップスクリプトが終了したときのメッセージを示しています。*nnnnnnnnnnnnnnnnnnnn* は、セットアップログの識別番号です。

```
Log file: /var/opt/SUNWsymon/install/setup.nnnnnnnnnnnnnnnnnnn
```

セキュリティーアクセス権の設定

この章では、Sun Fire 15K/12K システム上で Sun Management Center の管理業務を行うためのユーザー権限を設定する方法を説明します。Sun Management Center ソフトウェアのインストールとセットアップの終了後は、ユーザーが行う業務に従って 2 通りのソフトウェア管理グループでユーザー権限を設定する必要があります。

- Sun Management Center のユーザーグループ - 一般的な Sun Management Center のセキュリティーの詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 18 章「Sun Management Center のセキュリティー」を参照してください。
- System Management Services (SMS) ユーザーグループ - Sun Fire 15K/12K システムコントローラは、SMS によって管理されます。このため、システムコントローラから Sun Fire 15K/12K プラットフォームおよびドメインを管理するには、Sun Management Center グループとともに、SMS グループでユーザー権限を設定する必要があります。一般的な SMS セキュリティーについては、『System Management Services (SMS) 1.4 管理者マニュアル』の第 2 章「SMS のセキュリティーオプションと管理特権」を参照してください。

グループを定義するときのセキュリティーに関する注意事項

System Management Services 管理グループのメンバーであること (メンバーシップ) を必要とする Sun Management Center ツールやモジュールを使用するには、Sun Management Center および System Management Services の 2 つのソフトウェアパッケージのそれぞれによって利用されるグループ定義において、そのグループのメンバーとしてユーザー ID が登録されている必要があります。言い換えれば、両方のソフトウェアによって、適切な管理グループのメンバーとしてユーザー ID が認識される必要があります。

Sun Management Center と System Management Services の両方のソフトウェアによって、ユーザー ID が適切な System Management Services 管理グループのメンバーとして認識されるようにする方法は 2 通りあります。

- Sun Management Center および System Management Services ソフトウェアの両方が利用する NIS (Network Information Service) などの一元化されたネットワークネームサービスでグループを定義して維持する。
- Sun Management Center サーバーホストと Sun Fire 15K/12K システムコントローラそれぞれの /etc/groups ファイルでローカルにグループを定義して維持する。この場合、Sun Management Center サーバーホスト上の System Management Services グループの定義は Sun Fire 15K/12K システムコントローラ上の定義またはその一部と同じにします。言い換えれば、Sun Management Center サーバーホストで Sun Management Center 管理グループのメンバーとして登録したユーザー ID を、Sun Fire 15K/12K システムコントローラ上の同じグループのメンバーとしても登録する必要があります。

2 台の異なるマシン上で同じ情報からなる 2 つのファイルを維持するよりも、一元化されたネームサーバーホスト上で単一のファイルを維持する方が便利で、エラーが起りにくいことは明らかです。ただし、ここには、選択する方法とその実装方法に関係すると考えられるセキュリティ上の問題点があります。

スーパーユーザーのアクセス権

Sun Management Center と SMS 環境はともにいくつかの管理グループを提供します。このため、ユーザーによって異なる管理権限を割り当てることができます。この方式は、そうしたグループに対するユーザーの追加あるいは削除権限が厳重に管理されることを前提にしています。しかし、グループメンバーシップが定義されているマシン上でスーパーユーザー権限をもった場合は、その誰もがグループを作成・削除したり、グループのメンバーを追加・削除したりできます。不正なユーザーがスーパーユーザー権限を持った場合、そのユーザーは管理グループに自身 (または他の人) を追加することができ、そのことで、そうしたグループを持つことの目的が無意味になることは明らかです。

このため、セキュリティ上問題となるのは、何人のユーザー (そしてどのユーザー) が中央のネームサーバーまたは Sun Management Center サーバーと Sun Fire 15K/12K システムコントローラ上のいずれかでスーパーユーザー権限を持っているのか、ということです。ある環境では、システムコントローラ上のスーパーユーザー権限が厳重に管理されているのに対し、Sun Management Center サーバーホスト上のスーパーユーザー権限は多数のユーザーによって所有されています。その他のサイトでは、スーパーユーザー権限が厳密に制限されています。また、ネームサーバー上で多数のユーザーにスーパーユーザー権限が付与されている環境もあれば、ネームサーバーに対するスーパーユーザーのアクセス権が厳密に制限されている環境もあります。

ネームサービススイッチ

グループメンバーシップのセキュリティーは、Sun Management Center サーバーホストおよび Sun Fire 15K/12K システムコントローラ両方のネームサービススイッチファイル (/etc/nsswitch.conf) の group の設定の影響を受けます。デフォルトでは、たいていのスイッチファイルは、/etc/group ファイルなどのソースで必要なグループ情報を見つけれなかった場合は、アプリケーションが NIS ネームサーバーなどの別のソースを調べるように、またその逆に NIS ネームサーバーなどのソースで必要なグループ情報を見つけれなかった場合は、/etc/group ファイルなどのソースを調べるように作成されています。このため、セキュリティーが問題になる場合は、ネームサービススイッチファイル内の group の設定を編集して、単一のソースだけ指定する必要があります。

- グループメンバーシップのソースとして NIS サーバーだけ指定するには、Sun Management Center サーバーホストと Sun Fire 15K/12K システムコントローラ両方の /etc/nsswitch.conf ファイルの group 行を以下のように編集します。

```
group nis
```

- グループメンバーシップのソースとしてローカルの /etc/groups ファイルだけ指定するには、Sun Management Center サーバーホストと Sun Fire 15K/12K システムコントローラ両方の /etc/nsswitch.conf ファイルの group 行を以下のように編集します。

```
group files
```

ネットワークネームサービス

Sun Fire 15K/12K システムが複数あり、中央の NIS ネームサーバーでグループ定義を管理する場合は、System Management Services の管理グループのデフォルト名を変更することを推奨します。グループメンバーシップが中央のネームサーバーで管理されていて、複数の Sun Fire 15K/12K システムで 1 つの SMS 管理グループに同じ名前が使用されていた場合、そのグループのメンバーは両方のマシンで管理権限を持つこととなります。

たとえば、ドメイン B の管理グループのデフォルト名が dmnbadmn であると仮定します。複数のマシンでこの名前が使用されていた場合、そのグループのメンバーは、すべてのマシンのドメイン B 上で管理権限を持つこととなります。管理権限は、各マシンの管理グループ名を dmnbadmn1、dmnbadmn2 というように一意の値に変更することによって、単一のマシンに制限することができます。

Sun Management Center のグループ

表 3-1 は、デフォルトの Sun Management Center 管理グループをまとめています。

表 3-1 デフォルトの Sun Management Center 管理グループ

グループ名	グループ	説明
esadm	管理者グループ	モジュールの読み込みと読み込み解除、ユーザーおよびグループのアクセス制御、管理ドメイン、ホスト、モジュールの操作などのあらゆる管理業務を行うことができます。
esops	オペレータグループ	esadm の権限の一部を持ちます。モジュールの使用の許可・禁止を行うことはできますが、読み込み・読み込み解除は行えません。監視業務は行うことができます。イベントの確認、削除、解決を行うことができます。
esdomadm	ドメイングループ	esadm 権限のうちの Sun Management Center ドメイン専用の権限を持ちます。管理ドメインの作成、管理ドメイン内のグループの作成、グループまたは管理ドメインへのオブジェクトの追加を行うことができます。
一般ユーザー	一般ユーザーグループ	グループ デフォルトでは、esusers ファイル内のユーザーの誰もが ANYGROUP グループのメンバーとみなされます。管理ドメインやホスト、モジュール、イベントを表示したり、データのグラフを作成したり、手動更新を開始したりできます。また、アドホックコマンドを実行できます。

▼ Sun Management Center ユーザーグループにユーザーを追加する

- Sun Management Center サーバーホスト上の `/var/opt/SUNWsymon/cfg/esusers` ファイルに Sun Management Center ユーザー全員のユーザー ID を追加します。

ユーザー ID は正規の UNIX ユーザー ID である必要があります。

以下は、すべての Sun Management Center ユーザーに対する `/var/opt/SUNWsymon/cfg/esusers` ファイル内の一般的なユーザー ID リストの例です。

```
esmaster
espublic
root
user1
user2
user3
user4
user5
....
....
```

注 – Sun Management Center ユーザー ID の `esmaster` は、UNIX のスーパーユーザーまたは `root` に相当し、管理権限を提供します。Sun Management Center ユーザー ID の `espublic` は、UNIX システムに `guest` としてログインすることに相当し、一般的なアクセス権限を提供します。これら 2 つのユーザー ID は、Sun Management Center ソフトウェアをサーバーにインストールしたときにその `esusers` ファイルに追加され、変更することはできません。これら 2 つのユーザー ID を使って Sun Fire 15K/12K プラットフォームまたはドメイン上で管理操作を行う場合は、適切な SMS グループにそれらの ID を追加する必要があります。

System Management Services のグループ

表 3-2 は、デフォルトの SMS 管理グループを説明しています。

表 3-2 デフォルトの SMS 管理グループ

グループ名	グループ	説明
platadmn	プラットフォーム管理者グループ	ボードやコンポーネントの電源の制御や、Sun Fire 15K/12K ドメインへのシステムボードの割り当てなどあらゆるプラットフォーム管理権限を持ちます。プラットフォームサービス権限はありません。ボードが未使用(割り当て解除状態)の場合にドメインにボードを割り当てたり、ボードが接続されていない場合にドメインからボードを削除(割り当て解除)したりすることができます。ドメインに対するボードの接続、構成、構成解除、切断は行えません。
platooper	プラットフォームオペレータグループ	platadmn の権限の一部を持ちます。プラットフォームの状態を表示できます。
dmnxadmn ¹	ドメイン管理者グループ	Sun Fire 15K/12K ドメインのコンソールにアクセスして、そのドメインのドメイン制御、状態、アクセス制御業務を行うことができます。ドメインに対するボードの接続、構成、構成解除、切断を行うことができます。ボードがドメインの ACL に登録されていて、他のドメインに割り当てられていない場合は、そのドメインにボードを割り当てることができます。
dmnxrcfg ²	ドメイン再構成グループ	dmnxadmn の権限の一部を持ちます。Sun Fire 15K/12K ドメイン内のシステムボードを再構成したり、その電源を制御したりできます。

1.x は、特定の Sun Fire 15K/12K ドメインを示す a から r の範囲の英字 1 字です。たとえば dmnbadmn は、ドメイン B の管理グループを表します。

2.x は、特定の Sun Fire 15K/12K ドメインを示す a から r の範囲の英字 1 字です。たとえば dmnbcfg は、ドメイン B の再構成グループを表します。

次のいずれかを使用して、ユーザーに割り当てようとする権限をもつ SMS グループにユーザー ID を追加する必要があります。

- Sun Management Center サーバーと Sun Fire 15K/12K の両方がアクセス可能な NIS (Network Information Service) などの中央のネームサービス。詳細は、NIS のマニュアルを参照してください。

- Sun Management Center サーバーホストと Sun Fire 15K/12K システムコントローラ上の `/etc/group` ファイル。この方法については、この後の手順で説明します。

注 – ユーザー ID は正規の UNIX ユーザー ID である必要があります。

▼ `/etc/group` ファイルを使用して SMS グループにユーザーを追加する

1. システムコントローラ上の `/etc/group` ファイルに一度に複数のユーザー ID を追加するには、`smsconfig(1M)` コマンドに `-a` オプションを付けて使用してください。

注 – グループ ID は、システムコントローラへの SMS のインストール中に `/etc/group` ファイルに自動的に作成されます。

`smsconfig(1M)` コマンドの使用の詳細については、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』を参照してください。

2. Sun Management Center サーバー上では、システムコントローラの /etc/group ファイルに現れるのと完全に同じに /etc/group ファイルにグループ ID とユーザー ID を追加してください。

以下は、/etc/group ファイル内の一般的なグループおよびユーザー ID リストの例です。Sun Management Center のさまざまな機能に対して ID が定義されています。

```
root::0:root
other::1:
bin::2:root,bin,daemon
sys::3:root,bin,sys,adm
adm::4:root,adm,daemon
uucp::5:root,uucp
mail::6:root
tty::7:root,tty,adm
lp::8:root,lp,adm
nuucp::9:root,nuucp
staff::10:
daemon::12:root,daemon
sysadmin::14:
nobody::60001:
noaccess::60002:
nogroup::65534:
esadm::1000:root,guest,user1,user2
esdomadm::1001:root,guest,user3
esops::1002:guest,user4
platadm::118:root,guest,user1,user2
platoper::119:root,guest,user4
dmnaadm::121:user1, user3
dmnarcfg::122:user3
dmnbadm::123:user1, user5
dmnbrcfg::124:user5
....
....
....
dmnradm::155:
dmnrrcfg::156:
```

Sun Fire 15K/12K モジュールの使用に必要な権限

表 3-3 は、Sun Fire 15K/12K モジュールを使用するために必要な管理グループ権限をまとめています。

表 3-3 Sun Fire 15K/12K モジュールと管理グループ

モジュール名	Sun Management Center のグループ	System Management Services のグループ
プラットフォーム構成リーダー	任意	platadm、platoper
プラットフォーム / ドメインの状態管理 (PDSM)	任意	操作の内容による (「PDSM 操作に必要な SMS グループ権限」を参照)
ドメイン構成リーダー	esadm	不要
動的再構成 (DR)	esadm	不要
SC 構成 リーダー	任意	不要
SC の監視	任意	不要
SC の状態	任意	不要

サービス管理グループの設定と変更についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 管理者マニュアル』を参照してください。Sun Management Center のグループのアクセス権の設定と変更、アクセス権の内容についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

PDSM 操作に必要な SMS グループ権限

Sun Fire 15K/12K プラットフォームおよびドメインの状態管理 (PDSM) 操作を行うには、その操作内容に従って、適切な SMS グループのメンバーになっている必要があります。

- プラットフォーム表示 (表 3-4)
- ドメイン表示 (表 3-5)

プラットフォーム表示に対するアクセス権

プラットフォーム表示は、プラットフォーム管理者 (platadm) およびプラットフォームオペレータ (platoper) だけが見ることができます。表 3-4 は、プラットフォーム表示で行うことができる管理操作とその操作に必要なアクセス権をまとめています。

表 3-4 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム表示で可能な管理操作とアクセス権

プラットフォーム表示で可能な操作	アクセス権
システムコントローラの電源	platadm, platoper
電源装置の電源	platadm, platoper
ファントレーの速度	platadm, platoper
スロット 0 およびスロット 1 のボード電源	platadm, platoper
スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する addboard	platadm
スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する deleteboard	platadm
スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する moveboard	platadm
状態の表示	platadm, platoper

ドメイン表示に対するアクセス権

18 ある Sun Fire 15K ドメイン (a から r)、および 9 つある Sun Fire 12K ドメインはすべて、それぞれの Sun Fire 15K/12K ドメイン管理者 (dmnxadm) と Sun Fire 15K ドメイン再構成者 (dmnxrcfg) だけが見ることができます。また一部の業務については、プラットフォーム管理者 (platadm) とプラットフォームオペレータ (platoper) も見ることができます。表 3-5 は、プラットフォーム表示で行うことができる管理操作とその操作に必要なアクセス権をまとめています。

表 3-5 Sun Fire 15K/12K ドメイン表示で可能な管理操作とアクセス権

ドメイン表示で可能な操作	アクセス権
ドメインのタグ	platadm
キースイッチ	dmnxadm
ドメイン ACL	platadm
リセット	dmnxadm

表 3-5 Sun Fire 15K/12K ドメイン表示で可能な管理操作とアクセス権 (続き)

ドメイン表示で可能な操作	アクセス権
スロット 0 およびスロット 1 のボード電源	dmnxadm, dmnxrcfg, platadm, platoper
スロット 0 および 1 のボードテスト	dmnxadm
スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する addboard	dmnxadm, dmnxrcfg, platadm
スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する deleteboard	dmnxadm, dmnxrcfg, platadm
スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する moveboard	dmnxadm, dmnxrcfg, platadm
状態の表示	dmnxadm, dmnxrcfg, platadm, platoper

1 つのユーザー ID に対するグループ ID 数の制限



注意 - 1 つのユーザー ID には、16 個までグループ ID を割り当てることができません。16 個を超える ID は無視され、そのユーザー ID によるアクセスで問題が発生します。言い替えれば、ユーザーはあるグループに属しているように見えますが、16 個のグループ制限を超えた場合、その超えたグループのアクセス権限を持つことはできません。ユーザーの持つグループ ID 数が 16 個を超えている場合のシステム処理についての詳細は、203 ページの「DR 操作に失敗した場合の対処方法」を参照してください。

第4章

Sun Fire 15K/12K のトポロジオブジェクト

この章では、Sun Fire 15K/12K のトポロジオブジェクトの作成、変更、検出方法を説明します。Sun Management Center オブジェクトの作成および監視に関する全般的な情報については、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

Sun Fire 15K/12K プラットフォームの複合オブジェクト

Sun Fire 15K/12K 複合オブジェクトは、Sun Fire 15K/12K プラットフォームに関するあらゆるホストからなる、Sun Management Center のグループオブジェクトです。この複合オブジェクトには、以下のアイコンが含まれます。

- Sun Fire 15K/12K グループ
- メインの Sun Fire 15K/12K プラットフォーム
- 予備の Sun Fire 15K/12K プラットフォーム (右下に丸で囲った X が付いたアイコン)
- あらゆる Sun Fire 15K/12K ドメイン
- メインの Sun Fire 15K/12K システムコントローラ
- 予備の Sun Fire 15K/12K システムコントローラ (右下に丸で囲った X が付いたアイコン)

Sun Fire 15K/12K プラットフォームのあらゆる構成要素を簡単に管理できるよう、Sun Fire 15K/12K 複合オブジェクトには、これらのすべてのオブジェクトが1つのグループとしてまとめられます。表 4-1 は、Sun Fire 15K/12K のアイコンを示しています。

表 4-1 Sun Fire 15K/12K のアイコン

アイコン	説明
	Sun Fire 15K/12K グループのアイコン
	メインの Sun Fire 15K/12K プラットフォームのアイコン
	予備の Sun Fire 15K/12K プラットフォームのアイコン (または必須の SMS デーモンが停止している場合)
	Sun Fire 15K/12K プラットフォームのアイコン (Sun Management Center が動作していない場合)
	Sun Fire 15K/12K ドメインのアイコン

表 4-1 Sun Fire 15K/12K のアイコン (続き)

アイコン	説明
	Sun Fire 15K/12K ドメインのアイコン (Sun Management Center が動作していない場合)
	メインの Sun Fire 15K/12K システムコントローラ
	予備の Sun Fire 15K/12K システムコントローラ

注 - Sun Management Center エージェントが監視するホストのアイコンには、F15K/F12K などのマシンのモデルを示すタグが付いています。Sun Management Center エージェントによって監視されていないホストのアイコンには、そうしたタグはありません。

Sun Fire 15K/12K システムコントローラおよびドメインホストは、それぞれ専用の Solaris オペレーティング環境を実行する独立したホストです。このため、これらのホストは、Sun Fire 15K/12K プラットフォーム複合オブジェクトとは別に作成したり、検出したりできます。つまり、Sun Fire 15K/12K のシステムコントローラとドメインは、Sun Fire 15K プラットフォーム複合オブジェクトを作成しなくても個別に作成できます。

Sun Fire 15K/12K プラットフォーム複合オブジェクト内の Sun Fire 15K/12K システムコントローラおよびドメインホストは、Sun Management Center トポロジ内の複数のグループに含めることができます。このため、それらホストは、ネットワークグループ別ばかりでなく、Sun Fire 15K/12K プラットフォームとの関係別に見ることができます。検出要求で Sun Fire 15K/12K ホストが検出された場合、そのホストはそのネットワークグループに従ってトポロジ内に配置されます。

Sun Fire 15K プラットフォームは最高 18 個のドメインホスト、Sun Fire 12K プラットフォームは最高 9 つのドメインホストで構成することができます。複合オブジェクトに含まれるのは、そのうちの、アクティブで Solaris オペレーティング環境を実行しているドメインだけです。

Sun Fire 15K/12K ドメインおよびプラットフォームを監視するには、「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウで Sun Management Center の Sun Fire 15K/12K 複合オブジェクトを作成するか、Sun Management Center の検出要求を使用します。

▼ Sun Fire 15K/12K の複合オブジェクトを作成する

この手順についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

1. メインコンソールウィンドウの階層表示で、Sun Management Center ドメイントポロジ内の、新しい複合オブジェクトを作成する階層を表示します。
2. メインコンソールウィンドウの「編集」メニューから「オブジェクトの作成」を選択します。
3. 「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウから「複合」タブを選択します。
4. 「オブジェクト」リストボックスから「Sun Fire 15K/12K 複合オブジェクト」を選択します。
5. テキストボックスに適切な情報を入力します。
6. 「了解」をクリックします。

以下のメッセージが表示されます。

Creating composite object... Please Wait.

この処理に要する時間の長さは、動作している Sun Fire 15K/12K のドメイン数に依存します。

Sun Management Center ドメイントポロジ内の現在の場所に「Sun Fire 15K/12K」フォルダが表示されます。Sun Fire 15K/12K 複合オブジェクトが作成されない場合は、64 ページの「複合オブジェクトの障害追跡をする」を参照してください。

7. Sun Fire 15K/12K プラットフォームに関連するすべてのオブジェクトを表示するには、このフォルダを開きます。

Sun Fire 15K/12K の複合の例については、図 4-1 を参照してください。

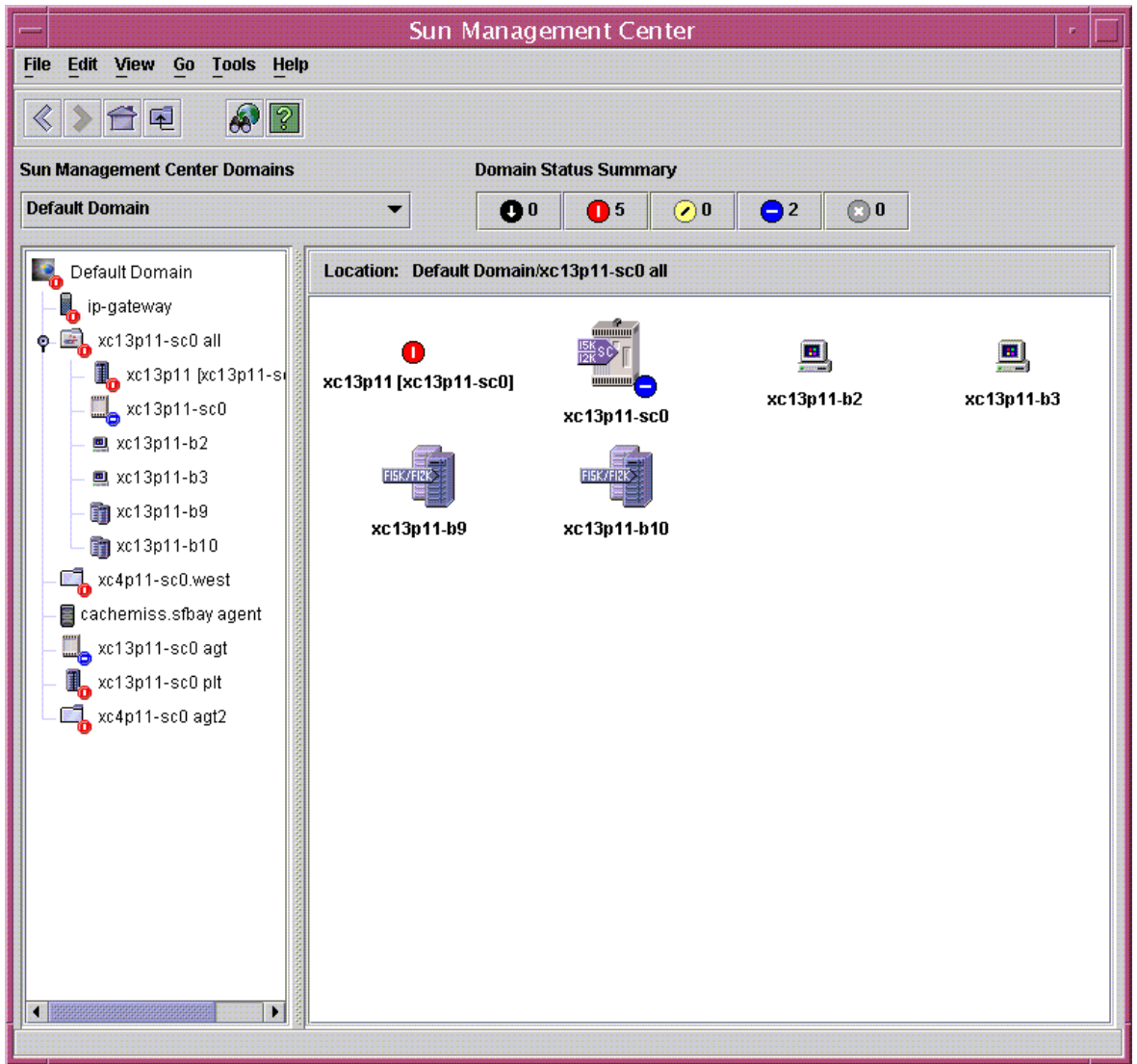


図 4-1 Sun Fire 15K/12K の複合オブジェクトの例

▼ Sun Fire 15K/12K の複合オブジェクトを検出する

この手順についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

1. メインコンソールウィンドウの階層表示で、Sun Management Center ドメイントポロジ内の、Sun Fire 15K/12K 複合オブジェクトを検出する階層を表示します。
2. 「ツール」メニューから「検出」を選択します。
3. 「検出要求」パネルで「追加」をクリックします。
4. 「新しい検出要求」パネルに適切な情報を入力します。
5. Sun Fire 15K/12K 複合オブジェクトが作成されない場合は、64 ページの「複合オブジェクトの障害追跡をする」を参照してください。

注 - 検出要求を行ったときにシステムコントローラがビジーであった場合は、検出要求を再実行するか、検出要求の SNMP タイムアウト値を大きくしてください。

検出要求の次のフィルタオプションを使用して、Sun Fire 15K/12K 複合オブジェクトの検出要求をカスタマイズできます。

- 「プラットフォームタイプ」フィルタ条件 - Sun Fire 15K/12K ドメインやプラットフォームタイプを検出条件に含めたり、検出条件から除外したりできます。
- 「ホスト名」および「オペレーティング環境」フィルタ条件 - 複合オブジェクト内の Sun Fire 15K/12K ドメインホストとシステムコントローラをホスト名またはオペレーティング環境別に選別できます。これらのフィルタ条件によって、Sun Fire 15K/12K プラットフォームオブジェクトが選別されることはありません。
- フィルタ条件によってシステムコントローラが検出対象から除外されても、検出マネージャーは Sun Fire 15K/12K 複合オブジェクトが Sun Management Center ドメインに含まれているかどうかを検査します。

Sun Fire 15K/12K プラットフォーム複合オブジェクトの更新

Sun Fire 15K/12K プラットフォーム複合オブジェクトを作成した後、Sun Management Center 複合トポロジオブジェクトの内容とタイプが変わることはありません。次の場合は、複合オブジェクトを更新する必要があります。

- Sun Fire 15K/12K ドメインがアクティブになった (Solaris オペレーティング環境が実行された)。
- プラットフォーム構成に予備のシステムコントローラが追加されるか、構成から予備のシステムコントローラが削除された。
- Sun Management Center のオブジェクト監視機能によって、正しいモニタータイプが表示されなくなった。たとえば複合オブジェクトを作成したときに Sun Fire 15K/12K ドメイン上で Sun Management Center エージェントが動作していなかった場合、その Sun Fire 15K/12K ドメインには ICMP (Internet Control Message Protocol) Ping 監視タイプのホストオブジェクトが作成されます。Sun Management Center エージェントが再び動作を開始した後で、そのドメインが

「Sun Management Center エージェント - ホスト」タイプとして監視できるようにするには、Sun Fire 15K/12K ドメインホストオブジェクトを更新する必要があります。

注 – Sun Management Center エージェントの動作する Sun Fire 15K/12K ドメインホストが、「Sun Management Center エージェント - ホスト」以外のタイプとして監視されている場合は、システムコントローラプラットフォームの設定で正しい Sun Fire 15K/12K ドメインポートを指定したかどうかを確認してください。

▼ 「トポロジオブジェクトの作成」で作成した複合オブジェクトを更新する

- 「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウを使用して Sun Fire 15K/12K プラットフォーム複合オブジェクトを作成した場合、複合オブジェクトの更新はすべて手動で行う必要があります。
 - Sun Fire 15K/12K 複合オブジェクトを追加または削除した場合は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第3章の説明に従って、そのオブジェクトを作成または削除してください。
 - 監視タイプを変更した場合は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第3章の「オブジェクトの変更」の節の説明に従ってトポロジオブジェクトを変更してください。

注 – かなりの数の変更がある場合は、トポロジから現在の Sun Fire 15K/12K 複合オブジェクトをいったん削除して、再作成した方が簡単なことがあります。その方法については、「Sun Fire 15K/12K の複合オブジェクトを作成する」を参照してください。

▼ 検出で作成された複合オブジェクトを更新する

1. 検出マネージャーによって Sun Fire 15K/12K プラットフォーム複合オブジェクトを作成した場合は、メインのシステムコントローラに対する検出要求を実行することによって更新の多くを行うことができます。この検出要求は、手動で開始することも、予定を作成して定期的に開始することもできます。

検出要求を実行すると、次の変更が行われます。

- 予備のシステムコントローラなどの新規の Sun Fire 15K/12K オブジェクトは、プラットフォーム複合オブジェクトに追加されます。

- オブジェクト監視タイプがより高度な監視機能レベルに変更されている場合は、監視タイプが更新されます。監視機能のレベルは、「ICMP Ping」監視タイプ、「SNMP Ping」監視タイプ、「Sun Management Center エージェント - ホスト」監視タイプの順に高くなります。

検出要求の実行に際しては、次のことに注意してください。

- トポロジオブジェクトはプラットフォーム複合オブジェクトから削除されません。
 - Sun Management Center のコンソールウィンドウからトポロジオブジェクトが変更されている場合、そのオブジェクトの監視タイプは更新されません。
2. トポロジから Sun Fire 15K/12K プラットフォーム複合オブジェクトを削除して、検出要求を実行することによって、プラットフォーム複合オブジェクトを更新することもできます。

▼ 複合オブジェクトの障害追跡をする

Sun Fire 15K/12K プラットフォーム複合オブジェクトを作成できない場合は、次の問題がないか調べてください。

1. 「トポロジオブジェクトの作成」を使用した手順、または検出要求の際に、正しいシステムコントローラのホスト名および Sun Management Center エージェントポート番号を指定したかどうかを確認します。

注 - システムコントローラは、プラットフォームの予備のシステムコントローラではなく、メインのシステムコントローラである必要があります。

2. システムコントローラにログインし、2 つの Sun Management Center エージェントが動作しているかどうかを確認します。

```
SC# ps -ef | grep esd
root 21020 1 2 Mar 10 ? 84:03 esd - init agent -dir
/var/opt/SUNWsymon
root 21858 1 3 Mar 10 ? 103:07 esd - init platform -dir
/var/opt/SUNWsymon
```

3. 検出要求を再実行してみるか、検出要求の SNMP タイムアウト値を大きくしてみます。
4. 66 ページの「Sun Fire 15K/12K のプラットフォームオブジェクトを作成する」の説明に従ってノードを作成することによって、直接 Sun Fire 15K/12K プラットフォームオブジェクトを作成します。

- プラットフォームの詳細ウィンドウの「ブラウザ」タブの内容を調べて、「ハードウェア」に「構成リーダー (Sun Fire 15K)」モジュールが読み込まれていて、使用不可になっていないことを確認します。Sun Fire 15K/12K プラットフォーム複合オブジェクトに含まれているオブジェクトは、このモジュールの提供する検出オブジェクトテーブルに定義されています。
- システムコントローラ上で次のコマンドを実行して、検出テーブルが正しく作成されていることを確認します。

```
SC# /opt/SUNWsymon/sbin/es-dt -v
```

出力が得られないか、次の例に含まれている情報がない場合、検出テーブルは正しく作成されていません。

Label	Sun-Fire-15K-12K
Host	<ホスト名>
Port	<ポート番号>
OID	1.3.6.1.4.1.42.2.85.1.1.22
Node Object Type	Sun-Fire-15K-12K-platform-group

この種の出力が得られない場合は、手順 5 からやり直してください。それでも作成されない場合は、購入先に連絡してください。

Sun Fire 15K/12K のプラットフォームオブジェクト

Sun Fire 15K/12K のプラットフォーム情報は、メインのシステムコントローラ上で動作する Sun Management Center プラットフォームエージェントによって提供されます。予備のシステムコントローラが構成されている場合は、Sun Fire 15K/12K プラットフォーム複合オブジェクトに 2 つの Sun Fire 15K/12K プラットフォームオブジェクトが存在することになります。Sun Fire 15K/12K プラットフォーム情報は、メインのシステムコントローラのプラットフォームオブジェクトからのみ得ることができます。プラットフォームオブジェクトを複合オブジェクトの一部として作成した場合、そのプラットフォームオブジェクト名には、対応する SSP 名が角括弧付きで含まれます。予備のシステムコントローラオブジェクトと関係する予備の Sun Fire 15K/12K プラットフォームトポロジオブジェクトには、メインのトポロジオブジェクトと区別するために、右下に丸で囲まれた X が表示されます (表 4-1)。

メインおよび予備のシステムコントローラに **Sun Management Center** をインストール・設定して、**Sun Fire 15K/12K** プラットフォームオブジェクトを作成した後、予備のシステムコントローラが代理のメインシステムコントローラになったとしても、**Sun Management Center** の構成を変更する必要はありません。予備から代理のメインシステムコントローラへの切り替えが発生すると、代理のメインシステムコントローラ上のプラットフォームエージェントがアクティブになって、**Sun Fire 15K/12K** プラットフォームに関する最新の情報を収集します。

必ずしも、新たにアクティブになったプラットフォームエージェントから、この切り替えの前に入手可能であったすべての情報を入手できるわけではありません。ドメインの停止回数 (dstops) と記録の停止回数 (rstops) はゼロにリセットされます。高温などのエラーは、その状態が持続している場合にのみ報告されます。

予備およびメインのシステムコントローラ上の **Sun Management Center** エージェントの同期が自動的に取られることはありません。メインまたは予備のいずれかのシステムコントローラ上の **Sun Management Center** エージェントのデフォルトのしきい値、属性、読み込み済みモジュールを変更した場合は、もう一方のシステムコントローラ上で動作するエージェントも変更してください。

▼ Sun Fire 15K/12K のプラットフォームオブジェクトを作成する

Sun Fire 15K/12K のプラットフォームオブジェクトは、**Sun Fire 15K/12K** 複合オブジェクトの一部として作成されます。直接、プラットフォームオブジェクトを作成することもできます。

1. 『**Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド**』の第3章の「ノードを作成する」の手順に従って、**Sun Fire 15K/12K** プラットフォームオブジェクトを作成します。
2. 上記手順の手順3で「監視ツール」プルダウンメニューから監視タイプとして「エージェント - プラットフォーム」を選択します。
3. 上記手順の手順4で必要な情報を入力します。

注 - プラットフォームエージェント用のデフォルトのポート番号は166です。**Sun Management Center** の設定で別のポートを割り当てたのでない限り、このポート番号を変更しないでください。

4. 「了解」をクリックします。

第5章

Sun Fire 15K/12K システムの詳細 ウィンドウ

この章では、Sun Fire 15K/12K システムのプラットフォーム、ドメイン、システムコントローラの詳細ウィンドウからハードウェアの概要、物理、論理表示を行う方法を説明します。表 5-1 は、Sun Fire 15K/12K システムの詳細ウィンドウから見ることが可能な Sun Fire 15K/12K システムの Sun Management Center エージェントモジュールの一覧です。

表 5-1 詳細ウィンドウから見ることが可能な Sun Fire 15K/12K エージェントモジュール

モジュール名	詳細ウィンドウ
プラットフォーム構成リーダー (PCR)	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム
プラットフォーム / ドメインの状態管理 (PDSM)	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム
SC 監視モジュール (SCM)	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム
ドメイン構成リーダー (DCR)	Sun Fire 15K/12K ドメイン
動的再構成 (DR)	Sun Fire 15K/12K ドメイン
SC 構成 リーダー	Sun Fire 15K/12K システムコントローラ
SC の状態	Sun Fire 15K/12K システムコントローラ

これらのモジュールは、Sun Fire 15K/12K ハードウェアの監視および管理機能を提供するとともに、Sun Fire 15K/12K の複合の構成に関する情報を提供します。これらのモジュールが提供するオブジェクトおよび属性の詳細は、このマニュアルの第 6 章を参照してください。Sun Fire 15K/12K プラットフォームとドメインの再構成およびその他の管理操作についての詳細は、第 7 章と第 8 章を参照してください。

この章では、詳細ウィンドウに表示される Sun Fire 15K/12K プラットフォームとシステムコントローラ、ドメイン情報について詳しく説明します。Sun Management Center の詳細ウィンドウの使用方法に関する全般的な情報は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の次の 2 つの章を参照してください。

- 第 5 章「Sun Management Center でのオブジェクト管理」 - Sun Management Center のメインコンソールウィンドウの使用方法を説明しています。
- 第 6 章「管理オブジェクトの詳細表示」 - Sun Management Center のメインコンソールウィンドウから詳細ウィンドウを表示する方法を説明しています。

注 - Sun Fire 15K/12K プラットフォームの構成リーダーモジュールは、プラットフォームに接続されている入出力装置の構成情報を提供しません。入出力装置の情報を見るには、調べようとする装置の存在する Sun Fire 15K/12K ドメインの詳細ウィンドウを開いてください。

「ハードウェア」タブの表示

Sun Fire 15K/12K プラットフォーム、ドメイン、SC の詳細ウィンドウの「ハードウェア」タブからは、以下の 3 種類の表示にアクセスできます。

- ハードウェアの概要
- 物理表示
- 論理表示

ハードウェアの概要

ハードウェアの概要は、そのエンティティからアクセス可能な資源を表にまとめたものです。

物理表示

物理表示は、Sun Fire 15K/12K システムの写真画質の画像を提供します。物理表示には、プラットフォームのシャーシ内に見えるコンポーネントだけ表示されます。たとえばセンタープレーンボードや入出力装置は物理表示されません。このような装置の情報を表示するには、論理表示またはブラウザ表示を使用します。

論理表示

論理表示は、そのエンティティ内のボードおよびコンポーネントを階層表示します。シャーシ内で物理的に見ることができるボードとコンポーネントだけを表示する物理表示と異なり、論理表示では、センタープレーンや入出力装置などのあらゆるボードとコンポーネントが表示されます。

Sun Fire 15K/12K プラットフォームの詳細ウィンドウ

Sun Fire 15K/12K プラットフォームに関する Sun Management Center 詳細ウィンドウには、プラットフォーム全体のハードウェア情報が表示されます。このウィンドウには、次のタブボタンが含まれます。これらのボタンについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 6 章を参照してください。

- 情報
- ブラウザ
- アラーム
- ハードウェア

注 – Sun Fire 15K/12K プラットフォームの詳細ウィンドウにこれらのタブが表示されないということは、Sun Fire 15K/12K サポート機能が Sun Management Center サーバマシンに正しくインストールされていないことを意味します。Sun Fire 15K/12K 用の追加コンポーネントのインストールと設定を正しく完了して、インストール後に Sun Management Center サーバプロセスを再起動していることを確認してください。

Sun Fire 15K/12K プラットフォームは、システムコントローラ上の Sun Management Center プラットフォームエージェントによって監視されます。プラットフォームエージェントは監視専用であるため、Sun Fire 15K/12K プラットフォームの詳細ウィンドウからエージェントモジュールを読み込んだり、読み込みを解除したりすることはできません。

ここでは、Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーモジュールが提供する情報を表示する「ハードウェア」タブの使用方法を説明します。この構成リーダーモジュールは、プラットフォームのハードウェアに関する次のような最新情報を提供します。

- 電圧と温度
- すべてのボード
- 電源装置
- ファントレイ

- 検出されたハードウェアエラー (ドメインの停止回数 (dstop) など)

▼ Sun Fire 15K/12K プラットフォームのハードウェアの概要を表示する

Sun Fire 15K/12k システムコントローラのハードウェア資源の概要を表示するには、以下の操作をします (図 5-1)。

1. Sun Fire 15K/12K プラットフォームの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「ハードウェアの概要」を選択します。

sun15 [xc4p11-sc0] Details

sun15 [xc4p11-sc0]

Info Browser Alarms Hardware

Views Hardware Summary

Sun Fire 15K/12K Platform Information:

Property	Value
Platform Name	sun15
Main System Controller Hostname	xc4p11-sc0
Spare System Controller Hostname	xc4p11-sc1
Main System Controller	SC0
Number of Active Domains	1

Sun Fire 15K/12K Platform Hardware Resources:

Property	Value
Number of Expander Boards	8
Number of Slot0 System Boards	8
Number of Slot1 System Boards	7
Number of System Controllers	2
Number of System Controller Peripherals	2
Number of Centerplanes	1
Number of Centerplane Support Boards	2
Number of Fan Trays	8
Number of Bulk Power Supplies	6
Total Memory (MB)	8192
Total Processors	8

Close Help

Loading Hardware Resource failed.

図 5-1 Sun Fire 15K/12K プラットフォームのハードウェアの概要

図 5-1 に示す Sun Fire 15K/12K プラットフォームの情報には、以下の属性が含まれています (表 5-2)。

表 5-2 Sun Fire 15K/12K プラットフォームの情報

属性	説明
プラットフォーム名	SMS の設定中にプラットフォームに割り当てられた名前
メインシステムコントローラのホスト名	メインのシステムコントローラのホスト名
スペアシステムコントローラのホスト名	スペアのシステムコントローラのホスト名
メインシステムコントローラ	現在メインのシステムコントローラの識別子 (SC0 か SC1)
アクティブなドメイン数	Sun Fire 15K プラットフォームまたは Sun Fire 12K プラットフォームのアクティブなドメイン数 (15K で最高 18 個、12K で最高 9 つ)

図 5-1 に示す Sun Fire 15K/12K プラットフォームのハードウェア資源の表には、以下の属性が含まれています (表 5-3)。

表 5-3 Sun Fire 15K/12K プラットフォームのハードウェア資源

属性	説明
拡張ボード数	拡張ボード数
スロット 0 のシステムボード数	スロット 0 のシステムボード数
スロット 1 のシステムボード数	スロット 1 のシステムボード数
システムコントローラ数	システムコントローラ数
システムコントローラの周辺装置数	システムコントローラの周辺装置数
センタープレーン数	Sun™ Fireplane のインターコネクト (センタープレーンともいう) 数
センタープレーンのサポートボード数	センタープレーンサポートボード数
ファントレイ数	ファントレイ数
バルク電源装置数	バルク電源装置数
総メモリー容量 (M バイト)	電源投入時セルフテスト (POST) で構成された総メモリー容量 (M バイト単位)
総プロセッサ数	POST で構成された総プロセッサ数

▼ Sun Fire 15K/12K プラットフォームの物理表示 をする

Sun Fire 15K/12K プラットフォームの写真画質の画像を表示するには、以下の操作をします (図 5-2)。

1. Sun Fire 15K/12K プラットフォームの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「物理表示」の下の「システム」をクリックします。
4. プラットフォームの正面を表示するには、「現在の表示の回転」プルダウンメニューから「システム」->「正面」をクリックします。

図 5-2 は、Sun Fire 15K/12K プラットフォームを正面から見たときの物理表示です。物理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

注 – Sun Fire 15K/12K プラットフォームの物理表示には、存在していることが判明しているプロセッサだけ表示され、存在していることが判明していないプロセッサは表示されません。たとえば、「プロセッサ」テーブルで POST 状態が BLACKLISTED のプロセッサは、実際に存在していることもあれば、存在していないこともあります。が、プラットフォームの物理表示には表示されません。



図 5-2 Sun Fire 15K/12K プラットフォームの物理表示 - 正面

5. CPU ボードの上面を物理表示するには、Sun Fire 15K/12K プラットフォームの上のスロットの CPU ボードの 1 つをクリックします (図 5-3)。

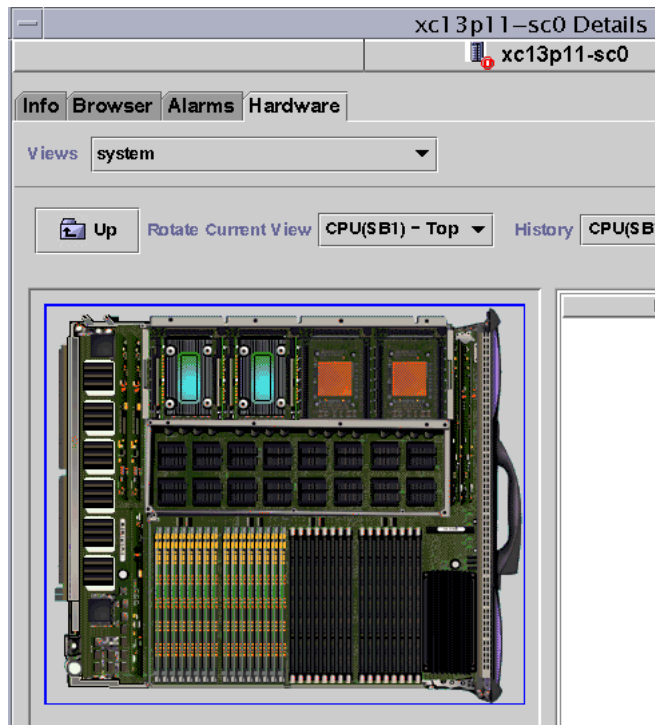


図 5-3 プラットフォームの物理表示における CPU ボードの上面

▼ Sun Fire 15K/12K プラットフォームの論理表示をする

Sun Fire 15K/12K プラットフォームの論理表示には、システムに接続されているすべてのボードとコンポーネントが階層表示されます。Sun Fire 15K/12K プラットフォームを階層表示するには、以下の操作をします。

1. Sun Fire 15K/12K プラットフォームの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「論理表示」の下の「システム」をクリックします。
4. 図 5-4 に示すような論理表示をするには、「すべて開く」ボタンをクリックして、左区画内のオブジェクトをクリックします。

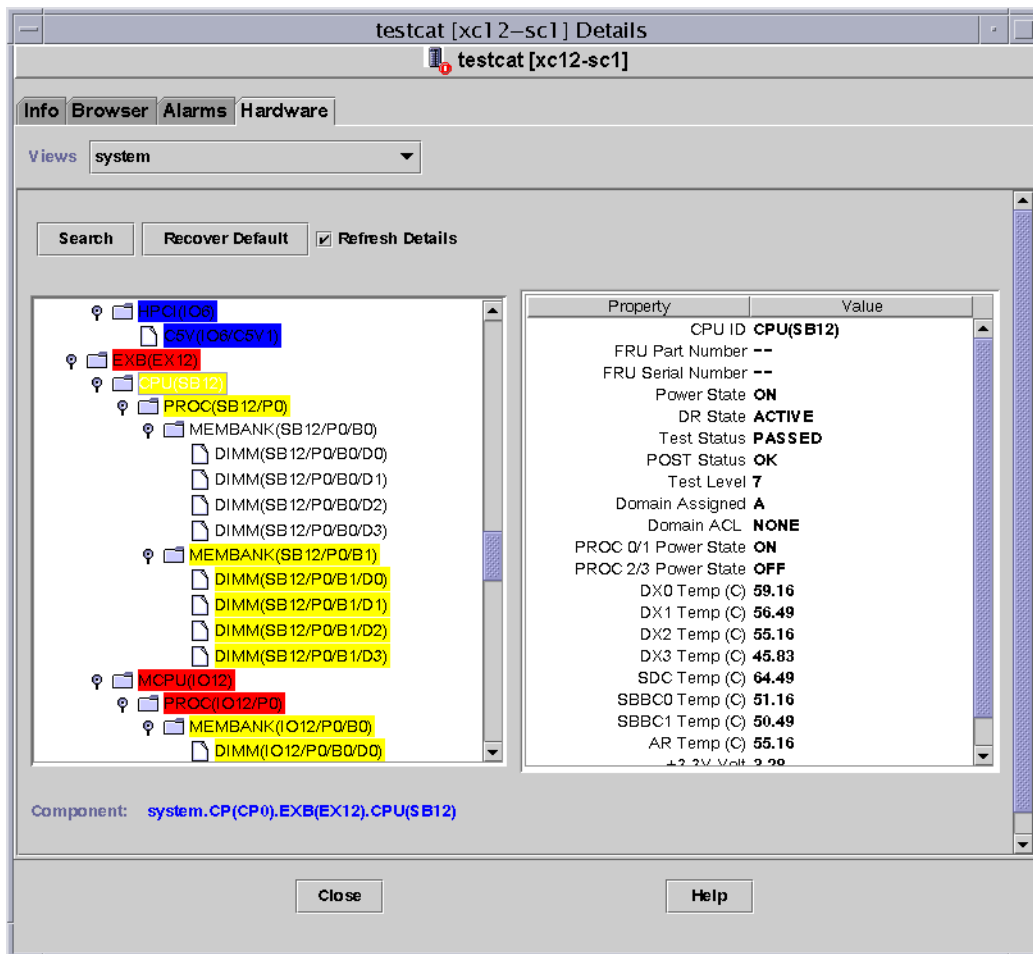


図 5-4 Sun Fire 15K/12K プラットフォームの論理表示

論理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

Sun Fire 15K/12K ドメインの詳細ウィンドウ

Sun Fire 15K/12K のドメインに関する Sun Management Center 詳細ウィンドウには、特定の 1 つのドメインのハードウェア情報が表示されます。Sun Fire 15K/12K ドメインの詳細ウィンドウは、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 6 章で説明しているホストの詳細ウィンドウに似ています。

詳細ウィンドウで提供されるのは、Sun Fire 15K/12K ドメインに割り当てられているボードとコンポーネントに関する情報だけです。プラットフォーム全体のハードウェア構成に関する情報は、Sun Fire 15K/12K プラットフォームの詳細ウィンドウで見ることができます。詳細は、69 ページの「Sun Fire 15K/12K プラットフォームの詳細ウィンドウ」を参照してください。

ドメインの詳細ウィンドウには、次のタブボタンが含まれます。これらのボタンについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 6 章を参照してください。

- 情報
- ブラウザ
- アラーム
- モジュール
- アプリケーション
- ハードウェア

注 – Sun Fire 15K/12K ドメインの詳細ウィンドウに上記の 6 つのタブが表示されないということは、Sun Fire 15K/12K サポート機能が Sun Management Center サーバマシンに正しくインストールされていないことを意味します。Sun Fire 15K/12K 用の追加コンポーネントのインストールと設定を正しく完了していて、インストール後に Sun Management Center サーバプロセスを再起動していることを確認してください。

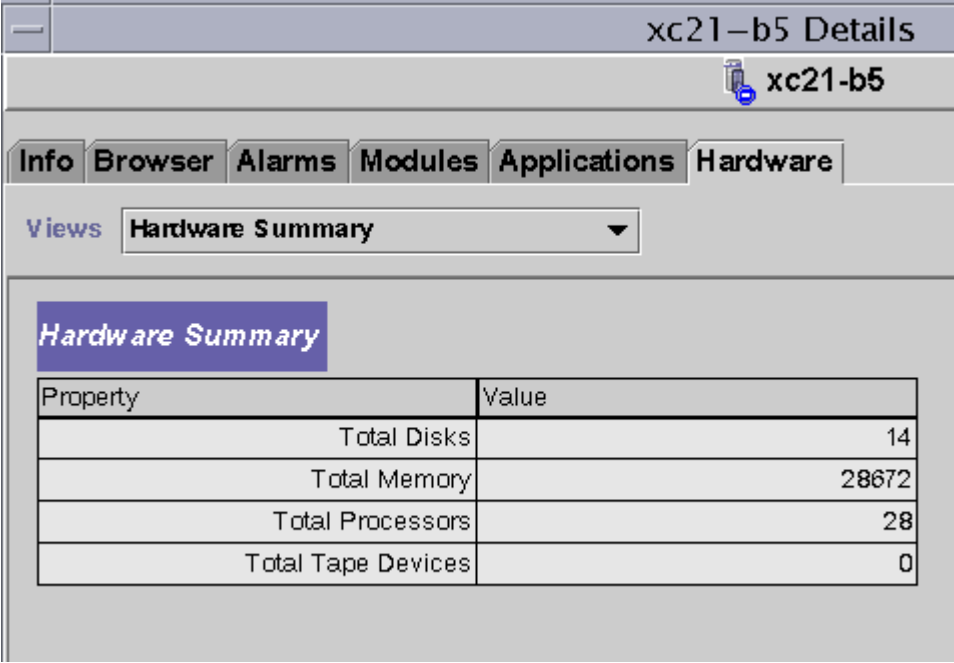
ここでは、Sun Fire 15K/12K ドメインの構成リーダーモジュールが提供する情報を表示する「ハードウェア」タブの使用方法を説明します。この構成リーダーモジュールは、システムボードおよびそれらシステムボードに搭載されている次のコンポーネントに関する最新の情報を提供します。

- プロセッサ
- メモリー
- 接続されている入出力装置

▼ Sun Fire 15K/12K ドメインのハードウェアの概要を表示する

Sun Fire 15K/12K ドメインのハードウェア資源の概要を表示するには、以下の操作をします (図 5-5)。

1. Sun Fire 15K/12K ドメインの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「ハードウェアの概要」を選択します。



The screenshot shows a web-based management interface for a Sun Fire 15K/12K domain. The window title is "xc21-b5 Details". Below the title bar, there is a sub-header "xc21-b5" with a small icon. A navigation bar contains tabs for "Info", "Browser", "Alarms", "Modules", "Applications", and "Hardware", with "Hardware" being the active tab. Below the tabs, there is a "Views" dropdown menu currently set to "Hardware Summary". The main content area displays a "Hardware Summary" section with a table of hardware properties.

Property	Value
Total Disks	14
Total Memory	28672
Total Processors	28
Total Tape Devices	0

図 5-5 Sun Fire 15K/12K ドメインのハードウェアの概要

図 5-5 に示す Sun Fire 15K/12K ドメインの情報は、以下の属性が含まれています (表 5-4)。

表 5-4 Sun Fire 15K/12K ドメインのハードウェアの概要

属性	説明
総ディスク数	システムに存在するディスク数
総メモリー容量	総メモリー容量 (メガバイト単位)
総プロセッサ数	ドメインに割り当てられている全プロセッサを含むプロセッサ数
総テープデバイス数	システムに存在するテープデバイス数

▼ Sun Fire 15K/12K ドメインの物理表示をする

Sun Fire 15K/12K ドメインの物理表示の画像には、電源装置やファントレー、システムコントローラ、システムコントローラの周辺装置の部分が選択不可能な部分として表示されます。物理表示からアクセスできるのは、ドメインのシステムボードの情報だけです。

Sun Fire 15K/12K ドメインのシステムボードの写真画質の画像を表示するには、以下の操作をします (図 5-6)。

1. Sun Fire 15K/12K ドメインの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「物理表示」の下の「システム」をクリックします。
4. 実際にプラットフォームの正面に存在していて、ドメインに割り当てられているシステムボードを見るには、「現在の表示の回転」プルダウンメニューから「システム」->「正面」をクリックします。

図 5-6 は、実際に Sun Fire 15K/12K プラットフォームの正面に存在していて、ドメインに割り当てられているシステムボードの物理表示の例です。物理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

注 - 物理表示されるドメインのシャーシ画像は、ファントレーと電源装置が選択不可になったプラットフォームの画像と同じです。

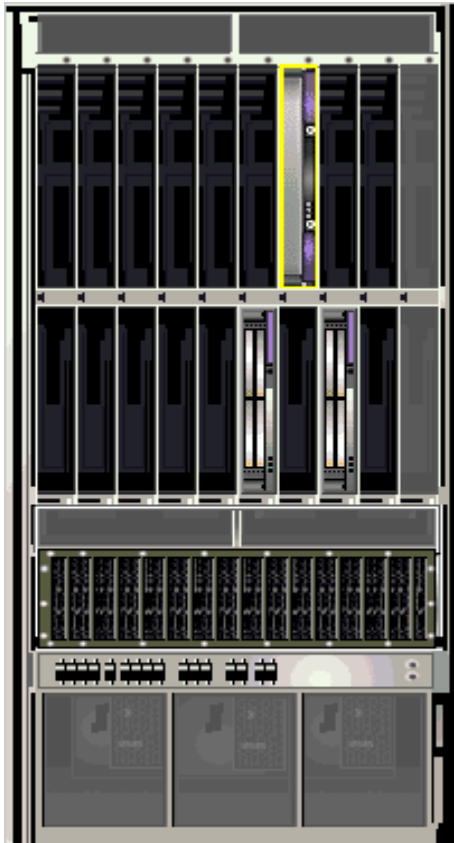


図 5-6 Sun Fire 15K/12K ドメインの物理表示 - 正面

5. HPCI ボードの上面を物理表示するには、Sun Fire 15K/12K ドメインの下のスロットの HPCI ボードの 1 つをクリックします (図 5-7)。

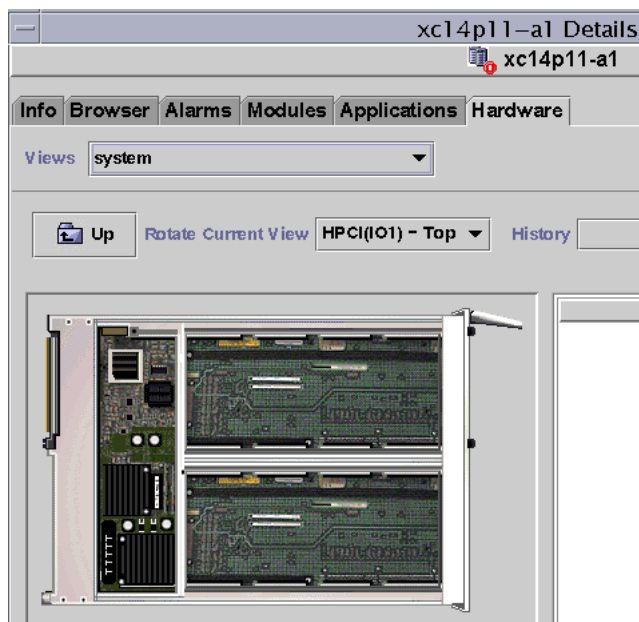


図 5-7 ドメインの物理表示における HPCI ボードの上面

▼ Sun Fire 15K/12K ドメインの論理表示をする

Sun Fire 15K/12K ドメインの論理表示には、ドメインに接続されているすべてのボードとコンポーネントが階層表示されます。Sun Fire 15K/12K ドメインを階層表示するには、以下の操作をします。

1. Sun Fire 15K/12K ドメインの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「論理表示」の下の「システム」をクリックします。
4. 図 5-8 に示すような論理表示をするには、「すべて開く」ボタンをクリックして、左区画内のオブジェクトをクリックします。

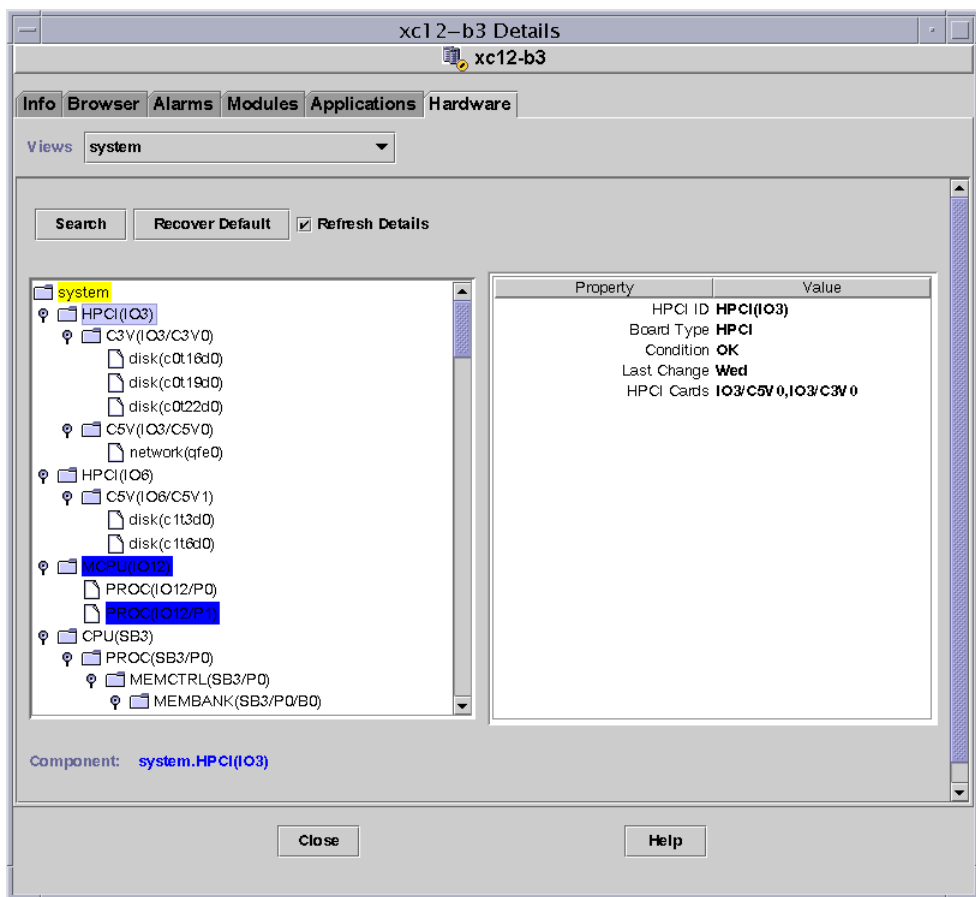


図 5-8 Sun Fire 15K/12K ドメインの論理表示

論理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

Sun Fire 15K/12K SC の詳細ウィンドウ

Sun Fire 15K/12K SC に関する Sun Management Center 詳細ウィンドウには、システムコントローラのハードウェア情報が表示されます。Sun Fire 15K/12K SC の詳細ウィンドウは、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』で説明しているホストの詳細ウィンドウに似ています。

詳細ウィンドウで提供されるのは、Sun Fire 15K/12K のシステムコントローラに割り当てられているボードとコンポーネントに関する情報だけです。プラットフォーム全体のハードウェア構成に関する情報は、Sun Fire 15K/12K プラットフォームの詳細ウィンドウで見ることができます。詳細は、69 ページの「Sun Fire 15K/12K プラットフォームの詳細ウィンドウ」を参照してください。

このウィンドウには、次のタブボタンが含まれます。これらのボタンについての詳細は『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

- 情報
- ブラウザ
- アラーム
- モジュール
- アプリケーション
- ハードウェア

注 – Sun Fire 15K/12K SC の詳細ウィンドウに上記の 6 つのタブの 1 つでも表示されないということは、Sun Fire 15K/12K サポート機能が Sun Management Center サーバマシンに正しくインストールされていないことを意味します。Sun Fire 15K/12K 用の追加コンポーネントのインストールと設定を正しく完了していて、インストール後に Sun Management Center サーバプロセスを再起動していることを確認してください。

ここでは、Sun Fire 15K/12K SC の構成リーダーモジュールが提供する情報を表示する「ハードウェア」タブの使用方法を説明します。この構成リーダーモジュールは、システムボードおよびそれらシステムボードに搭載されている次のコンポーネントに関する最新の情報を提供します。

- プロセッサ
- メモリー
- 接続されている入出力装置

▼ Sun Fire 15K/12K システムコントローラのハードウェアの概要を表示する

Sun Fire 15K/12K システムコントローラのハードウェア資源の概要を表示するには、以下の操作をします (図 5-9)。

1. Sun Fire 15K/12K SC の詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「ハードウェアの概要」を選択します。

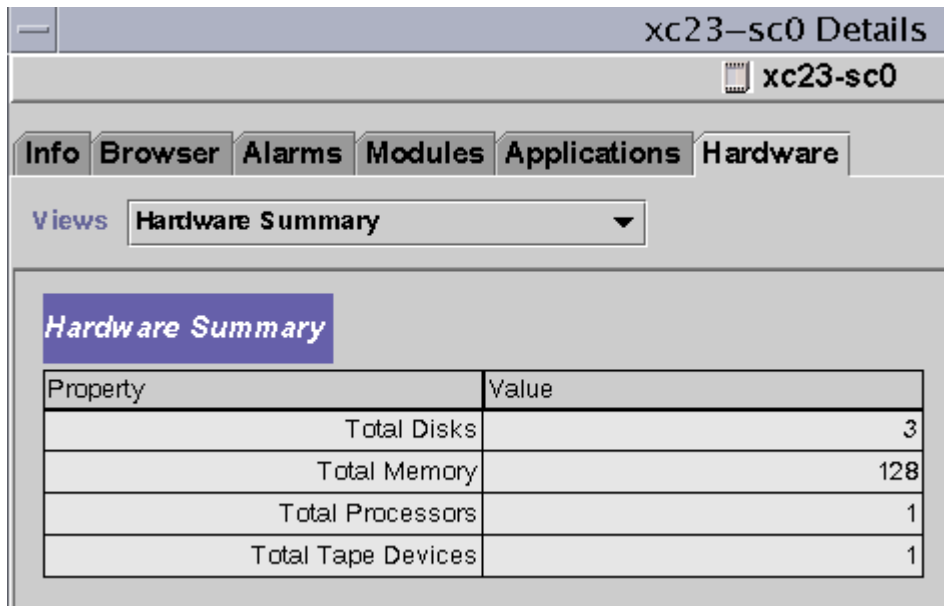


図 5-9 Sun Fire 15K/12K システムコントローラのハードウェアの概要

図 5-9 に示す Sun Fire 15K/12K SC の情報には、以下の属性が含まれています (表 5-5)。

表 5-5 Sun Fire 15K/12K SC のハードウェアの概要

属性	説明
総ディスク数	システムに存在するディスク数
総メモリー容量	総メモリー容量 (メガバイト単位)
総プロセッサ数	システムコントローラに存在するプロセッサ数
総テープデバイス数	システムに存在するテープデバイス数

▼ Sun Fire 15K/12K システムコントローラの物理表示をする

システムコントローラは、Sun Fire 15K/12K プラットフォームの右上にあります。Sun Fire 15K/12K システムコントローラの写真画質の画像を表示するには、以下の操作をします (図 5-10)。

1. Sun Fire 15K/12K SC の詳細ウィンドウを開きます。

2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「物理表示」の下の「システム」をクリックします。
4. プラットフォームの正面からシステムコントローラを見るには、「現在の表示の回転」プルダウンメニューから「システム」->「正面」をクリックします。

注 - 物理表示されるシステムコントローラのシャーンシ画像は、システムコントローラのスロットが埋まっていることを除けば、プラットフォームの画像と同じです。

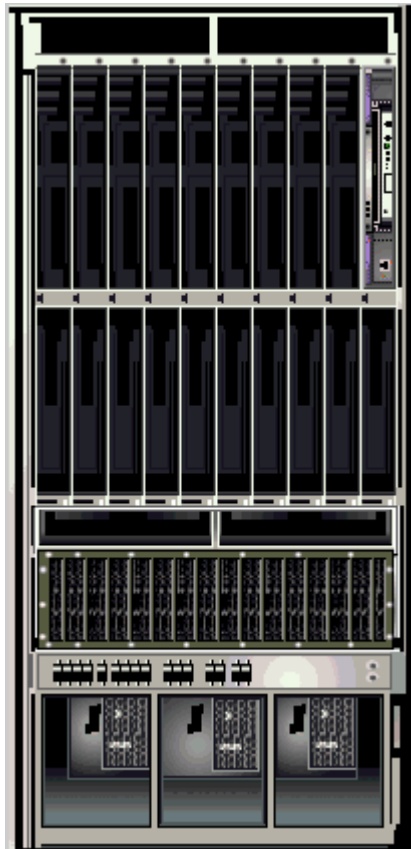


図 5-10 Sun Fire 15K/12K システムコントローラの物理表示 - 正面

5. システムコントローラの上を物理表示するには、Sun Fire 15K/12K プラットフォームの右上のシステムコントローラをクリックします (図 5-11)。

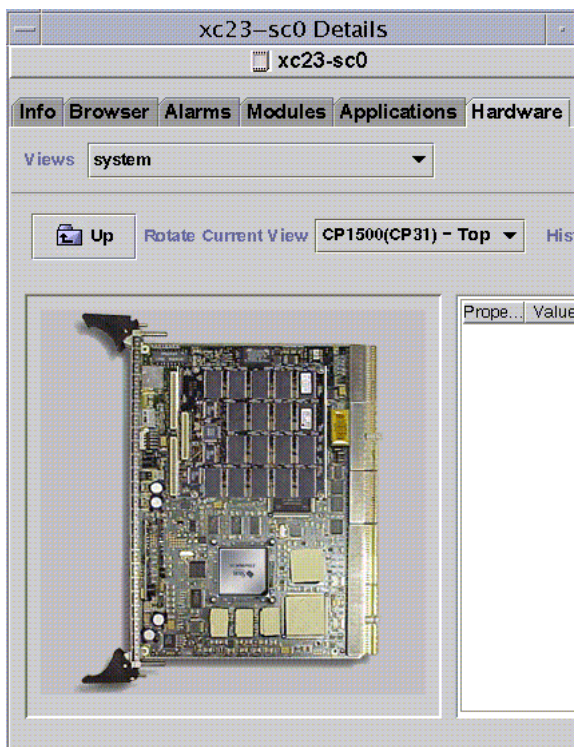


図 5-11 システムコントローラ上面の物理表示

図 5-11 は、システムコントローラの上面の物理表示です。

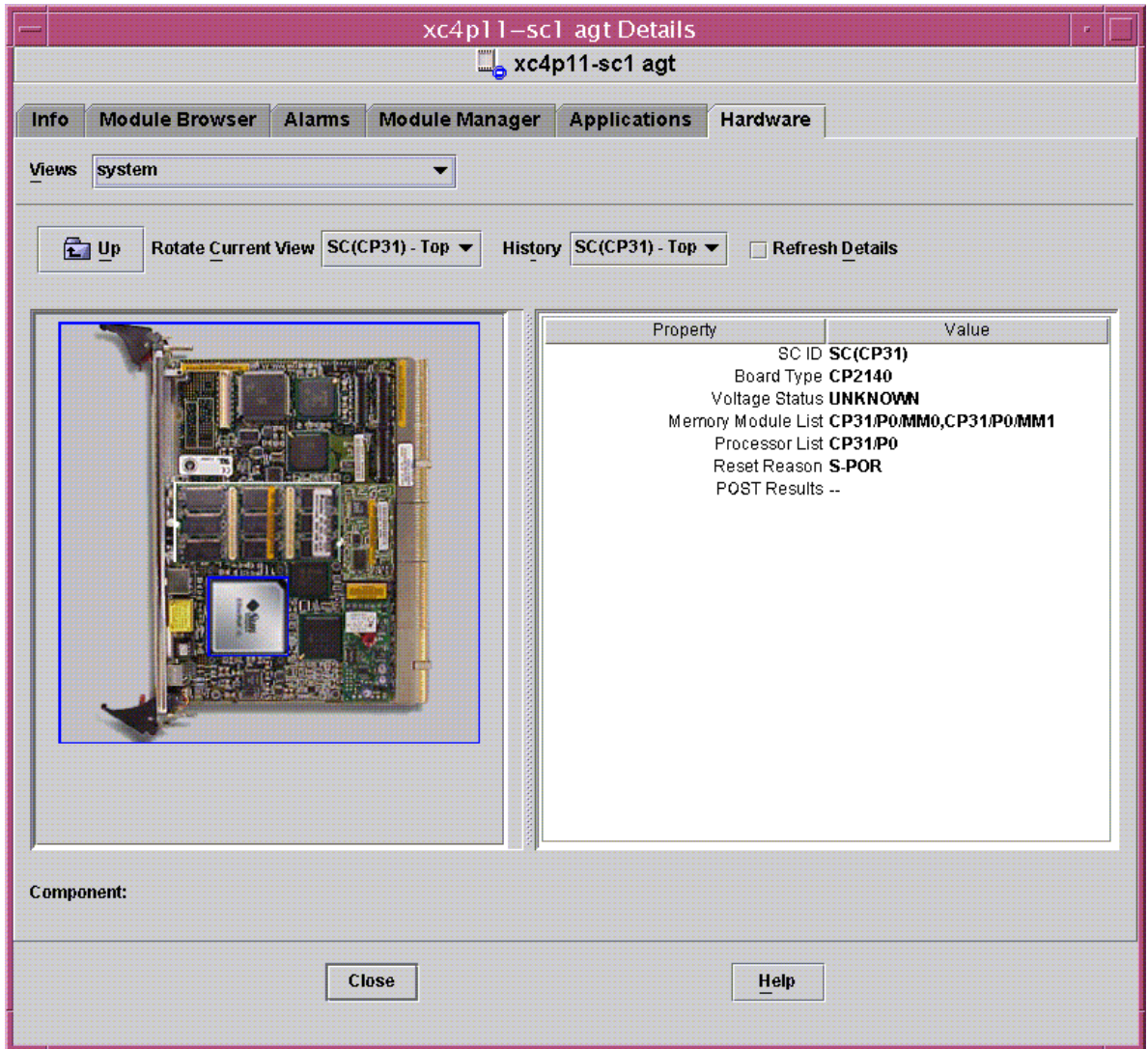


図 5-12 CP2140 システムコントローラ上面の物理表示

図 5-12 は、CP2140 システムコントローラの上面の物理表示です。

物理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

▼ Sun Fire 15K/12K システムコントローラの論理表示をする

システムコントローラの論理表示には、システムコントローラに接続されているすべてのボードとコンポーネントが階層表示されます。システムコントローラは、CP1500 または CP2140 のどちらかです。Sun Fire 15K/12K システムコントローラを階層表示するには、以下の操作をします。

1. Sun Fire 15K/12K SC の詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「論理表示」の下の「システム」をクリックします。
4. 論理表示をするには、「すべて開く」ボタンをクリックして、左区画内のオブジェクトをクリックします。

図 5-13 は、CP1500 システムコントローラの論理表示を示しています。

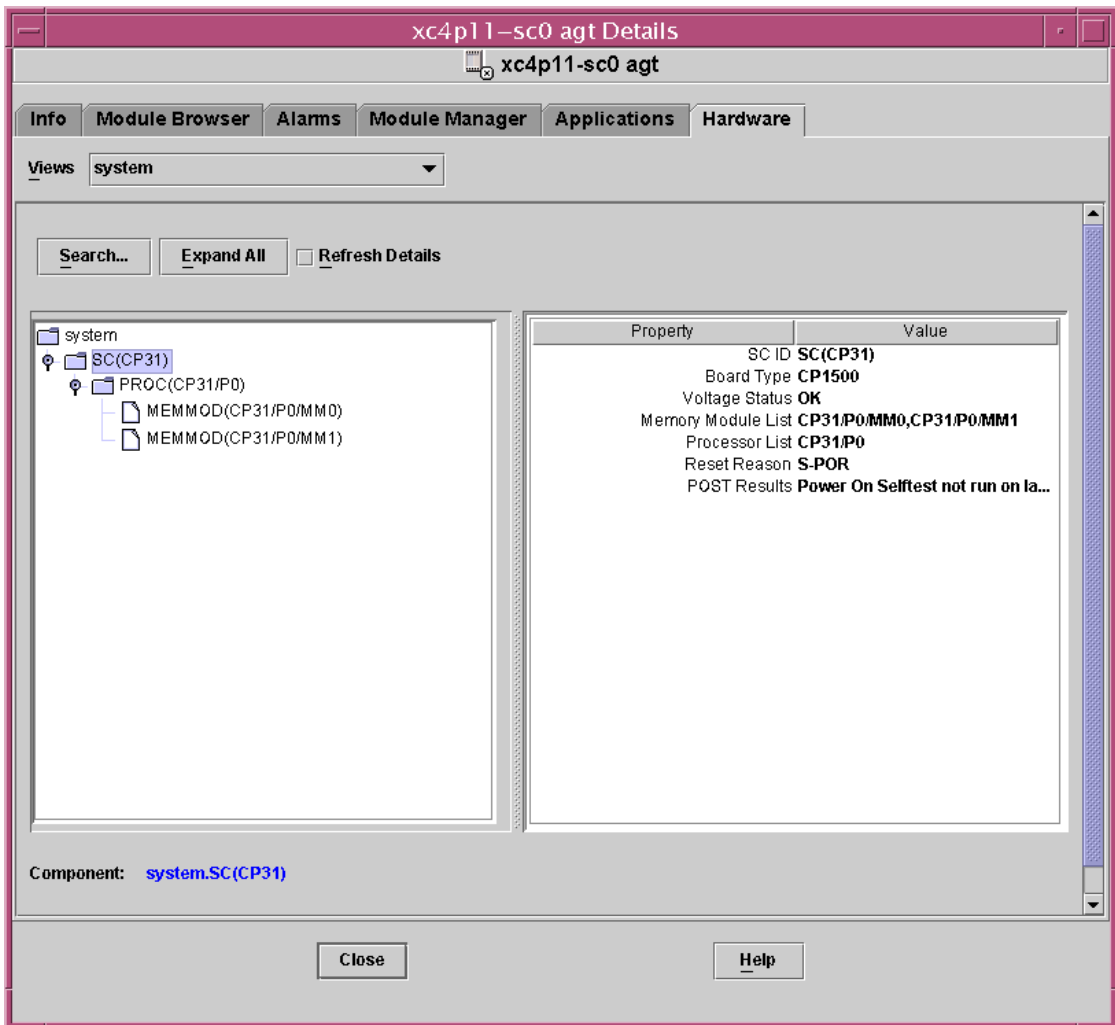


図 5-13 Sun Fire 15K/12K システムコントローラ (CP1500) の論理表示

図 5-14 は、CP2140 システムコントローラの論理表示を示しています。

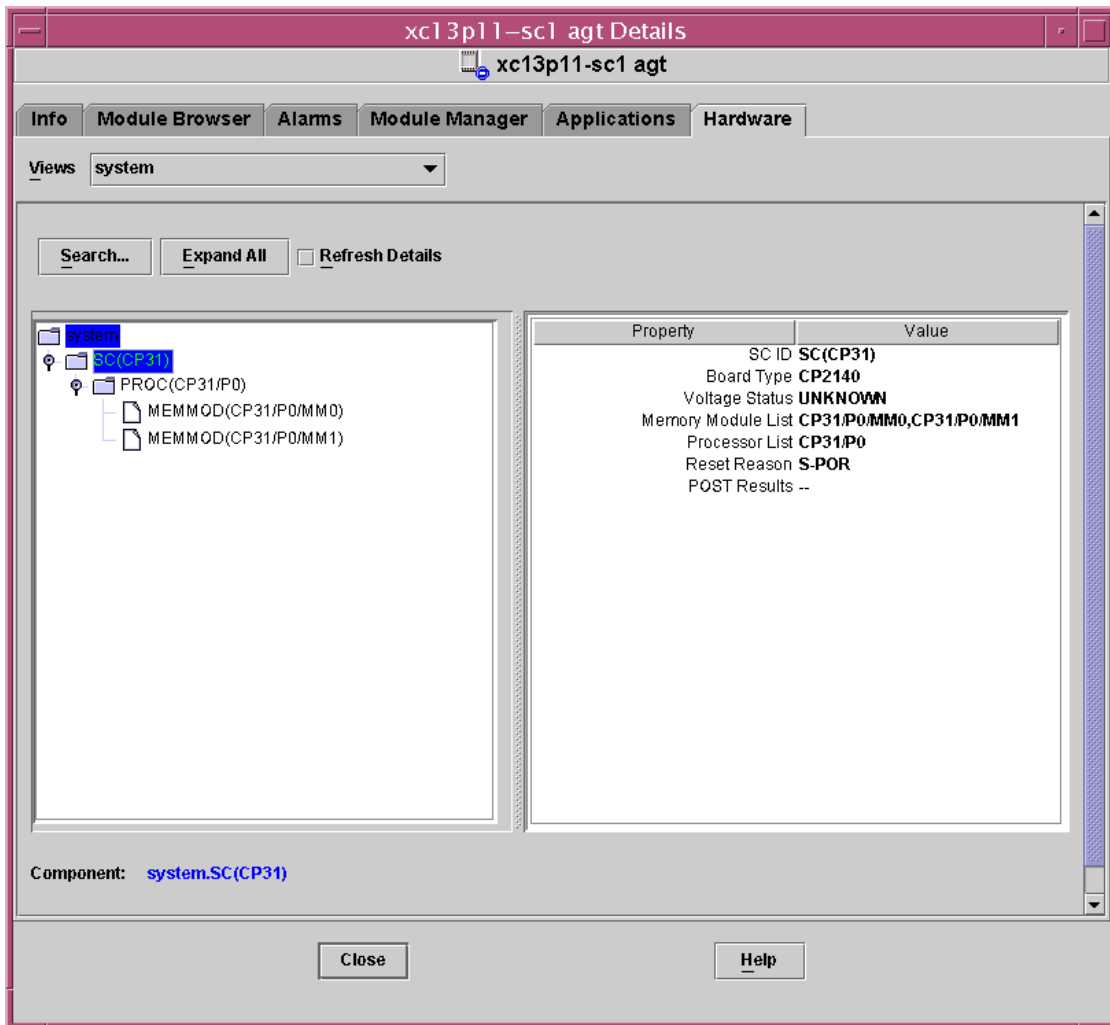


図 5-14 Sun Fire 15K/12K システムコントローラ (CP2140) の論理表示

論理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

第6章

Sun Fire 15K/12K 用エージェントモジュール

この章では、Sun Fire 15K/12K システムに固有のエージェントモジュールを開く方法と、各モジュールのテーブル、属性、アラーム規則について説明します。

表 6-1 は、各 Sun Fire 15K/12K システム専用のモジュールを示して、簡単に説明するとともに、モジュールがデフォルトで読み込まれるかどうか、読み込みまたは読み込み解除が可能であるかどうかを示しています。Sun Management Center のモジュールの読み込みおよび読み込み解除の具体的な情報は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

表 6-1 Sun Fire 15K/12K 用のエージェントモジュールの概要

モジュール	説明	読み込まれる場所 ¹	デフォルトでの読み込み?	読み込み可能?	読み込み解除可能?
プラットフォーム構成リーダー	Sun Fire 15K/12K プラットフォーム全体のハードウェア構成に関する情報を提供	SC 上のプラットフォームエージェント	はい	いいえ	いいえ
ドメイン構成リーダー	Sun Fire 15K/12K ドメインのハードウェア構成情報を提供	ドメイン	はい	はい	はい
SC 構成リーダー	Sun Fire 15K/12K システムコントローラ (SC) のハードウェア構成情報を提供	SC 上の主要エージェント	はい	はい	はい
SC の状態	Sun Fire 15K/12K システムコントローラがメインまたは予備のどちらであるかを確認	SC 上の主要エージェント	はい	はい	はい

表 6-1 Sun Fire 15K/12K 用のエージェントモジュールの概要 (続き)

モジュール	説明	読み込まれる場所 ¹	デフォルトでの読み込み?	読み込み可能?	読み込み解除可能?
SC の監視	アクティブな Sun Fire 15K/12K システムコントローラ上の SMS (System Management Services) デーモンを監視	SC 上のプラットフォームフォームエージェント	はい	はい	はい
プラットフォーム / ドメインの状態管理	プラットフォームおよびドメインの管理と、システムコントローラからのプラットフォーム全体のシステムボードの大域的な DR 構成を可能にする。	SC 上のプラットフォームフォームエージェント	いいえ	はい	はい
動的再構成 (DR)	1 つの Sun Fire 15K/12K ドメインのボードを一度に DR 構成することを可能にする。	ドメイン	いいえ	はい	はい

1. SC 上のどのエージェントにどのモジュールが読み込まれるのかに特に注意してください。SC 上の適切なエージェントに適切なモジュールが読み込まれないと、コアダンプが発生します。

ハードウェア、オペレーティング環境、ローカルアプリケーション、遠隔システムなどのシステムの構成要素を監視する、Sun Management Center の主要モジュールについては、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の付録 D を参照してください。

プラットフォーム用モジュールの使用不可

以下のいずれかの条件が存在する場合、プラットフォーム用モジュール (プラットフォーム構成リーダー、プラットフォーム / ドメインの状態管理、SC 監視) は自動的に使用不可になります。

- アクティブなシステムコントローラが予備のコントローラである。

- プラットフォーム用モジュールに必須の SMS デーモンのいずれかが動作していない (表 6-2)。

表 6-2 プラットフォーム用モジュールに必須の SMS デーモン

プラットフォーム用モジュール	必須の SMS デーモン
プラットフォーム構成リーダー	Capacity-on-Demand デーモン (codd) イベントフロントエンドデーモン (efe) Error and Fault Handling デーモン (efhd) イベントログアクセスデーモン (elad) イベントレポートデーモン (erd) 環境状態監視デーモン (esmd) フェイルオーバー管理デーモン (fomd) ハードウェアアクセスデーモン (hwad) プラットフォーム構成デーモン (pcd)
プラットフォーム / ドメインの状態管理	Capacity-on-Demand デーモン (codd) イベントフロントエンドデーモン (efe) Error and Fault Handling デーモン (efhd) イベントログアクセスデーモン (elad) イベントレポートデーモン (erd) 環境状態監視デーモン (esmd) フェイルオーバー管理デーモン (fomd) ハードウェアアクセスデーモン (hwad) プラットフォーム構成デーモン (pcd)
SC の監視	イベントフロントエンドデーモン (efe)

プラットフォーム用モジュールが自動的に使用不可にされると、アラームが生成され、プラットフォームのアイコンの右下に丸で囲った X が付きます。

Sun Fire 15K/12K 用モジュールの属性

この章では、各モジュールのすべての属性を表にまとめて、簡単な説明を付けています。グラフ表示可能な属性については、属性の説明中にそのことを記しています。グラフ表示属性についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 9 章を参照してください。

Sun Fire 15K/12K 用モジュールのアラーム規則

以下では、Sun Fire 15K/12K 用の追加コンポーネントに含まれているモジュールごとにそのアラーム規則をまとめています。アラーム規則のしきい値を変更することはできません。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを生成します。属性が Sun Management Center の規則の監視対象になっている場合は、表にその規則名も示しています。

各モジュールのアラーム規則については、以下の節を参照してください。

- 126 ページの「プラットフォーム構成リーダーのアラーム規則」
- 155 ページの「ドメイン構成リーダーのアラーム規則」
- 167 ページの「SC 構成リーダーのアラーム規則」
- 183 ページの「SC 監視アラーム規則 - プロセス停止規則 (rDownProc)」

主要 Sun Management Center モジュールの全 Sun Management Center 規則は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の付録 E に記載されています。

プラットフォーム構成リーダーモジュール

プラットフォーム構成リーダーモジュールは、Sun Fire 15K/12K プラットフォーム全体のハードウェア構成情報を提供します。このモジュールは、Sun Fire 15K/12K プラットフォーム用の追加コンポーネントの設定中に自動的に読み込まれ、読み込み解除することはできません。

図 6-1 は、プラットフォームの詳細ウィンドウの「ブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコン - 構成リーダー (Sun Fire 15K/12K) - を表しています。

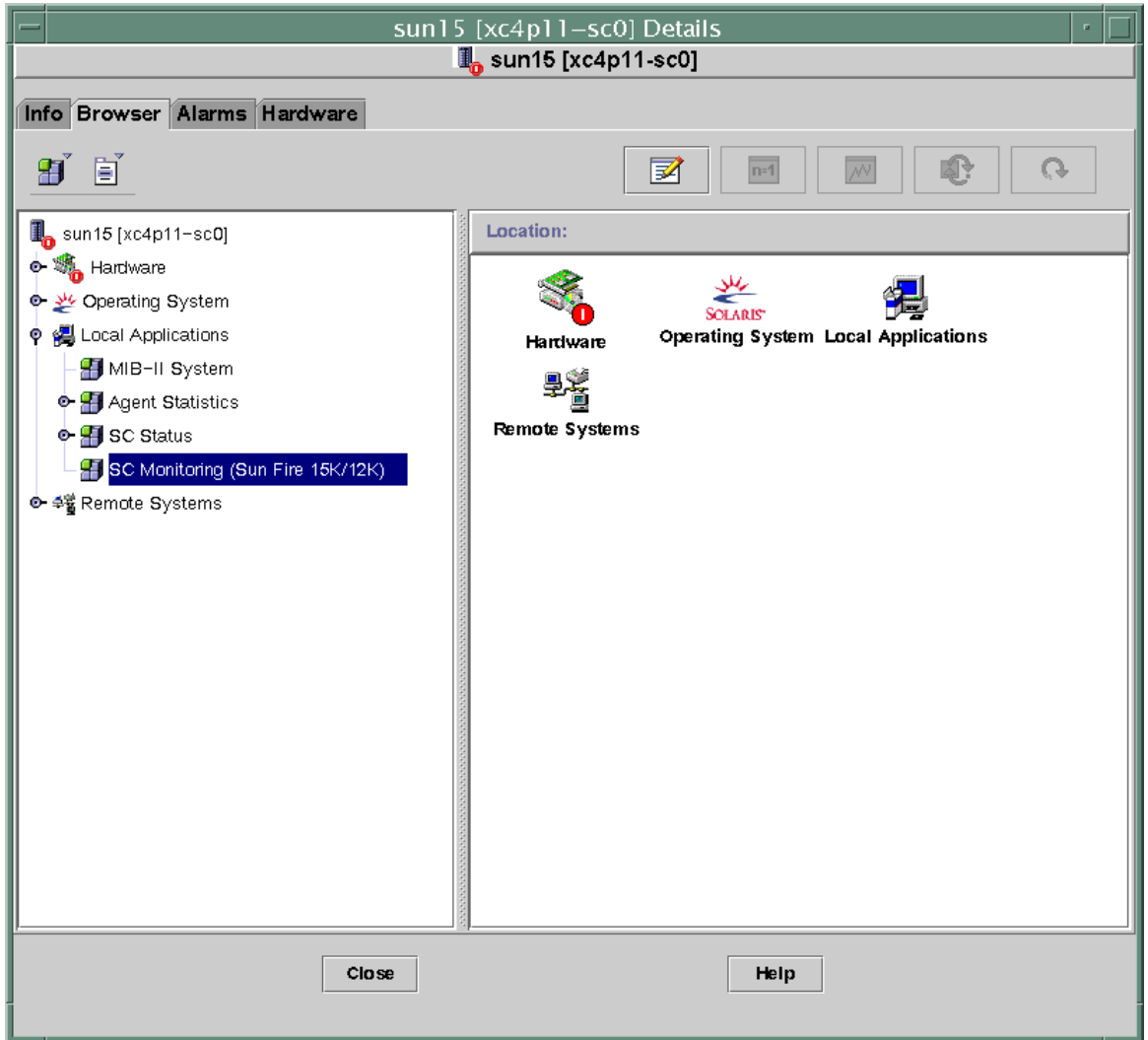


図 6-1 プラットフォーム構成リーダーモジュール

プラットフォーム構成リーダーモジュールの再表示機能

プラットフォーム構成リーダーモジュールは、内部キャッシュにプラットフォーム情報を格納します。この情報を以下のいずれか方法で収集、再表示します。

- 定期的な間隔 (現在は 60 分に設定) で SC 上の SMS デーモンと対話し、キャッシュの全内容を入れ替えます。再表示間隔を変更することはできません。
- 温度や電圧などのプラットフォーム属性に変化があると、SMS デーモンが必ずそのことを Sun Management Center ソフトウェアに通知し、プラットフォーム構成リーダーがブラウザ表示内の関係するハードウェアテーブルを更新します。

プラットフォームの詳細ウィンドウからブラウザを使用すると任意のモジュール属性を再表示できますが、この場合にプラットフォームエージェントから読み出されるのは、その属性の現在の値だけです。強制的にデータが再計算されることはありません。

プラットフォーム構成リーダーの属性

この節では、Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのオブジェクトごとに、表示可能な属性を表にまとめています。プラットフォーム構成リーダーが属性のデータを取得できなかった場合、属性値は -- または -1 のいずれかになります。

注 – 温度の単位はすべて摂氏 (°C) です。

システム

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのシステムの属性をまとめています (表 6-3)。

表 6-3 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのシステム属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		システム
プラットフォームタイプ		プラットフォームタイプの識別子
プラットフォーム名		SMS ソフトウェアの設定中にこの Sun Fire 15K/12K プラットフォームに割り当てられた名前
シャーシのホスト ID		シャーシのホスト識別子
フェイルオーバー状態	scFoStat	現在のフェイルオーバー状態： ACTIVATING、ACTIVE、DISABLED、 FAILED
管理者グループ		管理者グループの識別子 (platadmn など)

表 6-3 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのシステム属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
オペレータグループ		オペレータグループの識別子 (platooper など)
サービスグループ		サービスグループの識別子 (platsvc など)
メインシステムコントローラの ホスト名		メインのシステムコントローラのホスト名
予備のシステムコントローラの ホスト名		予備のシステムコントローラのホスト名
メインシステムコントローラ		現在メインのシステムコントローラの識別子 (SC0 か SC1)
システムコントローラの内部 IP アドレス		現在メインのシステムコントローラの内部 IP アドレス
クロック周波数 (MHz)		クロック周波数 (メガヘルツ単位)
クロックタイプ		使用されているクロックのタイプ
アクティブなドメイン数		Sun Fire 15K プラットフォームまたは Sun Fire 12K プラットフォームのアクティブなド メイン数 (15K で最高 18 個、12K で最高 9 つ)
拡張ボード数		Sun Fire 15K プラットフォームまたは Sun Fire 12K プラットフォームの拡張ボード (15K で 1 ~ 18、12K で 1 ~ 9)
スロット 0 のシステムボード数		スロット 0 のシステムボード数 (1 ~ 18)
スロット 1 のシステムボード数		スロット 1 のシステムボード数 (1 ~ 18)
システムコントローラ数		システムコントローラ数 (1 ないし 2)
システムコントローラの周辺装 置数		システムコントローラの周辺装置数 (1 ない し 2)
センタープレーン数		センタープレーン数 (1)
センタープレーンのサポート ボード数		センタープレーンサポートボード数 (1 ない し 2)
ファントレイ数		ファントレイ数 (1 ~ 8)
バルク電源装置数		バルク電源装置数 (1 ~ 6)
総メモリー容量 (MB)		電源投入時セルフテスト (POST) で構成され た総メモリー容量 (M バイト単位)
総プロセッサ数		POST で構成された総プロセッサ数
前回の完全再表示		内部キャッシュのデータが前回完全に更新さ れた日時

センタープレーン

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの Sun Fireplane インターコネクタ (センタープレーンともいう) の属性をまとめています (表 6-4)。

表 6-4 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのセンタープレーン属性

属性	規則 (ある場合)	説明
CP ID		FRU ID(スロット ID) 形式のセンタープレーンの識別子: CP (CP0)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
存在する CSB		存在するセンタープレーンサポートボード番号の、コンマ区切りのリスト
存在する EXB		存在する拡張ボード番号の、コンマ区切りのリスト
存在する SC		存在するシステムコントローラ番号の、コンマ区切りのリスト
存在する SCPER		存在するシステムコントローラ周辺装置番号の、コンマ区切りのリスト
DARB の温度 0	scBTemp	(グラフ表示可能) センタープレーンのボード 0 上の DARB ASIC の温度
RMX の温度 0	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の RMX ASIC の温度
AMX0 の温度 0	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の AMX0 ASIC の温度
AMX1 の温度 0	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の AMX1 ASIC の温度
DMX0 の温度 0	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の DMX0 ASIC の温度

表 6-4 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの
センタープレーン属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
DMX1 の温度 0	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の DMX1 ASIC の温度
DMX3 の温度 0	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の DMX3 ASIC の温度
DMX5 の温度 0	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の DMX5 ASIC の温度
DARB の温度 1	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の DARB ASIC の温度
RMX の温度 1	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の RMX ASIC の温度
AMX0 の温度 1	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の AMX0 ASIC の温度
AMX1 の温度 1	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の AMX1 ASIC の温度
DMX0 の温度 1	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の DMX0 ASIC の温度
DMX1 の温度 1	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の DMX1 ASIC の温度
DMX3 の温度 1	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の DMX3 ASIC の温度
DMX5 の温度 1	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の DMX5 ASIC の温度

拡張ボード

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの拡張ボードの属性をまとめています (表 6-5)。

表 6-5 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの拡張ボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
EXB ID		FRU ID(スロット ID) 形式の拡張ボードの識別子 : EXB (EXx) の形式で、x は拡張ボード番号 (0 ~ 17)。
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	拡張ボードの電源状態 : ON か OFF
Slot 0 (スロット 1)		スロット 0 を占有しているシステムボードの識別子 : CPU (SBx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)。存在しない場合は、NOT_PRESENT
Slot 1 (スロット 1)		スロット 1 を占有しているシステムボードの識別子 : HPCI (IOx) または MPCU (IOx) の形式で、x は 0 ~ 17)。存在しない場合は、NOT_PRESENT
PS0 の状態	scOBURu1	電源装置 0 の状態。OK、BAD、UNKNOWN のいずれか
PS1 の状態	scOBURu1	電源装置 1 の状態。OK、BAD、UNKNOWN のいずれか
上面温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 上面の周囲温度
底面温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 底面の周囲温度
SBBC 温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) SBBC ASIC の温度

表 6-5 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの拡張ボード属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
SDI5 Temp (C) (SDI5 の温度 (C))	scBTemp	(グラフ表示可能) SDI5 ASIC の温度
SDI0 Temp (C) (SDI0 の温度 (C))	scBTemp	(グラフ表示可能) SDI0 (マスター) ASIC の温度
SDI3 Temp (C) (SDI3 の温度 (C))	scBTemp	(グラフ表示可能) SDI3 ASIC の温度
AXQ Temp (AXQ の温度 (C))	scBTemp	(グラフ表示可能) AXQ ASIC の温度
+3.3HK の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル
+3.3V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +3.3V 電源の電圧レベル
+1.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +1.5V 電源の電圧レベル
+2.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +2.5V 電源の電圧レベル

センタープレーンサポートボード

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのセンタープレーンサポートボードの属性をまとめています (表 6-6)。

表 6-6 Sun Fire 15K プラットフォーム構成リーダーのセンタープレーンサポートボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
CSB ID		FRU ID(スロット ID) 形式のセンタープレーンサポートボードの識別子: CSB (CS0) か CSB (CS1)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明

表 6-6 Sun Fire 15K プラットフォーム構成リーダーの
センタープレーンサポートボード属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	拡張ボードの電源の状態: ON か OFF
PS0 の状態	scOBURul	電源装置 0 の状態。OK、BAD、UNKNOWN のいずれか
PS1 の状態	scOBURul	電源装置 1 の状態。OK、BAD、UNKNOWN のいずれか
上面温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 上面の周囲温度
底面温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 底面の周囲温度
SBBC 温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) SBBC ASIC の温度
+3.3HK の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル
+3.3V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +3.3V 電源の電圧レベル
+2.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +2.5V 電源の電圧レベル
+1.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +1.5V 電源の電圧レベル

システムコントローラ

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのシステムコントローラの属性をまとめています (表 6-7)。

表 6-7 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの
システムコントローラ属性

属性	規則 (ある場合)	説明
SC ID		FRU ID(スロット ID) 形式のシステムコントローラの識別子: SC(SC0) か SC(SC1)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号

表 6-7 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの
システムコントローラ属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	SC の電源状態 : ON か OFF
RIO の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) RIO ボードの温度
IOA0 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 入出力アダプタ (IOA0) ボードの温度
PS0 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の温度
PS1 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の温度
SBBC 温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) SBBC ASIC の温度 予備 SC の場合、この属性値は 0.0 になる。
CBH の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) CBH ASIC の温度。予備 SC の場合、この属性値は 0.0 になる。
+12V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +12V 電源装置の電圧レベル
-12V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC -12V 電源装置の電圧レベル
+3.3HK の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル
+3.3V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源装置の電圧レベル
+1.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +1.5V 電源装置の電圧レベル
+5.0V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +5V 電源装置の電圧レベル
+5V の電流 0	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +5V 電源の電流レベル 0
+5V の電流 1	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +5V 電源の電流レベル 1
+3.3V の電流 0	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電流レベル 0
+3.3V の電流 1	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電流レベル 1

システムコントローラの周辺装置

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのシステムコントローラの周辺装置の属性をまとめています (表 6-8)。

表 6-8 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのシステムコントローラ周辺装置属性

属性	規則 (ある場合)	説明
SCPER ID		FRU ID(スロット ID) 形式のシステムコントローラ周辺装置の識別子: SCPER (SCPER0) か SCPER (SCPER1)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	電源の状態: ON か OFF
周囲温度 0 (C)		(グラフ表示可能) プローブポイント 0 の周囲温度
周囲温度 1 (C)		(グラフ表示可能) プローブポイント 1 の周囲温度
周囲温度 2 (C)		(グラフ表示可能) プローブポイント 2 の周囲温度
平均周囲温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 3 つのプロブポイントの周囲温度の平均値
+12V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +12V 電源の電圧レベル
+5.0V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +5V 電源の電圧レベル
+3.3HK の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル

ファントレー

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのファントレーの属性をまとめています (表 6-9)。

表 6-9 Sun Fire 15K プラットフォーム構成リーダーのファントレー属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ファントレー ID		FRU ID(スロット ID)形式のファントレーの識別子 : FT (FT0) ~ FT (FT7)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scOnOff	ファンの電源状態: ON か OFF
速度		ファントレーの速度: NORMAL、HIGH、FAILED の いずれか
ファン 0 の状態	scOkFail	ファン 0 の状態: OK か FAIL
ファン 1 の状態	scOkFail	ファン 1 の状態: OK か FAIL
ファン 2 の状態	scOkFail	ファン 2 の状態: OK か FAIL
ファン 3 の状態	scOkFail	ファン 3 の状態: OK か FAIL
ファン 4 の状態	scOkFail	ファン 4 の状態: OK か FAIL
ファン 5 の状態	scOkFail	ファン 5 の状態: OK か FAIL
ファン 6 の状態	scOkFail	ファン 6 の状態: OK か FAIL

電源装置

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの電源装置の属性をまとめています (表 6-10)。

表 6-10 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの電源装置属性

属性	規則 (ある場合)	説明
PS ID		FRU ID(スロット ID) 形式の電源装置の識別子 : PS (PS0) ~ PS (PS5)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
状態	scOkFail	電源装置全体の状態 : OK か FAIL
ファン 0 の状態	scOkFail	ファン 0 の状態 : OK か FAIL
ファン 1 の状態	scOkFail	ファン 1 の状態 : OK か FAIL
AC0 の状態	scOkFail	電源装置からの交流入力 (AC0) の状態 : OK か FAIL
AC1 の状態	scOkFail	電源装置からの交流入力 (AC1) の状態 : OK か FAIL
遮断器 0 の状態	scBreakr	回路遮断器 0 の状態 : OPEN か CLOSE
遮断器 1 の状態	scBreakr	回路遮断器 1 の状態 : OPEN か CLOSE
DC0 電源の状態	scOnOff	施設の電源からの直流 DC 0 の状態 : ON か OFF
DC1 電源の状態	scOnOff	施設の電源からの直流 DC 1 の状態 : ON か OFF
電流 0		(グラフ表示可能) 電流 0 のレベル
電流 1		(グラフ表示可能) 電流 1 のレベル
+48V の電圧		(グラフ表示可能) DC +48V 電源の電圧レベル
+3.3HK の電圧		(グラフ表示可能) DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル

CPU ボード

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの CPU ボードの属性をまとめています (表 6-11)。

表 6-11 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの CPU ボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU ID		FRU ID(スロット ID) 形式の CPU ボードの識別子 : CPU (SBx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	CPU ボードの電源状態 : ON か OFF
DR の状態	scDrStat	CPU ボードの再構成状態 : UNKNOWN、FREE、ASSIGNED、ACTIVE のいずれか
テストの状態	scBTest	CPU のテスト状態 : UNKNOWN、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
POST の状態	scPOST	CPU ボードの POST 状態 : UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
テストレベル		(グラフ表示可能) このボードに対する POST テストレベル
割当先ドメイン		このボードが割り当てられているドメイン : A ~ R か UNASSIGNED
ドメイン ACL		ドメインアクセス制御リスト - このボードを使用可能なドメインのコンマ区切りのリスト : A ~ R か NONE

表 6-11 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの CPU ボード属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
COD 有効		ボードが COD ボードであるか否か: COD、NONCOD、UNKNOWN のどれか。最後は、SMS が初期化中で判定不能であることを示す
DX0 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX0 ASIC の温度
DX1 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX1 ASIC の温度
DX2 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX2 ASIC の温度
DX3 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX3 ASIC の温度
SDC の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SDC ASIC の温度
SBBC0 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SBBC0 ASIC の温度
SBBC1 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SBBC1 ASIC の温度
AR の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の AR ASIC の温度
+3.3V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電圧レベル
+1.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +1.5V 電源の電圧レベル

HPCI ボード

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのホットスワップ対応 PCI (HPCI) ボードの属性をまとめています (表 6-12)。

表 6-12 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの HPCI ボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
HPCI ID		FRU ID(スロット ID) 形式の HPCI ボードの識別子: HPCI (IOx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明

表 6-12 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの HPCI ボード属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	HPCI ボードの電源状態: ON か OFF
DR の状態	scDrStat	HPCI ボードの再構成状態: UNKNOWN、FREE、ASSIGNED、ACTIVE のいずれか
テストの状態	scBTest	HPCI のテスト状態: UNKNOWN、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
POST の状態	scPOST	HPCI ボードの POST 状態: UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
テストレベル		(グラフ表示可能) このボードに対する POST テストレベル
割当先ドメイン		このボードが割り当てられているドメイン: A ~ R か UNASSIGNED
ドメイン ACL		ドメインアクセス制御リスト - このボードを使用可能なドメインのコンマ区切りのリスト: A ~ R か NONE
PS0 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の温度
PS1 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の温度
IOA0 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の IOA0 ASIC の温度
IOA1 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の IOA1 ASIC の温度
DX0 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX0 ASIC の温度
DX1 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX1 ASIC の温度
SDC の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SDC ASIC の温度
SBBC 温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SBCC ASIC の温度
AR の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の AR ASIC の温度
+12V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +12V 電源の電圧レベル
-12V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC -12V 電源の電圧レベル
+3.3V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電圧レベル
+3.3HK の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル
+1.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +1.5V 電源の電圧レベル

表 6-12 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの HPCI ボード属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
+1.5V コンバータ 0	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +1.5V コンバータ 0 の電圧レベル
+1.5V コンバータ 1	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +1.5V コンバータ 1 の電圧レベル
+5.0V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +5V 電源の電圧レベル
+5V の電流 0	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +5V 電源の電流レベル 0
+5V の電流 1	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +5V 電源の電流レベル 1
+3.3V の電流 0	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電流レベル 0
+3.3V の電流 1	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電流レベル 1

HPCI+ ボード

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのホットスワップ対応 PCI プラス (HPCI+) ボードの属性をまとめています (表 6-13)。

表 6-13 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの HPCI+ ボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
HPCI+ ID		FRU ID(スロット ID) 形式の HPCI+ ボードの識別子 : HPCI+ (IOx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	HPCI+ ボードの電源状態 : ON か OFF

表 6-13 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの
HPCI+ ボード属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
DR の状態	scDrStat	HPCI+ ボードの再構成状態: UNKNOWN、FREE、ASSIGNED、ACTIVE のいずれか
テストの状態	scBTest	HPCI+ ボードのテスト状態: UNKNOWN、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
POST の状態	scPOST	HPCI+ ボードの POST 状態: UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
テストレベル		(グラフ表示可能) このボードに対する POST テストレベル
割当先ドメイン		このボードが割り当てられているドメイン: A ~ R か UNASSIGNED
ドメイン ACL		ドメインアクセス制御リスト - このボードを使用可能なドメインのコンマ区切りのリスト: A ~ R か NONE
PS0 の温度 0 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の温度 0
PS0 の温度 1 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の温度 1
PS0 の温度 2 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の温度 2
PS1 の温度 0 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の温度 0
PS1 の温度 1 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の温度 1
PS1 の温度 2 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の温度 2
IOA0 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の IOA0 ASIC の温度
IOA1 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の IOA1 ASIC の温度
DX0 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX0 ASIC の温度
DX1 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX1 ASIC の温度
SDC の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SDC ASIC の温度
SBBC 温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SBCC ASIC の温度
AR の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の AR ASIC の温度
PS0 の +12V 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC +12V の電圧レベル
PS1 の +12V 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +12V の電圧レベル
PS0 の -12V 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC -12V の電圧レベル
PS1 の -12V 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC -12V の電圧レベル
PS2 の -12V 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 2 の DC -12V の電圧レベル

表 6-13 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの
HPCI+ ボード属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
PS0 の +3.3V 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +3.3V の電圧レベル
PS1 の +3.3V 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +3.3V の電圧レベル
PS0 の +3.3HK 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC +3.3V ハウスキーピングの電圧レベル
PS1 の +3.3HK 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +3.3V ハウスキーピングの電圧レベル
PS0 の +1.5V 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC +1.5V の電圧レベル
PS1 の +1.5V 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +1.5V の電圧レベル
PS0 の +5.0 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC +5V の電圧レベル
PS1 の +5.0 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +5V の電圧レベル
PS0 の +1.5/+2.5 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC +1.5V または +2.5V の電圧レベル
PS1 の +1.5/+2.5 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +1.5V または +2.5V の電圧レベル
PS0 の +12 電圧正常	scOkFail	+12V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
PS1 の +12 電圧正常	scOkFail	+12V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
PS0 の -12 電圧正常	scOkFail	-12V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
PS1 の -12 電圧正常	scOkFail	-12V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
PS0 の +5 電圧正常	scOkFail	+5V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
PS1 の +5 電圧正常	scOkFail	+5V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
PS0 の +3.3 電圧正常	scOkFail	+3.3V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
PS1 の +3.3 電圧正常	scOkFail	+3.3V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
PS0 の +1.5/2.5 電圧正常	scOkFail	+1.5/2.5V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL

表 6-13 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの HPCI+ ボード属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
PS1 の +1.5/2.5 電圧正常	scOkFail	+1.5/2.5V への供給電源 1 の状態 : OK か FAIL
PS0 の +1.5 電圧正常	scOkFail	+1.5V への供給電源 0 の状態 : OK か FAIL
PS1 の +1.5 電圧正常	scOkFail	+1.5V への供給電源 1 の状態 : OK か FAIL
PS0 の +3.3HK 電圧正常	scOkFail	+3.3V HK への供給電源 0 の状態 : OK か FAIL
PS1 の +3.3HK 電圧正常	scOkFail	+3.3V HK への供給電源 1 の状態 : OK か FAIL
PS0 正常	scOkFail	電源装置 0 の状態 : OK か FAIL
PS1 正常	scOkFail	電源装置 1 の状態 : OK か FAIL

WPCI ボード

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの Sun Fire Link PCI (WPCI) ボードの属性をまとめています (表 6-14)。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

表 6-14 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの WPCI ボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
WPCI ID		FRU ID(スロット ID) 形式の WPCI ボードの識別子 : WPCI (IOx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時

表 6-14 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの WPCI ボード属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	WPCI ボードの電源状態: ON か OFF
DR の状態	scDrStat	WPCI ボードの再構成状態: UNKNOWN、FREE、ASSIGNED、ACTIVE のいずれか
テストの状態	scBTest	WPCI ボードのテスト状態: UNKNOWN、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
POST の状態	scPOST	WPCI ボードの POST 状態: UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
テストレベル		(グラフ表示可能) このボードに対する POST テストレベル
割当先ドメイン		このボードが割り当てられているドメイン: A ~ R か UNASSIGNED
ドメイン ACL		ドメインアクセス制御リスト - このボードを使用可能なドメインのコンマ区切りのリスト: A ~ R か NONE
+1.5 コンバータ 0 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL
+1.5 コンバータ 1 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL
+15 コンバータ 0 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL
+15 コンバータ 1 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL
+2.5 コンバータ 0 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL
+2.5 コンバータ 1 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL
+2.5 コンバータ 0 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL
+2.5 コンバータ 1 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL
+3.3 コンバータ 0 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL
+3.3 コンバータ 1 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL
+3.3 コンバータ 2 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL
+3.3 コンバータ 0 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL

表 6-14 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの WPCI ボード属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
+3.3 コンバータ 1 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL
+3.3 コンバータ 2 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL
+5.0 コンバータ 0 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL
+5.0 コンバータ 1 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL
+5.0 コンバータ 0 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL
+5.0 コンバータ 1 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL
IOA 温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の IOA ASIC の温度
DX0 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX0 ASIC の温度
DX1 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX1 ASIC の温度
SDC の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SDC ASIC の温度
SBBC 温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SBCC ASIC の温度
AR の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の AR ASIC の温度
WCI0 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の WCI0 ASIC の温度
WCI1 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の WCI1 ASIC の温度
+12V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +12V 電源の電圧レベル
-12V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC -12V 電源の電圧レベル
+3.3HK の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル
+3.3V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電圧レベル
+1.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +1.5V 電源の電圧レベル
+2.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +2.5V 電源の電圧レベル
+5.0V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +5V 電源の電圧レベル

MaxCPU ボード

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの MaxCPU ボードの属性をまとめています (表 6-15)。

表 6-15 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの MaxCPU ボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
MCPU ID		FRU ID(スロット ID) 形式の MaxCPU ボードの識別子: M _{CPU} (I _{Ox}) の形式で、 <i>x</i> はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	MaxCPU ボードの電源の状態: ON か OFF
DR の状態	scDrStat	MaxCPU ボードの再構成状態: UNKNOWN、FREE、ASSIGNED、ACTIVE のいずれか
テストの状態	scBTest	MaxCPU ボードのテスト状態: UNKNOWN、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
POST の状態	scPOST	CPU ボードの POST 状態: UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
テストレベル		このボードに対する POST テストレベル
割当先ドメイン		このボードが割り当てられているドメイン: A ~ R か UNASSIGNED
ドメイン ACL		ドメインアクセス制御リスト - このボードを使用可能なドメインのコンマ区切りのリスト: A ~ R か NONE

表 6-15 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの
MaxCPU ボード属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
COD 有効		ボードが COD ボードであるか否か: COD、NONCOD、UNKNOWN のどれか。最後は、SMS が初期化中で判定不能であることを示す。
コア 0 の電源 0 の状態	scOkFail	PROC 0 への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
コア 0 の電源 1 の状態	scOkFail	PROC 1 への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
コア 0 の電源 2 の状態	scOkFail	PROC 2 への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
コア 1 の電源 0 の状態	scOkFail	PROC 0 への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
コア 1 の電源 1 の状態	scOkFail	PROC 1 への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
コア 1 の電源 2 の状態	scOkFail	PROC 2 への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
+3.3V の電源 0 の状態	scOkFail	+3.3V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
+3.3V の電源 1 の状態	scOkFail	+3.3V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
+1.5V の電源 0 の状態	scOkFail	+1.5V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
+1.5V の電源 1 の状態	scOkFail	+1.5V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
DX0 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX0 ASIC の温度
DX1 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX1 ASIC の温度
DX2 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX2 ASIC の温度
DX3 の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX3 ASIC の温度
SDC の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SDC ASIC の温度
SBBC 温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SBCC ASIC の温度
AR の温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の AR ASIC の温度
+3.3V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電圧レベル
+3.3HK の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル
+1.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +1.5V 電源の電圧レベル

HPCI カセット

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのホットスワップ対応 PCI (HPCI) カセットの属性をまとめています (表 6-16)。1 つのカセットに 2 枚の HPCI カードが収納されています。

注 – HPCI カセットの情報は、対応する HPCI ボードに電源が供給されている場合にのみ収集できます。HPCI ボードに電源が供給されていない場合、そのボード上の HPCI カセットの情報は収集できません。

表 6-16 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの HPCI カセット属性

属性	規則 (ある場合)	説明
カセット ID		FRU ID(スロット ID) 形式の HPCI カセットの識別子：FUI ID は 3.3V カードの場合は c3v、5V カードの場合は c5v。スロット ID は IOx/cjvz の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、y はカードの電圧 (3 または 5)、z はカードがある PCI コントローラ (0 か 1)。
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
スロットの電源状態	scOnOff	スロットの電源状態：ON か OFF
カードの有無		カセットにカードが装着されている場合 YES、装着されていない場合 NO
スロット周波数 (MHz)		メガヘルツ (MHz) 単位のスロットの周波数：33、66、132 のいずれか
スロットの状態	scHPCId	スロットの状態：GOOD、UNKNOWN、BAD SLOT、BAD CARD のいずれか
スロットの電源状態	scOkFail	スロットへの電源投入の成功 / 失敗：OK か FAIL
スロットの電源障害	scOkFail	スロットの電源障害の検出状態：OK か FAIL

Paroli カード

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの並列光リンク (Paroli) カードの属性をまとめています (表 6-17)。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

注 – Paroli カードの情報は、対応する WPCI ボードに電源が供給されている場合にのみ収集できます。WPCI ボードに電源が供給されていない場合、そのボード上の Paroli カードの情報は収集できません。

表 6-17 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの Paroli カード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
Paroli ID		FRU ID(スロット ID) 形式の Paroli カードの識別子 : PARS (IOx/PARy) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、y は Paroli カード番号 (0 か 1)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scOnOff	Paroli カードの電源状態 : ON か OFF
+1.5V の電圧	scBVo1t	(グラフ表示可能) DC +1.5V 電源の電圧レベル
+3.3V の電圧	scBVo1t	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電圧レベル

プロセッサ

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのプロセッサの属性をまとめています (表 6-18)。

注 – プロセッサの情報は、ドメインが稼働 (**OpenBoot™ PROM** モードか、**Solaris** オペレーティング環境の実行中) している場合にのみ収集できます。ドメインが停止している場合、そのドメインのプロセッサの情報は収集できません。

表 6-18 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのプロセッサ属性

属性	規則 (ある場合)	説明
プロセッサ ID		ID(スロット ID) 形式のプロセッサの識別子: PROC(SBx/Py) の形式で、 <i>x</i> はボードがあるセンター プレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>y</i> はプロセッサ番 号 (0 ~ 3)
電源の状態	scOnOff	このプロセッサの電源の状態: ON か OFF
POST の状態	scPOST	プロセッサの POST 状態: UNKNOWN、OK、 DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、 FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED、 NO_LICENSE のいずれか
クロック周波数 (MHz)		プロセッサの、メガヘルツ (MHz) 単位のクロック周波 数
温度 (C)	scBTemp	(グラフ表示可能) プロセッサの温度
電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) プロセッサの電圧レベル
E キャッシュサイズ		(グラフ表示可能) 外部キャッシュサイズ (メガバイト単 位)
メモリーバンクリス ト		このプロセッサが使用しているメモリーバンクの、コ ンマ区切りのリスト (0、1)

メモリーバンク

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのメモリーバンクの属性をまとめています (表 6-19)。

注 – メモリーバンクの情報は、ドメインが稼働 (OpenBoot™ PROM モードか、Solaris オペレーティング環境の実行中) している場合にのみ収集できます。ドメインが停止している場合、そのドメインのメモリーバンクの情報は収集できません。

表 6-19 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのメモリーバンク属性

属性	規則 (ある場合)	説明
MEMBANK ID		ID(スロット ID) 形式のメモリーバンクの識別子: MEMBANK(SBx/Py/Bz) の形式で、 <i>x</i> はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>y</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、 <i>z</i> は物理メモリーバンク番号 (0 か 1)
論理バンク 0 の POST 状態	scPOST	論理メモリーバンク 0 の POST 状態: UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
論理バンク 1 の POST 状態	scPOST	論理メモリーバンク 1 の POST 状態: UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
メモリーサイズ (M バイト)		(グラフ表示可能) メモリーバンクのサイズ (M バイト単位)

DIMM

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの DIMM (Dual Inline Memory Module) の属性をまとめています (表 6-20)。

注 – DIMM の情報は、ドメインが稼働 (OpenBoot™ PROM モードか、Solaris オペレーティング環境の実行中) している場合にのみ収集できます。ドメインが停止している場合、そのドメインの DIMM の情報は収集できません。

表 6-20 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの DIMM 属性

属性	規則 (ある場合)	説明
DIMM ID		FRU ID(スロット ID) 形式の DIMM の識別子： DIMM(SBw/Px/By/Dz) の形式で、 <i>w</i> はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>x</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、 <i>y</i> は物理メモリーバンク番号 (0 か 1)、 <i>z</i> は DIMM 番号 (0 ~ 3)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
POST の状態	scPOST	DIMM の POST 状態：UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか

ドメイン

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのドメインの属性をまとめています (表 6-21)。

表 6-21 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのドメイン属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ドメイン ID		Sun Fire 15K/12K ドメインの識別子: A ~ R
状態	scDmnSt	SMS の showplatform コマンドの出力から得られたドメインの状態: Running Solaris、Running Domain POST、Powered Off など。詳細は、『System Management Services SMS 1.4 リファレンスマニュアル』の showplatform(1M) を参照。
ドメインの停止回数	scStop	プラットフォームエージェントの再起動後、またはアラームの確認後にこのドメインが停止した回数
記録の停止回数	scStop	プラットフォームエージェントの再起動後、またはアラームの確認後にこのドメインの記録が停止した回数
OS のバージョン		このドメインで動作しているオペレーティング環境のバージョン: Solaris 2.8 など
OS のタイプ		このドメインで動作しているオペレーティング環境の種類: Solaris、Trusted など
ドメインタグ		ドメインのタグ名: domainA ~ domainR など
外部ホスト名		ドメインの外部ホスト名
内部ホスト名		ドメインの内部ホスト名
内部 IP アドレス		ドメインの内部 IP アドレス
スロット 0 の使用可能ボード		このドメインで使用可能なスロット 0 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE
スロット 1 の使用可能ボード		このドメインで使用可能なスロット 1 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE
スロット 0 の割り当て済みボード		このドメインに割り当てられているスロット 0 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE
スロット 1 の割り当て済みボード		このドメインに割り当てられているスロット 1 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE
スロット 0 のアクティブなボード		このドメインでアクティブなスロット 0 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE

表 6-21 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのドメイン属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
スロット 1 のアクティブなボード		このドメインでアクティブなスロット 1 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE
主入出力ボード		このドメインとシステムコントローラ間の通信に使用されている主入出力ボードの識別子: HPCI (IOx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
キースイッチ		仮想のキースイッチ位置: ON、STANDBY、OFF、DIAG、SECURE、UNKNOWN のいずれか
アドレスバスの構成	scBusCfg	アドレスバス未構成 (UNCONFIGURED)、CSB0 だけ使った機能縮小モード (CSB0)、CSB1 だけ使った機能縮小モード (CSB1)、両方のセンタープレーンサポートボードを使った完全動作 (BOTH) のいずれか。
データバスの構成	scBusCfg	データバス未構成 (UNCONFIGURED)、CSB0 だけ使った機能縮小モード (CSB0)、CSB1 だけ使った機能縮小モード (CSB1)、両方のセンタープレーンサポートボードを使った完全動作 (BOTH) のいずれか。
応答バスの構成	scBusCfg	応答バス未構成 (UNCONFIGURED)、CSB0 だけ使った機能縮小モード (CSB0)、CSB1 だけ使った機能縮小モード (CSB1)、両方のセンタープレーンサポートボードを使った完全動作 (BOTH) のいずれか。
アクティブな Ethernet ボード		アクティブな Ethernet コントローラがある入出力ボードの識別子: HPCI (IOx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
管理者グループ		ドメインの管理者グループの識別子: dmnxadmn の形式で x は a ~ r
再構成グループ		ドメインの再構成グループの識別子: dmnxrcfg の形式で x は a ~ r
作成日時		ドメインが作成された日時、または UNKNOWN

不明なコンポーネント (構成部品)

次の表は、Sun Fire 15K/12K のプラットフォーム構成リーダーが認識できないコンポーネントが特定のスロットにあることを示します (表 6-22)。

表 6-22 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの不明なコンポーネント属性

スロット ID

不明なシステムボードがあるスロットの識別子: `EXBx.SLOTy` の形式で、`x` は拡張ボード番号 (0 ~ 17)、`y` はスロット番号 (0 ~ 1)

障害イベントテーブル

次の表は、自動障害イベント通知システムによって生成される障害イベントを示します。同じ情報がアラームテーブルに表示されます。アラームテーブルでアラームに回答すると、障害イベントは障害イベントテーブルから自動的に削除されます。アラームテーブルおよびアラームの管理と制御についての詳細な情報は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 12 章を参照してください。

表 6-23 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの障害イベントテーブル

障害イベント

障害イベントには、警告を示す黄色のアラームとともに示される障害イベントコード、タイムスタンプ、およびシャーシのシリアル番号 (CSN) が含まれています。

検出オブジェクトテーブル

検出オブジェクトテーブルは、検出マネージャーや「トポロジオブジェクトの作成」GUI が Sun Fire 15K/12K 複合オブジェクトを作成したときに使用した情報を提供します。この情報は、主として診断目的に提供され、Sun Management Center ソフトウェアのユーザーには直接関係のない情報が含まれます。この情報には、テーブル識別子 (マジックナンバー) の後に、Sun Fire 15K/12K 複合オブジェクトの一部として作成された各トポロジオブジェクトに関する情報が続きます。マジックナンバー値の 53444f54 は、その後のテーブルが有効な検出オブジェクトテーブルであることを示します。

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの検出オブジェクトテーブル関連の属性をまとめています (表 6-24)。

表 6-24 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの検出オブジェクトテーブル属性

属性	規則 (ある場合)	説明
トポロジ ID		符号化されたトポロジの識別子
トポロジ親		このオブジェクトの親のトポロジ ID
検出タイプ		符号化された検出タイプ
IP アドレス		このトポロジオブジェクトの IP アドレス
エージェントポート		このトポロジオブジェクト用のネットワークポート番号
ファミリタイプ		トポロジオブジェクトのファミリタイプ
ラベル		Sun Management Center トポロジに表示されるオブジェクトラベル
説明		オブジェクトの説明 (ある場合)

注 - 「エージェントポート」属性の値の -1 は、そのオブジェクトがプラットフォームグループオブジェクトであることを示します。

プラットフォーム構成リーダーのアラーム規則

この節では、プラットフォーム構成リーダーモジュールのアラーム規則について説明します。これらアラーム規則のしきい値を変更することはできません。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを生成します。

ボード電流規則 (scBCurrt)

ボード電流規則は、電流プローブポイントが類似の全コンポーネントの平均の $x\%$ の範囲外になった場合に重大アラームを生成します (表 6-25)。このとき SMS ソフトウェアは、適切な自動システム回復 (ASR) 処理を行います。『System Management Services (SMS) 1.4 管理者マニュアル』の第 9 章の「環境イベント」の節を参照してください。

表 6-25 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのボード電流規則

電流しきい値	アラーム レベル	意味
Good		電流が類似の全コンポーネントの平均の $x\%$ の範囲内。 x はサンが設定します。
Error	重大	電流が類似の全コンポーネントの平均の $x\%$ の範囲外。 x はサンが設定します。

対策 : SMS の `showenvironment(1M)` コマンドを使用して、`showenvironment` コマンドの出力と Sun Management Center テーブルに示される値に矛盾がないか確認してください。

ボード電源規則 (scBPower)

ボード電源規則は、ボードの電源の状態が OFF になった場合にアラームを生成します (表 6-26)。注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。

表 6-26 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのボード電源規則

電源の状態	アラーム レベル	意味
ON		ボードの電源がオン。
OFF	注意	ボードの電源がオフ。

対策 : SMS の `poweron(1M)` コマンドを使用して、ボードの電源をオンにしてください。SMS の `showboards(1M)` コマンドを使用して、`showboards` コマンドの出力と Sun Management Center テーブルに示される値に矛盾がないか確認してください。

ボード温度規則 (scBTemp)

ボード温度規則は、ボードの温度が表 6-27 に示すしきい値範囲内になった場合に注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します。ボードの電源がオフのとき、温度アラームは生成されません。

表 6-27 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのボード温度規則

温度しきい値	アラーム レベル	意味
Low Critical	重大	温度が、サンの設定した重大の低温範囲内。
Low Warning	警告	温度が、サンの設定した警告の低温警告範囲内。
High Warning	注意	温度が、サンの設定した注意の高温範囲内。
High Critical	警告	温度が、サンの設定した重大の高温範囲内。
Over Limit	重大	温度が、サンの設定したしきい値範囲外。

対策：

- Low Critical、High Critical、Over Limit アラームの場合、SMS は適切な自動システム回復 (ASR) 処理を行います。『System Management Services (SMS) 1.4 管理者マニュアル』の第 9 章の「環境イベント」の節を参照してください。
- Low Warning、High Warning アラームの場合は、サンに温度をしきい値範囲内に戻す方法を問い合わせてください。

SMS の `showenvironment(1M)` コマンドを使用して、`showenvironment` コマンドの出力と Sun Management Center テーブルに示される値に矛盾がないか確認してください。

ボード電圧規則 (scBVolt)

ボード電圧規則は、ボードの電圧が表 6-28 に示すしきい値範囲内になった場合に重大アラームを生成します。ボードの電源がオフのとき、電圧アラームは生成されません。

表 6-28 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのボード電圧規則

電圧しきい値	アラーム レベル	意味
Low Minimum	重大	電圧が、サンの設定した最低電圧範囲内。
High Maximum	重大	温度が、サンの設定した最高電圧範囲内。

対策：Low Minimum、High Minimum アラームの場合、SMS は適切な自動システム回復 (ASR) 処理を行います。『System Management Services (SMS) 1.4 管理者マニュアル』の第 9 章の「環境イベント」の節を参照してください。SMS の showenvironment(1M) コマンドを使用して、showenvironment コマンドの出力と Sun Management Center テーブルに示される値に矛盾がないか確認してください。

ドメイン停止および記録停止規則 (scStop)

ドメイン停止および記録停止規則は、ドメインの停止とドメインに関する記録の停止を検査し、いずれかの回数がゼロを超えたときアラームを生成します (表 6-29)。ドメイン停止および記録停止回数は、プラットフォームエージェントが再起動されるか、アラームが確認されるとゼロに設定されます。

表 6-29 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのドメイン停止と記録停止規則

停止回数	アラームレベル	意味
0		ドメイン停止および記録停止回数のいずれか一方または両方がゼロ。
>0	注意	記録停止回数が 1 回以上
>0	重大	ドメイン停止回数が 1 回以上

対策：

- 記録停止回数が 1 回以上のときの注意アラームは注意を促すだけであり、エラーではありません。ドメインは依然動作を続けています。必要に応じて、適切な記録停止のダンプをサンに提供し、分析を依頼してください。記録停止のダンプは、`/var/opt/SUNWSMS/adm/[A-R]/dump` にあります。『System Management Services (SMS) 1.4 管理者マニュアル』の第 9 章の「ハードウェアエラーイベント」の節を参照してください。
- ドメイン停止エラーが発生し、重大アラームが生成された場合、SMS ソフトウェアは適切な自動システム回復 (ASR) 処理を行います。サンにドメイン停止ダンプを提供し、分析を依頼してください。ドメイン停止のダンプは、`/var/opt/SUNWSMS/adm/[A-R]/dump` にあります。『System Management Services (SMS) 1.4 管理者マニュアル』の第 9 章の「ハードウェアエラーイベント」の節を参照してください。

HPCI カセット規則 (scHPCId)

ホットスワップ対応 PCI (HPCI) カセット規則は、PCI スロットの状態が UNKNOWN、BAD SLOT、BAD CARD のいずれかの場合に注意または重大アラームを生成します (表 6-30)。HPCI カセットの電源がオフの場合、アラームは生成されません。

表 6-30 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの HPCI カセット規則

OK/BAD/UNKNOWN 状態	アラームレベル	意味
GOOD		スロットの状態は良好。
UNKNOWN	注意	スロットの状態は不明。
BAD SLOT	重大	スロットの状態が不良。
BAD CARD	重大	カードが不良。

対策：

- 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。状態が UNKNOWN の理由を確認するには、サンに問い合わせください。
- 重大アラームの場合は、サンに連絡してください。

フェイルオーバー状態規則 (scFoStat)

フェイルオーバー状態規則は、現在のフェイルオーバーの状態が ACTIVE 以外の場合に注意または重大アラームを生成します (表 6-31)。

表 6-31 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのフェイルオーバー状態規則

フェイルオーバー状態	アラームレベル	意味
ACTIVATING		フェイルオーバーが開始され有効になろうとしている。
ACTIVE		フェイルオーバーが有効
DISABLED	注意	フェイルオーバーが無効
FAILED	重大	問題があり、フェイルオーバーできない。

対策：

- 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。フェイルオーバーは、SMS の `setfailover(1M)` コマンドを使って有効にできます。

- 重大アラームは、少なくとも 1 つ問題が発生し、そのためにフェイルオーバーが機能しないことを意味します。問題の詳細情報は、SMS の showfailover(1M) を使って入手できます。/var/opt/SUNWSMS/adm/platform/messages 内の SMS プラットフォームログファイルで SMS fomd プロセスからのメッセージを調べることができます。

OK/BAD/UNKNOWN 状態規則 (scOBURul)

OK/BAD/UNKNOWN 状態規則は、コンポーネントが BAD または UNKNOWN 状態の場合に重大または注意アラームを生成します (表 6-32)。そのコンポーネントが含まれているコンポーネントの電源がオフの場合、アラームは生成されません。

表 6-32 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの OK/BAD/UNKNOWN 状態規則

OK/BAD/UNKNOWN 状態	アラームレベル	意味
OK		コンポーネントは正常な動作状態。
BAD	重大	コンポーネントは動作不可能な状態。
UNKNOWN (不明)	注意	コンポーネントの動作状態を判定できない。

対策：

- 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。状態が UNKNOWN の理由を確認するには、サンに問い合わせください。
- 重大アラームの場合は、サンに連絡してください。

OK/FAIL 規則 (scOkFail)

OK/FAIL 規則は、コンポーネントに障害あることが検出された場合に重大アラームを生成します (表 6-33)。そのコンポーネントが含まれているコンポーネントの電源がオフか、FAIL 状態の場合、アラームは生成されません。

表 6-33 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの OK/FAIL 規則

OK/FAIL 状態	アラームレベル	意味
OK		コンポーネントは正常。
FAIL	重大	コンポーネントに問題あり。

対策：重大アラームの場合は、サンに連絡してください。

ON/OFF 規則 (scOnOff)

ON/OFF 規則は、コンポーネントの電源がオフの場合に注意アラームを生成します (表 6-34)。そのコンポーネントが含まれているコンポーネントの電源がオフか、FAIL 状態の場合、アラームは生成されません。

表 6-34 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの ON/OFF 規則

ON/OFF 状態	アラーム レベル	意味
ON		コンポーネントはオン。
OFF	注意	コンポーネントはオフ。

対策：注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。アラームの理由と対策の取り方は、コンポーネントの種類によって異なります。

- コンポーネントがファントレーか電源装置の場合は、SMS の poweron(1M) コマンドを使ってコンポーネントの電源をオンにすることができます。
- コンポーネントがプロセッサの場合は、ボードの電源がオフである可能性があります。それ以外の場合は、自動システム回復 (ASR) のために、SMS ソフトウェアによって、プロセッサの電源がオフにされています。
- コンポーネントが HPCI カセットの場合は、ボードの電源がオフである可能性があります。それ以外の場合は、カセットが空です (カードが装着されていない)。

POST 状態規則 (scPOST)

電源投入時セルフテスト (POST) 状態規則は、POST 状態が OK 以外の場合に注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-35)。

表 6-35 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの POST 状態規則

POST 状態	アラーム レベル	意味
OK		POST 状態は問題なし。
UNKNOWN (不明)	注意	POST 状態は不明。
BLACKLISTED	注意	コンポーネントはブラックリストに載っている。
REDLISTED	注意	コンポーネントはレッドリストに載っている。
NO_LICENSE	注意	コンポーネントに COD ライセンスがない。
DISABLED	警告	コンポーネントが使用不可。
UNDEFINED	警告	コンポーネントは定義されていない。

表 6-35 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの POST 状態規則 (続き)

POST 状態	アラーム レベル	意味
MISCONFIGURED	警告	コンポーネントは正しく構成されていない。
FAIL-OBP	重大	コンポーネントの OBP に問題あり。
FAIL	重大	コンポーネントの POST に失敗。

対策：

- 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。『System Management Services (SMS) 1.4 管理者マニュアル』の第 5 章の「ハードウェア制御」の節を参照してください。
- 警告アラームは必ずしも問題があることを示すわけではありませんが、発生した場合は、システム管理者またはサンに問題が発生する可能性があることを伝えてください。
- 重大アラームは問題があることを示します。サンに連絡してください。

詳細は、システムコントローラ上の POST ログファイルを調べてください。POST ログファイルは、`/var/opt/SUNSWSMS/adm/[A-R]/post` にあります。

電源装置遮断器規則 (scBreakr)

電源装置遮断器規則は、電源装置の回路遮断器が OPEN の場合に注意アラームを生成します (表 6-36)。注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。

表 6-36 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの電源装置遮断器規則

電源装置の遮断器の状態	アラーム レベル	意味
CLOSE		回路遮断器は閉じている。
OPEN	注意	回路遮断器は開いている。

システムボード DR 状態規則 (scDrStat)

システムボード DR 状態規則は、システムボードの動的再構成 (DR) 状態が UNKNOWN の場合に注意アラームを生成します (表 6-37)。

表 6-37 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのシステムボード DR 状態規則

DR 状態	アラーム レベル	意味
FREE		ボードは使用されていない。
ASSIGNED		ボードはドメインに割り当てられている。
ACTIVE		ボードはドメインでアクティブになっている。
UNKNOWN	注意	動的再構成状態は不明。

対策：注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。UNKNOWN 状態はボードが使用されていないのと同じことです。SMS の showboards(1M) コマンドを使用すると、UNKNOWN 状態のボードが**使用可能**になっていることが分かります。

システムボードのテスト状態規則 (scBTest)

システムボードテスト状態規則は、テスト状態が UNKNOWN、IPOST (in POST)、DEGRADED、FAILED の場合に注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-38)。注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。

表 6-38 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのシステムボードテスト状態規則

テストの状態	アラーム レベル	意味
PASSED		POST にパス。
UNKNOWN (不明)	注意	POST 状態は不明。
IPOST (in POST)	注意	POST の実行中。
DEGRADED	警告	POST 状態は機能縮小モード。
FAILED	重大	POST に不合格。

対策：アラームの理由と取ることができる対策は、テスト状態の内容によって異なります。

- ボードの電源がオンまたはオフの場合、SMS ソフトウェアが必ず自動的にテスト状態を UNKNOWN に設定します。この状態はまた、ボードがドメインに構成されていないことも意味します。ボードがドメインに構成されると、POST が実行されて適切なテスト状態が返されます。
- テスト状態が DEGRADED で警告アラームが発生した場合は、サンに連絡してください。
- テスト状態が FAILED で重大アラームが発生した場合は、ボードに何らかの問題があります。サンに連絡してください。

詳細は、POST ログファイルを調べてください。POST ログファイルは、`/var/opt/SUNSWSMS/adm/[A-R]/post` にあります。

ドメインの状態のアラーム規則 (scDmnSt)

ドメインの状態規則は、ドメインの起動、通常稼働、エラー回復中のドメインの上に基づいてアラームを生成します (表 6-39)。

表 6-39 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのドメインの状態アラーム規則

ドメインの状態	アラームレベル	意味
Booting OBP		ドメインの OpenBoot PROM が起動中
Booting Solaris		ドメインが Solaris ソフトウェアを起動中
Keyswitch Standby		ドメインのキースイッチが STANDBY (スタンバイ) 位置
Loading OBP		ドメインの OpenBoot PROM の読み込み中
Loading Solaris		OpenBoot PROM が Solaris ソフトウェアの読み込み中
Powered Off		ドメインの電源が切断されている。
Running Domain POST		ドメインの電源投入時セルフテストの実行中
Running OBP		ドメインの OpenBoot PROM が動作中
Running Solaris		ドメインで Solaris ソフトウェアが動作中
Solaris Quiesce In-progress		Solaris ソフトウェアが休止中
Solaris Quiesced		Solaris ソフトウェアが休止
Debugging Solaris	注意	Solaris ソフトウェアのデバッグ中。ハングアップ状態ではない。
Domain Exited OBP	注意	ドメインの OpenBoot PROM が終了した
Exited OBP	注意	OpenBoot PROM が終了した。

表 6-39 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのドメインの状態アラーム規則 (続き)

ドメインの状態	アラームレベル	意味
In OBP Callback	注意	ドメインが停止し、OpenBoot PROM に戻った。
OBP Debugging	注意	OpenBoot PROM をデバッグとして使用中
OBP in sync Callback to OS	注意	OpenBoot PROM が Solaris ソフトウェア同期コールバック中
Solaris Halt	注意	Solaris ソフトウェアが停止している
Solaris Halted, in OBP	注意	Solaris ソフトウェアが停止し、ドメインが OpenBoot PROM モード
Solaris Quiesce In-progress	注意	Solaris ソフトウェアが再開中
Domain Down	警告	ドメインが停止し、setkeyswitch が ON、DIAG、SECURE 位置のいずれか
In Recovery	警告	ドメインが自動システム回復中
Solaris Exited	警告	Solaris ソフトウェアが終了した
Solaris Panic	警告	Solaris ソフトウェアでパニックが発生し、パニックフロー処理が開始された。
Solaris Panic Continue	警告	デバッグモードを終了し、パニックフロー処理を続行中
Solaris Panic Debug	警告	Solaris ソフトウェアでパニックが発生し、デバッグモードになろうとしている
Solaris Panic Dump	警告	パニックのダンプが開始された。
Solaris Panic Exit	警告	パニックの結果、Solaris ソフトウェアが終了した。
Booting Solaris Failed	重大	OpenBoot PROM の動作中に起動に失敗した。
Environmental Domain Halt	重大	環境の緊急事態発生のためドメインが停止させられた。
Environmental Emergency	重大	環境の緊急事態が検出された。
In OBP Error Reset	重大	ドメインがエラーによる reset で OpenBoot PROM モード

表 6-39 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのドメインの状態アラーム規則 (続き)

ドメインの状態	アラームレベル	意味
Loading Solaris Failed	重大	OpenBoot PROM の動作中に読み込みに失敗した。
OBP Failed	重大	ドメインの OpenBoot PROM で問題が発生した
Unknown	重大	ドメインの状態を判定できなかった。また、Ethernet アドレスの場合は、ドメインの idprom イメージファイルが存在しない。サンに連絡してください。

対策：エラーが発生し、アラームが生成すると、SMS ソフトウェアによって適切な自動システム回復 (ASR) 処理が行われます。ただし、ドメインのハードウェアが安全で適切な処理に必要な条件を満たさないことがあり、その場合、回復することはできません。詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 管理者マニュアル』の「ドメインイベント」を参照してください。回復できない場合に、ただちに取りるべき対策とイベントログファイルの入手先について説明しています。サンに連絡して、必要なログファイル情報を提供してください。

ドメインのバス構成規則 (scBusCfg)

ドメインのバス構成規則は、アドレス、データ、または応答バスが構成されていないか (UNCONFIGURED)、機能縮小モード (CSB0 か CSB1) の場合に警告アラームを生成します。言い替えれば、この規則は、バスが両方の CSB を使用するよう構成されていない場合にアラームを生成します (表 6-40)。

表 6-40 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのドメインのバス構成規則

バス構成	アラームレベル	意味
BOTH		バスは両方の CSB を使用中
CSB0	警告	バスが機能縮小モード
CSB1	警告	バスが機能縮小モード
UNCONFIGURED	警告	バスが構成されていない

対策：サンに連絡して、バスを正しく構成してください。

ドメイン構成リーダーモジュール

ドメイン構成リーダーモジュールは、Sun Fire 15K/12K ドメインのハードウェア構成情報を提供します。このモジュールは、Sun Fire 15K/12K プラットフォーム用のドメインエージェントの設定中に自動的に読み込まれ、読み込み解除することはできません。

図 6-2 は、ドメインのホストの詳細ウィンドウの「ブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコン - 構成リーダー (Sun Fire 15K/12K ドメイン) - を表しています。

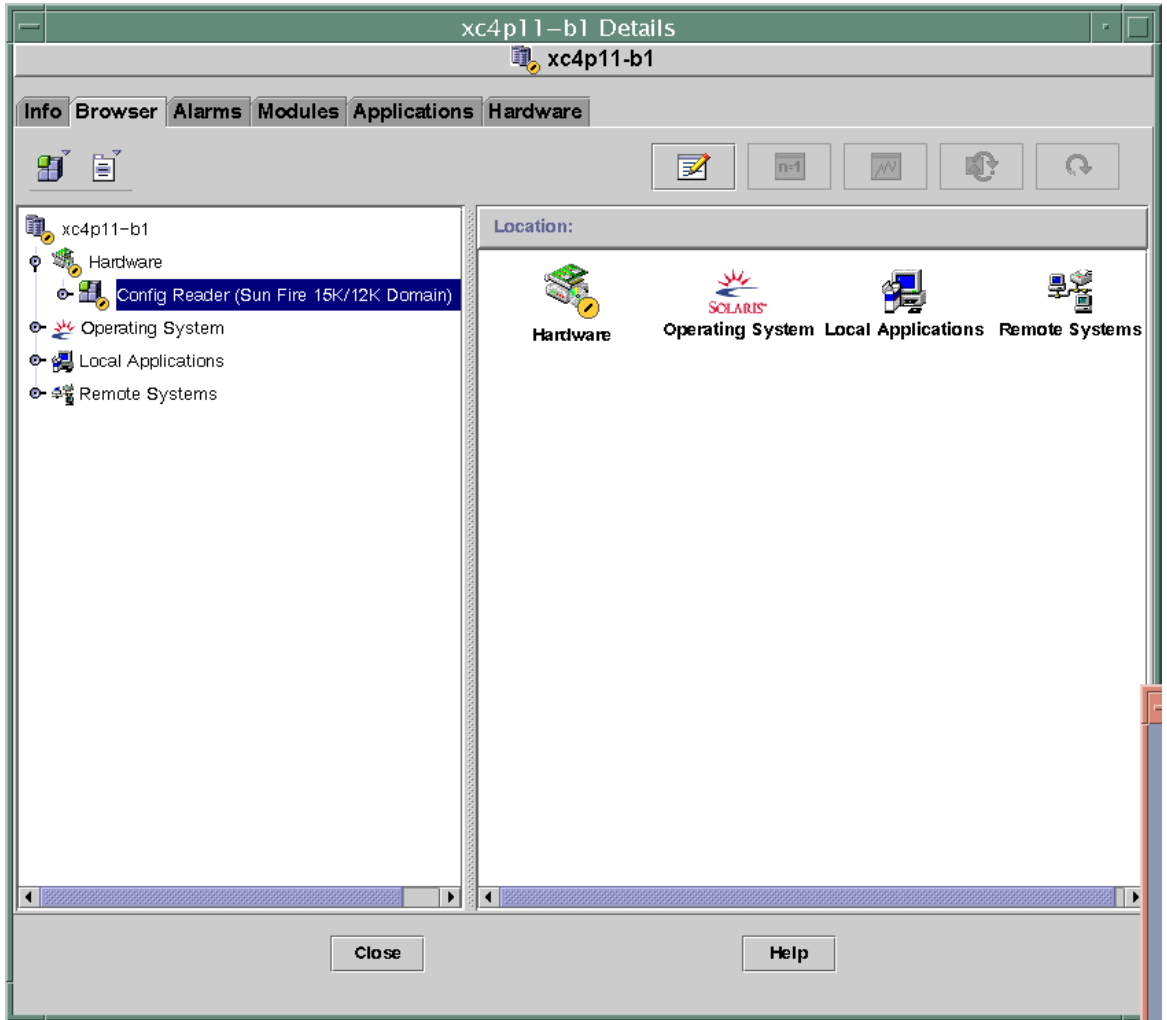


図 6-2 ドメイン構成リーダーモジュール

構成が多数の外部ディスクからなるときの注意事項

多数の外部ディスクからなる構成 (たとえば 5,000 を超えるディスクの構成) の場合に、ドメインエージェントが起動しないことがあります。その場合は、`agent-stats-d.def` ファイルを編集してから、そのドメイン上でドメインエー

ジェントを起動してください。その後で、生成されるアラームに対する属性を変更します。この変更によって、重大アラーム (赤) ではなく、警告アラーム (黄色) が返されるようになります。

その場合は、Sun Fire 15K/12K ドメインで 2 つの作業が必要になります。

1. agent-stats-d.def ファイルの編集
2. そのドメインの Sun Management Center 3.5 グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) の 2 つのアラーム属性の変更

▼ agent-stats-d.def ファイルを編集する

/var/opt/SUNWsymon/cfg/agent-stats-d.def ファイルに対して以下の操作をします。

1. procstats:size:alarmlimit:error-gt を 500000 に変更します。
2. procstats:size:alarmlimit:warning-gt を 250000 に変更します。
3. procstats:rss:alarmlimit:warning-gt を 250000 に変更します。

▼ ドメインのアラーム属性を変更する

1. Sun Management Center 3.5 GUI の階層表示で、変更するドメインをダブルクリックします。
2. 「ローカルアプリケーション」をダブルクリックします。
3. 「エージェント統計情報」をダブルクリックします。
4. 「Sun Management Center の総プロセス統計情報」をダブルクリックします。
5. 「Sun Management Center の総プロセス統計情報」テーブル内の「総仮想サイズ (KB)」の値を右クリックします。
6. プルダウンメニューの「属性エディタ」をクリックします。
7. 「アラーム」タブをクリックします。
8. 「重大のしきい値」テキストボックスの値を 500000 に変更します。
9. 「警告のしきい値」テキストボックスの値を 250000 に変更します。
10. 「適用」ボタンをクリックします。
11. 「Sun Management Center の総プロセス統計情報」テーブル内の「総仮想セットサイズ (KB)」の値上で右クリックします。

12. プルダウンメニューの「属性エディタ」をクリックします。
13. 「アラーム」タブをクリックします。
14. 「重大のしきい値」テキストボックスの値を 500000 に変更します。
15. 「警告のしきい値」テキストボックスの値を 250000 に変更します。
16. 「適用」ボタンをクリックします。

ドメイン構成リーダーモジュールの再表示間隔

ドメイン構成リーダーモジュールは、30 分おきにすべてのテーブルを完全に再表示します。

また、ドメイン構成リーダーモジュールは、内部キャッシュにプラットフォーム情報を格納します。この情報の収集、再表示方法は以下のいずれかです。

- 定期的な間隔 (現在は 2 分に設定) でディスクハードウェアとソフトウェア、トランスポートエラー回数、プロセッサ状態 (オンラインかオフライン) に変化がないか検査します。ユーザーが Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの再表示間隔値を変更することはできません。
- イベントモジュールは、DR 操作が発生するたびにドメイン構成リーダーにそのことを通知します。これは、ボードまたはコンポーネントに変化があり、その情報が内部キャッシュに格納されていることを意味します。

ブラウザでこのモジュールのデータを表示する際は、ただちにデータを再表示するよう要求できます。

▼ ドメイン構成リーダーのデータを再表示する

1. ドメインの詳細ウィンドウを開いて、「ブラウザ」タブを選択します。
2. 「システム」フォルダから任意の属性を選択し、そのデータを再表示します。
ドメイン構成リーダーが内部キャッシュのデータで再表示します。
3. 「システム」フォルダに含まれていない情報を表示するには、「ブラウザ」からその属性を選択し、データを再表示します。
内部キャッシュにあるその属性の最新値でブラウザの表示が更新されます。

ドメイン構成リーダーの属性

この節では、Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのオブジェクトごとに、表示可能な属性を表にまとめています。ドメイン構成リーダーが属性のデータを取得できなかった場合、属性値は -- になります。

システム

次の表は Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのシステムの属性をまとめています (表 6-41)。

表 6-41 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのシステム属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ノード名		システム
ホスト名		Sun Fire 15K/12K ドメインのホスト名
ホスト ID		ホストの識別番号
オペレーティング システム		Sun Fire 15K/12K ドメインで動作しているオペレーティング環境
OS のバージョン		使用されているオペレーティング環境のバージョン
アーキテクチャー		マシンのアーキテクチャー
最終更新		この構成情報の最終更新日時
総ディスク数		ドメインに存在するディスク数
総メモリー容量		総メモリー容量 (メガバイト単位)
総プロセッサ数		ドメインに割り当てられている全プロセッサを含むプロセッサ数
総テープデバイス 数		ドメインに存在するテープデバイス数

CPU/ メモリーボード

次の表は Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの CPU / メモリーボードの属性をまとめています (表 6-42)。

表 6-42 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの CPU/メモリーボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU ID		FRU ID(スロット ID) 形式の CPU/メモリーボードの識別子: CPU (SBx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
ボードのタイプ		CPU ボードのタイプの識別子: CPU
メモリーサイズ		このボードの全 CPU 用の総メモリー容量
メモリーコントローラ		この CPU / メモリーボード上のメモリーコントローラの、コンマ区切りの識別子リスト: SBx/Py の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、y はプロセッサ番号 (0 ~ 3)。
メモリーバンク		この CPU / メモリーボード上のメモリーバンクの、コンマ区切りの識別子リスト: SBx/Py/Bz の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、y はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、z はメモリーバンク番号 (0 か 1)
プロセッサリスト		この CPU/メモリーボード上のプロセッサの、コンマ区切りの識別子リスト: SBx/Py の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、y はプロセッサ番号 (0 ~ 3)
状態	scStateCheck	cfgadm からの CPU/メモリーボードの接続点の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか
最終変更		最終変更の日時、または UNKNOWN

HPCI/HPCI+ ボード

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーのホットスワップ対応 PCI (HPCI) またはホットスワップ対応 PCI プラス (HPCI+) ボードの属性をまとめています (表 6-43)。

表 6-43 Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの HPCI/HPCI+ ボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
HPCI ID		FRU ID(スロット ID) 形式の HPCI ボードの識別子 : HPCI (IOx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)。
ボードのタイプ		HPCI ボードのタイプの識別子 : HPCI か HPCI+
状態	scStateCheck	cfgadm からの HPCI ボードの接続点の状態 : OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか
最終変更		最終変更の日時、または UNKNOWN
HPCI カード数		このボードに接続されている HPCI カードの、コンマ区切りの識別子リスト : IOx/Cy/Vz の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、y はカードの電圧 (3 か 5)、z は PCI コントローラ番号 (0 か 1)

WPCI ボード

次の表は Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの Sun Fire Link PCI (WPCI) ボードの属性をまとめています (表 6-44)。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

表 6-44 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの WPCI ボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
WPCI ID		FRU ID(スロット ID) 形式の WPCI ボードの識別子 : WPCI (IOx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)。
ボードのタイプ		WPCI ボードのタイプ識別子 : WPCI

表 6-44 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの WPCI ボード属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
状態	scStateCheck	cfgadm からの WPCI ボードの接続点の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか
最終変更		最終変更の日時、または UNKNOWN
HPCI/Paroli カード		この WPCI ボード上の HPCI カードと Paroli カードの、コンマ区切りの識別子リスト。HPCI カードの識別子は IOx/Cy/vz の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、y はカードの電圧 (3 か 5)、z は PCI コントローラ番号 (0 か 1) Paroli カードの識別子は IOx/PARY の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、y は Paroli カードの番号 (0 か 1)

MaxCPU ボード

次の表は Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの MaxCPU ボードの属性をまとめています (表 6-45)。

表 6-45 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの MaxCPU ボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
MCPU ID		FRU ID(スロット ID) 形式の MaxCPU ボードの識別子: MCPU (IOx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
ボードのタイプ		ボードのタイプの識別子: MCPU
プロセッサ リスト		FRU ID(スロット ID) 形式の MaxCPU ボードの、コンマ区切りの識別子リスト: CPU (SBx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
状態	scStateCheck	cfgadm からの MaxCPU ボードの接続点の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか
最終変更		最終変更の日時、または UNKNOWN

HPCI カセット

次の表は Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのホットスワップ対応 PCI (HPCI) カセットの属性をまとめています (表 6-46)。1 つの HPCI カセットに 2 枚の HPCI カードを装着できます。

表 6-46 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの HPCI カセット属性

属性	規則 (ある場合)	説明
CARD ID		FRU ID(スロット ID) 形式の HPCI カードの識別子 : FUI ID は 3.3V カードの場合は c3v、5V カードの場 合は c5v。スロット ID は IOx/cyVz の形式で、x は ボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、y は カードの電圧 (3 または 5)、z はカードがある PCI コ ントローラ番号 (0 か 1)
デバイスタイ プ		この HPCI カードのデバイスタイプの識別子 : network、scsi-fcp、fcml など
デバイスクラ ス		この HPCI カードのデバイスクラス : Mass Storage Controller、SCSI、Network Controller、Ethernet、Network Controller、FDDI、Network Controller、ATM など
状態	scStateCheck	cfgadm からの HPCI カードの接続点の状態 : OK、 FAIL、UNKNOWN のいずれか
最終変更 名前		最終変更の日時、または UNKNOWN この HPCI カードのサン名称 : SUNW、qlc、 SUNW、qfe、SUNW、hme、network など
メーカー		この HPCI カードのメーカー
モデル		この HPCI カードのモデル識別子
バージョン		この HPCI カードのバージョン
リビジョン ID		この HPCI カードのリビジョン識別子
ベンダー ID		この HPCI カードのベンダー識別子

Paroli カード

次の表は Sun Fire 15K/12K プラットフォーム構成リーダーの並列光リンク (Paroli) カードの属性をまとめています (表 6-47)。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

注 – Paroli カードの有無は、ドメインが Sun Fire Link クラスタの一部である場合にのみ判定することができます。ドメインが、Sun Fire Link クラスタの一部でない場合には、Paroli カードテーブルには何も表示されません。ドメインに Paroli カードがないという意味ではありません。

表 6-47 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの Paroli カード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
CARD ID		FRU ID(スロット ID) 形式の Paroli カードの識別子 : PARS (IOx/PARY) の形式で、 <i>x</i> はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>y</i> は Paroli カード番号 (0 か 1)。
タイプ		Paroli カードのタイプ識別子 : DUAL か SINGLE
リンク番号		Paroli カードのリンク番号 : 0、1、2 のどれか
リンクの妥当性	scLnkVld	Paroli カードのリンクの妥当性 : VALID or INVALID
リンクのステータス	scLnkSt	Paroli カードのリンクの状態 : LINK UP、LINK DOWN、LINK NOT PRESENT、WAIT FOR SC LINK TAKEDOWN、WAIT FOR SC LINK UP、SC ERROR WAIT FOR LINK DOWN、UNKNOWN のいずれか
遠隔リンク番号		遠隔リンク番号
遠隔ポート ID		リンクの遠隔側のポート ID
遠隔クラスタメンバー		リンクの遠隔側のドメインのホスト名

プロセッサ

次の表は Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのプロセッサの属性をまとめています (表 6-48)。

表 6-48 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのプロセッサ属性

属性	規則 (ある場合)	説明
プロセッサ ID		ID(スロット ID) 形式のプロセッサの識別子 : PROC (SBx/Py) の形式で、 <i>x</i> はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>y</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)
プロセッサ番号		プロセッサ番号か、このプロセッサに割り当てられているポート ID
モジュールリビジョン		プロセッサモジュールのリビジョン番号
モジュールタイプ		プロセッサモジュールのタイプの識別子
メーカー		プロセッサのメーカーの識別子
SPARC バージョン		SPARC のバージョン識別子
クロック周波数 (MHz)		プロセッサの、メガヘルツ (MHz) 単位のクロック周波数
I キャッシュサイズ (K バイト)		キロバイト (K バイト) 単位の命令キャッシュサイズ
D キャッシュサイズ (K バイト)		キロバイト (K バイト) 単位のデータキャッシュサイズ
E キャッシュサイズ (K バイト)		キロバイト (K バイト) 単位の外部キャッシュサイズ
状態	scCPUstatus	プロセッサの現在の状態 : ONLINE、OFFLINE、POWERED OFF のいずれか
状態	scStateCheck	cfgadm からのプロセッサの接続点の状態 : OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか
最終変更		最終変更の日時、または UNKNOWN

メモリーコントローラ

次の表は Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのメモリーコントローラの属性をまとめています (表 6-49)。

表 6-49 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのメモリーコントローラ属性

属性	規則 (ある場合)	説明
メモリーコントローラ ID		ID(スロット ID) 形式のメモリーコントローラの識別子: MEMCTRL (SBx/Py) の形式で、 <i>x</i> はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>y</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)
メモリーバンクリスト		メモリーバンクのスロット ID の、コンマ区切りの識別子リスト: SBx/Py/Bz の形式で、 <i>x</i> はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、 <i>y</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、 <i>z</i> は物理メモリーバンク番号 (0 か 1)。
状態	scStateCheck	cfgadm からのメモリーコントローラの接続点の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか
最終変更		最終変更の日時、または UNKNOWN

メモリーバンク

次の表は Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのメモリーバンクの属性をまとめています (表 6-50)。

注 - このテーブルには、存在しないメモリーバンクのエントリが含まれることがあります。その場合、エントリの POST の状態属性は DISABLED になります。

表 6-50 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのメモリーバンク属性

属性	規則 (ある場合)	説明
メモリーバンク ID		ID(スロット ID) 形式のメモリーバンクの識別子: MEMBANK(SBx/Py/Bz) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、y はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、z は物理メモリーバンク番号 (0 か 1)
メモリーサイズ		このメモリーバンクのメガバイト単位のメモリーサイズ
DIMM リスト		このメモリーバンク上の DIMM の、コンマ区切りのスロット ID リスト: SBw/Px/By/Dz の形式で、w はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、x はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、y は物理メモリーバンク番号 (0 か 1)、z は DIMM 番号 (0 ~ 3)
論理バンク 0 の POST 状態	scPOSTStatus	論理メモリーバンク 0 の POST 状態: UNKNOWN、OKAY、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
論理バンク 1 の POST 状態	scPOSTStatus	論理メモリーバンク 1 の POST 状態: UNKNOWN、OKAY、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
プロセッサ ID		このメモリーバンクのプロセッサの識別子: SBx/Py の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、y はプロセッサ番号 (0 ~ 3)
EEPROM ID		EEPROM の識別子: 現在は --

DIMM

次の表は Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの DIMM (Dual Inline Memory Module) の属性をまとめています (表 6-51)。

注 – このテーブルには、存在しない DIMM のエントリが含まれることがあります。その場合、エントリの POST の状態属性は DISABLED になります。

表 6-51 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの DIMM 属性

属性	規則 (ある場合)	説明
DIMM ID		FRU ID(スロット ID) 形式の DIMM の識別子: DIMM (SBw/Px/By/Dz) の形式で、 <i>w</i> はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>x</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、 <i>y</i> は物理メモリーバンク番号 (0 か 1)、 <i>z</i> は DIMM 番号 (0 ~ 3)
メモリーサイズ		DIMM のキロバイト (K バイト) 単位のメモリーサイズ
EEPROM ID		EEPROM の識別子: 現在は --
POST 状態	scPOSTStatus	DIMM の POST 状態: UNKNOWN、OKAY、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
ECC メモリーエラー数	scDimmErrCnt	この DIMM のエラー訂正コード (ECC) メモリーエラー数

ディスクデバイス

次の表は Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのディスクデバイスの属性をまとめています (表 6-52)。

表 6-52 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのディスクデバイス属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ディスク ID		ディスクデバイスの識別子: <code>disk(ctydz)</code> の形式で、 <i>x</i> は PCI コントローラ番号 (0 か 1)、 <i>y</i> はターゲット番号、 <i>z</i> は論理装置番号 (<code>c0t64d0</code> などディスクがデュアルポートの場合は、コンマで区切った 2 つのディスクデバイス識別子が表示される)。
カード ID		カードの識別子: <code>IOx/Cy/Vz</code> の形式で、 <i>x</i> はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、 <i>y</i> はカードの電圧 (3 か 5)、 <i>z</i> は PCI コントローラ番号 (0 か 1)。
格納装置名		<code>luxadm</code> から得られた格納装置の識別子か、--。詳細は、『特記事項: <code>luxadm</code> ソフトウェア』を参照。
パス		ディスクデバイスへの物理的なパス
ブロックサイズ		ディスクをパーティションに分割したときに指定したブロックサイズ
ブロック数		ファイルシステムに割り当てられているブロック数
使用可能なブロック数		ファイルシステムで使用可能なブロック数
ファイル数		ファイルシステムに存在するファイル数
使用可能なファイル数		ファイルシステムで使用可能なファイル数
状態		このディスクの状態。OK または検出された問題を示すメッセージ。
ハードウェアエラー数	<code>scDskErrCnt</code>	ハードウェア関連のエラー数
ソフトウェアエラー数	<code>scDskErrCnt</code>	ソフトウェア関連のエラー数
トランスポートエラー数	<code>scDskErrCnt</code>	トランスポート関連のエラー数

テープデバイス

次の表は Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのテープデバイスの属性をまとめています (表 6-53)。

表 6-53 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのテープデバイス属性

属性	規則 (ある場合)	説明
テープ ID		テープデバイスに対する標準の命名規則に従ったテープデバイスの識別子
カード ID		カードの識別子: IOx/Cy/Vz の形式で、 <i>x</i> はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、 <i>y</i> はカードの電圧 (3 か 5)、 <i>z</i> はこのカードがある PCI コントローラ (0 か 1)
パス		テープデバイスへの物理的なパス
デバイス名		このテープデバイスの識別名: Exabyte 4mm、QIC 8mm archive など。名前の長さは最大で半角 64 文字。
状態		このテープデバイスの状態。OK または検出された問題を示すメッセージ。
テープエラー数	scTpeErrCnt	syslog ファイルに記録されたテープエラー数

ネットワークインタフェース

次の表は Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのネットワークインタフェースの属性をまとめています (表 6-54)。

表 6-54 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのネットワークインタフェース属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ネットワーク ID		ネットワークインタフェースの識別子: network(dman0)、network(qfe0) など
カード ID		カードの識別子: IOx/Cy/Vz の形式で、 <i>x</i> はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、 <i>y</i> はカードの電圧 (3 か 5)、 <i>z</i> は PCI コントローラ番号 (0 か 1)
記号名		このネットワークインタフェースに関連付けられているホストコンピュータのホスト名
Ethernet アドレス		このネットワークインタフェースの Ethernet アドレス

表 6-54 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの
ネットワークインタフェース属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
IP アドレス		このネットワークインタフェースの IP アドレス
状態		このネットワークインタフェースの状態: OK か空白
ネットワークエラー		このネットワークインタフェースの属性に関する情報を取得できないか、エラーコードを取得したことを示すメッセージ

WCI

次の表は Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの Sun Fire Link インタフェース (WCI) の属性をまとめています (表 6-55)。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

表 6-55 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの WCI 属性

属性	規則 (ある場合)	説明
WCI ID		FRU ID(スロット ID) の形式の Sun Fire Link インタフェースの識別子: WCI (IOx/WCI) の形式で、x は WCI がある拡張スロット番号。
名前		ドライバまたはデバイス名: SUNW, wci
互換性		WCI と互換性があるドライバ: wrsm か wssm
Paroli 数		並列光通信数

ドメイン構成リーダーのアラーム規則

この節では、ドメイン構成リーダーモジュールのアラーム規則について説明します。これらアラーム規則のしきい値を変更することはできません。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを生成します。

CPU 状態規則 (scCPUStatus)

CPU 状態規則は、プロセッサが OFFLINE の場合に注意アラームを生成します (表 6-56)。注意アラームは注意を促すためだけで、エラーではありません。

表 6-56 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの CPU 状態規則

CPU 状態	アラーム レベル	意味
ONLINE		CPU はオンライン。
OFFLINE	注意	CPU はオフライン。
POWERED OFF		CPU の電源がオフ。

対策 : `psradm(1M)` で、必要に応じてプロセッサの動作状態を変更できます。

DIMM エラー数規則 (scDimmErrCnt)

DIMM エラー数規則は、メモリーモジュールで発生した誤り訂正コード (ECC) エラー数に従って、注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-57)。

表 6-57 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの DIMM エラー数規則

エラー数	アラーム レベル	意味
5	注意	ECC メモリーエラー数が 5 個を超えている。
10	警告	ECC メモリーエラー数が 10 個を超えている。
15	重大	ECC メモリーエラー数が 15 個を超えている。

対策 : 技術者にメモリーモジュールのテストを依頼してください。syslog ファイル内のエラーの説明を参照してください。

ディスクエラー数規則 (scDskErrCnt)

ディスクエラー数規則は、ディスクで発生したハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数に従って、注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-58)。

表 6-58 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのディスクエラー数規則

エラー数	アラーム レベル	意味
5	注意	ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 5 個を超えている。
10	警告	ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 10 個を超えている。
15	重大	ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 15 個を超えている。

対策：技術者にディスクのテストを依頼してください。

POST 状態規則 (scPOSTStatus)

電源投入時セルフテスト (POST) 状態規則は、POST 状態が OKAY 以外の場合に注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-59)。

表 6-59 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの POST 状態規則

POST 状態	アラーム レベル	意味
OKAY		POST 状態は問題なし。
UNKNOWN (不明)	注意	POST 状態は不明。
BLACKLISTED	注意	コンポーネントは要注意リストに載っている。
REDLISTED	注意	コンポーネントは使用禁止リストに載っている。
DISABLED	警告	コンポーネントが使用不可。
UNDEFINED	警告	コンポーネントは定義されていない。
MISCONFIGURED	警告	コンポーネントは正しく構成されていない。
FAIL-OBP	重大	コンポーネントの OBP に問題あり。
FAIL	重大	コンポーネントの POST に失敗。

対策：

- 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。『System Management Services (SMS) 1.4 管理者マニュアル』の第5章の「ハードウェア制御」の節を参照してください。
- 警告アラームは必ずしも問題があることを示すわけではありませんが、発生した場合は、システム管理者またはサンに問題が発生する可能性があることを伝えてください。
- 重大アラームは問題があることを示します。サンに連絡してください。

詳細は、システムコントローラ上の POST ログファイルを調べてください。POST ログファイルは、`/var/opt/SUNWSMS/adm/[A-R]/post` にあります。

状態検査規則 (scStateCheck)

状態検査規則は、`cfgadm(1)` から報告されるボード、CPU、メモリーコントローラの接続点の状態が OK 以外の場合に注意アラームを生成します (表 6-60)。

表 6-60 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーの状態検査規則

状態	アラーム レベル	意味
OK		<code>cfgadm</code> から報告された接続点の状態は正常
UNKNOWN (不明)	注意	<code>cfgadm</code> から報告された接続点の状態は不明
FAIL (不良)	注意	<code>cfgadm</code> から報告された接続点の状態は不良

対策：状態が OK 以外の場合は、`cfgadm(1M)` を実行して、接続点の状態を二重に検査してください。システム管理者に連絡してください。

テープエラー数規則 (scTpeErrCnt)

テープエラー数規則は、テープドライブで発生したエラー数に従って、注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-61)。

表 6-61 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのテープエラー数規則

エラー数	アラーム レベル	意味
10	注意	テープエラー数が 10 を超えている。
20	警告	テープエラー数が 20 を超えている。
30	重大	テープエラー数が 30 を超えている。

対策：技術者にテープドライブのテストを依頼してください。syslog ファイル内のエラーの説明を参照してください。

リンクの状態規則 (scLnkSt)

リンク状態規則は、リンクの状態が LINK UP の場合にアラームを生成します (表 6-62)。

表 6-62 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのリンクの状態規則

リンク状態	アラーム レベル	意味
LINK UP		リンクが動作中
LINK DOWN	重大	リンクが停止中
LINK NOT PRESENT	注意	リンクが存在しない。
WAIT FOR SC LINK TAKEDOWN	警告	SC のリンク停止待ち状態
WAIT FOR SC LINK UP	警告	SC のリンク起動待ち状態
WAIT ERRORFOR SC LINK UP	警告	SC エラーで、SC のリンク停止状態
UNKNOWN	重大	リンク状態は不明

対策：技術者による、問題の分析・解決をしてください。syslog に詳細情報が含まれています。

リンクの妥当性規則 (scLnkVld)

リンクの妥当性規則は、リンクの妥当性が INVALID の場合に警告アラームを生成します (表 6-63)。

表 6-63 Sun Fire 15K/12K ドメイン構成リーダーのリンクの妥当性規則

リンクの妥当性	アラーム レベル	意味
VALID (妥当)		リンクの設定が正当
INVALID (不正)	警告	リンクの設定が不正

対策：導入時のトポロジによって異なりますが、設定上の問題は、ストライプ化やスイッチノード、コンピュートノード、パーティションで発生することがあります。技術者を派遣して、問題を分析・解決してください。syslog に詳細情報が含まれています。

SC 構成リーダーモジュール

Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーモジュールは、Sun Fire 15K/12K システムコントローラ (Sun CP1500 または CP2140) のハードウェア構成情報を提供します。このモジュールは、Sun Fire 15K/12K のエージェントの設定中に自動的に読み込まれ、読み込み解除することはできません。

図 6-3 は、ホスト (SC) の詳細ウィンドウの「ブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコン - 構成リーダー (Sun Fire 15K/12K SC) - を表しています。

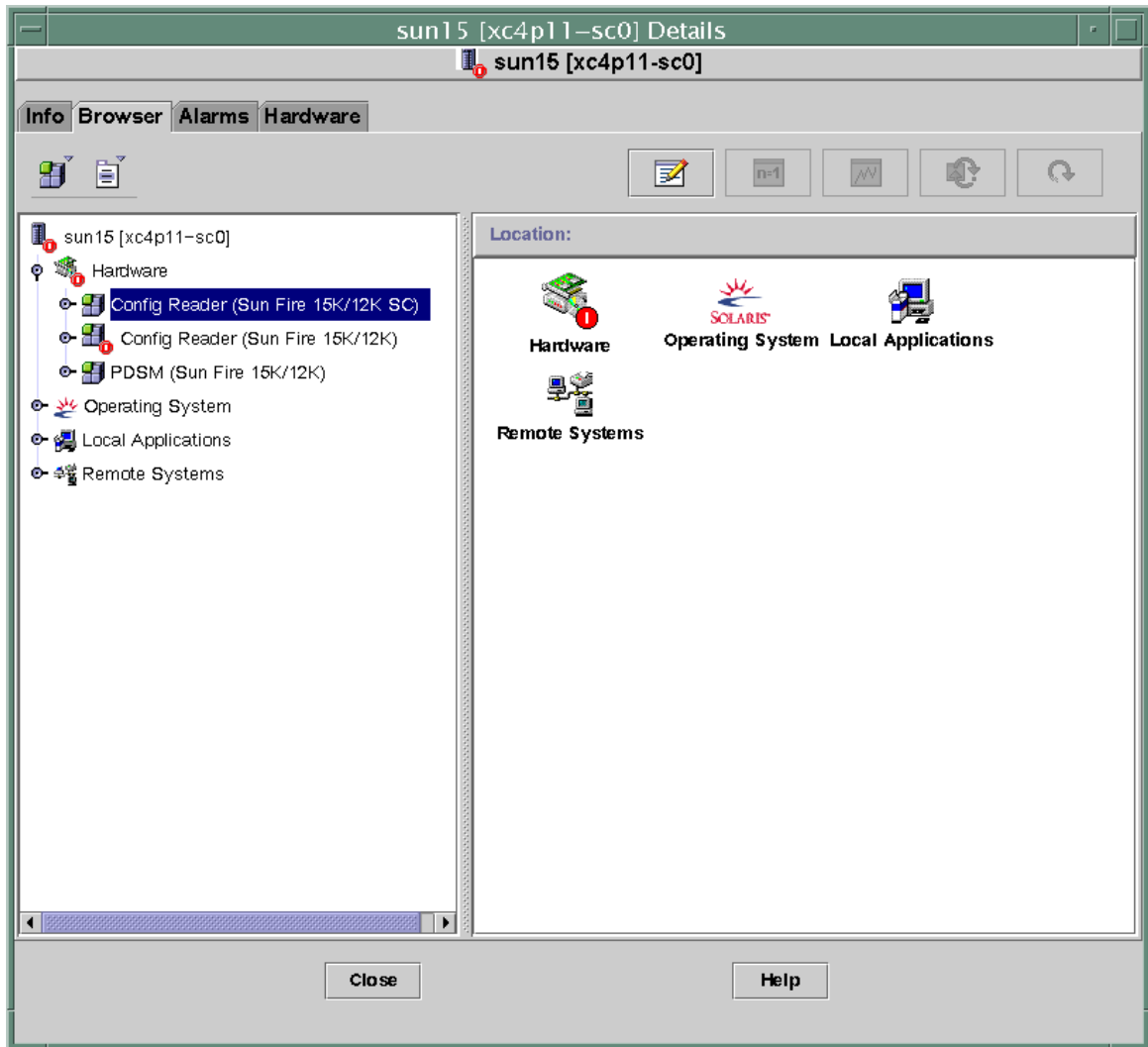


図 6-3 SC 構成リーダーモジュール

SC 構成リーダーの属性

この節では、Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのオブジェクトごとに、表示可能な属性を表にまとめています。SC 構成リーダーが属性のデータを取得できなかった場合、属性値は -- になります。

システム

次の表は Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのシステムの属性をまとめています (表 6-64)。

表 6-64 Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのシステム属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ノード名		システム
ホスト名		Sun Fire 15K/12K システムコントローラのホスト名
ホスト ID		Sun Fire 15K/12K システムコントローラのシリアル番号
オペレーティングシステム		Sun Fire 15K/12K システムコントローラ上で動作しているオペレーティング環境
OS のバージョン		使用されているオペレーティング環境のバージョン
システムクロック周波数 (MHz)		システムタイミングを供給しているクロックのメガヘルツ (MHz) 単位の周波数
アーキテクチャー		マシンのアーキテクチャー
最終更新		最後に更新が行われた日時
総ディスク数		このシステムコントローラに存在するディスク数
総メモリー容量		このシステムコントローラに存在するメモリーモジュールの、メガバイト (M バイト) 単位の総メモリー容量
総プロセッサ数		このシステムコントローラに存在するプロセッサ数 : 1
総テープデバイス数		このシステムコントローラに接続されているテープデバイス数

SC ボード

次の表は Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーの CP1500 ボード、CP2140 ボード (システムコントローラ) 関連の属性をまとめています (表 6-65)。

表 6-65 Sun Fire 15K/12K 構成リーダーの CP1500 ボード、CP2140 ボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
SC ID		FRU ID(ボード ID) 形式のシステムコントローラボードの識別子: CP1500 (CP31)、CP2140 (CP31) など
ボードのタイプ		CP1500、CP2140
電圧の状態	cpBrdVolt	CP1500 ボードに対する入力電圧の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか。CP2400 ボードへの入力電圧の状態は UNKNOWN。
メモリーモジュールリスト		このボード上の 1 または 2 枚のメモリーモジュールの識別子: CP31/P0/MM0 など
プロセッサリスト		このボード上のプロセッサの識別子: CP31/P0 など
リセット理由		前回ハードウェアリセットのリセットタイプ: S-POR など
POST の結果		電源投入時セルフテストの結果。前回リセット中に POST が実行されたかどうかを示されます。

プロセッサ

次の表は Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのプロセッサの属性をまとめています (表 6-66)。

表 6-66 Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのプロセッサ属性

属性	規則 (ある場合)	説明
プロセッサ ID		FRU ID(CPU ID) の形式のプロセッサの識別子: PROC (CP31/P0) など
プロセッサ番号		プロセッサの UPA (UltraSPARC Port Architecture) ポート ID
温度 (C)	cpCPUTemp	プロセッサの温度。温度を検出できない場合は -1
モジュールリビジョン		このモジュールタイプのリビジョン番号

表 6-66 Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのプロセッサ属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
モジュールタイプ		プロセッサのタイプ: SUNW, UltraSPARC-III など
メーカー		メーカー番号
SPARC バージョン		SPARC プロセッサアーキテクチャーのバージョン番号
クロック周波数 (MHz)		このプロセッサのメガヘルツ (MHz) 単位のクロック周波数
I キャッシュサイズ (K バイト)		このプロセッサのキロバイト (K バイト) 単位の命令キャッシュサイズ
D キャッシュサイズ (K バイト)		このプロセッサのキロバイト (K バイト) 単位のデータキャッシュサイズ
E キャッシュサイズ (K バイト)		このプロセッサのキロバイト (K バイト) 単位の外部キャッシュサイズ
状態	cpCPUStatus	プロセッサの現在の状態: ONLINE か OFFLINE

メモリーモジュール

次の表は Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのメモリーモジュールの属性をまとめています (表 6-67)。

表 6-67 Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのメモリーモジュール属性

属性	規則 (ある場合)	説明
MEMMOD ID		FRU ID(メモリーモジュール ID) 形式のメモリーモジュールの識別子: MEMMOD (CP31/P0/MM0) など
メモリーサイズ (M バイト)		メモリーモジュールのメガバイト (M バイト) 単位のメモリーサイズ

PCI デバイス

次の表は Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーの PCI デバイスの属性をまとめています (表 6-68)。

表 6-68 Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーの PCI デバイス属性

属性	規則 (ある場合)	説明
デバイス ID		FRU ID(デバイスドライバ ID) の形式の PCI デバイスの識別子: PCI(<i>xxx</i>) の形式で、 <i>xxx</i> は eri、glm、hci 1394、hme、usb のいずれか
デバイスタイプ		使用されているデバイスの入出力プロトコルタイプ: pci、sbus、network、scsi-2 など
デバイスクラス		必要な PCI クラスコード: Network Controller, Ethernet, Mass Storage Controller, SCSI, Serial Bus Controller など
クロック周波数 (MHz)		メガヘルツ (MHz) 単位のクロック周波数
名前		デバイスドライバの共通または記号名: network、scsi、firewire、usb など
メーカー		メーカー番号
モデル		デバイスドライバのモデル番号: SUNW, pci-eri、Symbios, 53C875 など
バージョン		ドライバのバージョン
リビジョン ID		ドライバのリビジョン
ベンダー ID		ベンダー番号

ディスクデバイス

次の表は Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーの ディスクデバイスの属性をまとめています (表 6-69)。

表 6-69 Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのディスクデバイス属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ディスク ID		ディスクデバイスの識別子: <code>disk(xtydz)</code> の形式で、 <i>x</i> は PCI コントローラ番号 (0 か 1)、 <i>y</i> はターゲット番号、 <i>z</i> は論理装置番号 (<code>c0t4d0</code> などディスクがデュアルポートの場合は、コンマで区切った 2 つのディスクデバイス識別子が表示される)。
バス		ディスクデバイスへの物理的なバス: <code>/pci@1f,0/pci@1,1/scsi@2/sd@0,0, ...1,0, 6,0</code> など
ブロックサイズ		ディスクをパーティションに分割したときに指定したブロックサイズ
ブロック数		ファイルシステムに割り当てられているブロック数
使用可能なブロック数		ファイルシステムで使用可能なブロック数
ファイル数		ファイルシステムに存在するファイル数
使用可能なファイル数		ファイルシステムで使用可能なファイル数
状態		このディスクの状態。OK または検出された問題を示すメッセージ。
ハードウェアエラー数	<code>cpDskErrCnt</code>	ハードウェア関連のエラー数
ソフトウェアエラー数	<code>cpDskErrCnt</code>	ソフトウェア関連のエラー数
トランスポートエラー数	<code>cpDskErrCnt</code>	トランスポート関連のエラー数

テープデバイス

次の表は Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのテープデバイスの属性をまとめています (表 6-70)。

表 6-70 Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのテープデバイス属性

属性	規則 (ある場合)	説明
テープ ID		テープデバイスに対する標準の命名規則に従ったテープデバイスの識別子: tape (0) など
パス		テープデバイスへの物理的なパス: /devices/pci@1f,0/pci@1,1/scsi@2/st@4,0 など
デバイス名		テープデバイスを識別する名前: HP DDS-3 4MM DAT など
状態		このテープデバイスの状態: OK または検出された問題を示すメッセージ。
テープエラー数	cpTpeErrCnt	syslog ファイルに記録されたテープエラー数

ネットワークインタフェース

次の表は Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのネットワークインタフェースの属性をまとめています (表 6-71)。

表 6-71 Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのネットワークインタフェース属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ネットワーク ID		ネットワークインタフェースの識別子: network(hme0)、network(scman1)、 network(scman1:1) など
記号名		このネットワークインタフェースに関連付けられているホストコンピュータのホスト名
Ethernet アドレス		このネットワークインタフェースの Ethernet アドレス
IP アドレス		このネットワークインタフェースの IP アドレス
状態		このネットワークインタフェースの状態: OK か空白
ネットワークエラー		このネットワークインタフェースの属性に関する情報を取得できないか、エラーコードを取得したことを示すメッセージ

SC 構成リーダーのアラーム規則

この節では、SC 構成リーダーモジュールのアラーム規則について説明します。アラーム規則のしきい値を変更することはできません。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを生成します。

ボード電圧規則 (scBVo1t)

ボード電圧規則は、電圧が公称値の 5% の範囲外になった場合にアラームを生成します (表 6-72)。ボードの電源がオフのとき、電圧アラームは生成されません。

表 6-72 Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのボード電圧規則

電圧しきい値	アラーム レベル	意味
OK		電圧は適正範囲内。
UNKNOWN (不明)	注意	電圧が不明。CP2140 システムコントローラの唯一の応答。
FAIL (不良)	重大	電圧値は適正範囲外。

対策：

- 重大アラームの場合は、購入先に連絡してください。



注意 – 電圧が公称値の 5% の範囲外になった場合は、システムコントローラを停止してください。電圧が公称値の 10% の範囲外になると、自動的に電源投入リセット (POR) が行われます。

詳細については『SPARCengine ASM Reference Manual』を参照してください。

- CP2140 の注意アラームは通常の状態です。何も行う必要はありません。CP1500 SC の注意アラームは、i2c デバイスドライバが読み込まれていないために、モジュールが電圧値を取得できないことを意味します。システムコントローラエージェントの設定を再実行して、必要な i2c デバイスドライバを読み込んでください。詳細は、15 ページの「Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードによる Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアの設定」を参照してください。

CPU 状態規則 (cpCPUStatus)

CPU 状態規則は、プロセッサが OFFLINE の場合に注意アラームを生成します (表 6-73)。

表 6-73 Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーの CPU 状態規則

CPU 状態	アラーム レベル	意味
ONLINE		CPU はオンライン。
OFFLINE	注意	CPU はオフライン。
POWERED OFF		CPU の電源がオフ。

対策：注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。
psradm(1M) で、必要に応じてプロセッサの動作状態を変更できます。

CPU 温度規則 (cpCPUtemp)

CPU 温度規則は、温度がデフォルトのしきい値を超えた場合にアラームを生成します (表 6-74)。ボードの電源がオフのとき、温度アラームは生成されません。

表 6-74 Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーの CPU 温度規則

温度しきい値	アラーム レベル	意味
Warning	警告	温度がデフォルトのしきい値の摂氏 69 度を超えている。
	注意	温度が不明 (プロセッサテーブルの温度属性に -1 が表示される)。
Error	重大	温度がデフォルトのしきい値の摂氏 74 度を超えている。

対策：重大アラームの場合は、サンに連絡してください。

注 - デフォルトのしきい値は、OpenBoot PROM の設定で指定します。詳細については『SPARCengine ASM Reference Manual』を参照してください。これらのしきい値を変更した場合は、ruleinit ファイルの値も変更する必要があります。

ディスクエラー数規則 (cpDskErrCnt)

ディスクエラー数規則は、ディスクで発生したハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数に従って、注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-75)。

表 6-75 Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのディスクエラー数規則

エラー数	アラーム レベル	意味
5	注意	ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 5 個を超えている。
10	警告	ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 10 個を超えている。
15	重大	ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 15 個を超えている。

対策：技術者にディスクのテストを依頼してください。

テープエラー数規則 (scTpeErrCnt)

テープエラー数規則は、テープドライブで発生したエラー数に従って、注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-76)。

表 6-76 Sun Fire 15K/12K SC 構成リーダーのテープエラー数規則

テープエラー 数	アラーム レベル	意味
10	注意	テープエラー数が 10 を超えている。
20	警告	テープエラー数が 20 を超えている。
30	重大	テープエラー数が 30 を超えている。

対策：技術者にテープドライブのテストを依頼してください。syslog ファイル内のエラーの説明を参照してください。

プラットフォーム / ドメインの状態管理 モジュール

プラットフォーム / ドメインの状態管理 (PDSM) モジュールは、SMS ではコマンド行インタフェース (CLI) を使って行っていたプラットフォームとドメインの管理、システムボードの動的再構成 (DR) 操作を、Sun Management Center 3.5 の GUI だけで行うことを可能にします。

このモジュールは、Sun Management Center ソフトウェアのインストール中に自動的にインストールされますが、初めて使用するときには、手動で読み込む必要があります。また、このモジュールは必要に応じて読み込み解除することができます。このモジュールは、プラットフォームの詳細ウィンドウ (プラットフォーム構成リーダーが自動的に読み込まれるウィンドウ) から手動で読み込む必要があります。また、このモジュールは読み込み解除できますが、読み込んだままにしておくことを推奨します。Sun Management Center のモジュールの読み込みおよび読み込み解除の具体的な情報は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

図 6-4 は、プラットフォームの詳細ウィンドウの「ブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコン - PDSM (Sun Fire 15K/12K) - を表しています。

注 - PDSM モジュールが不明なボードスロットを表示することはありませんが、プラットフォーム構成リーダー (PCR) は不明なボードスロットを表示します (125 ページの「不明なコンポーネント (構成部品)」)。

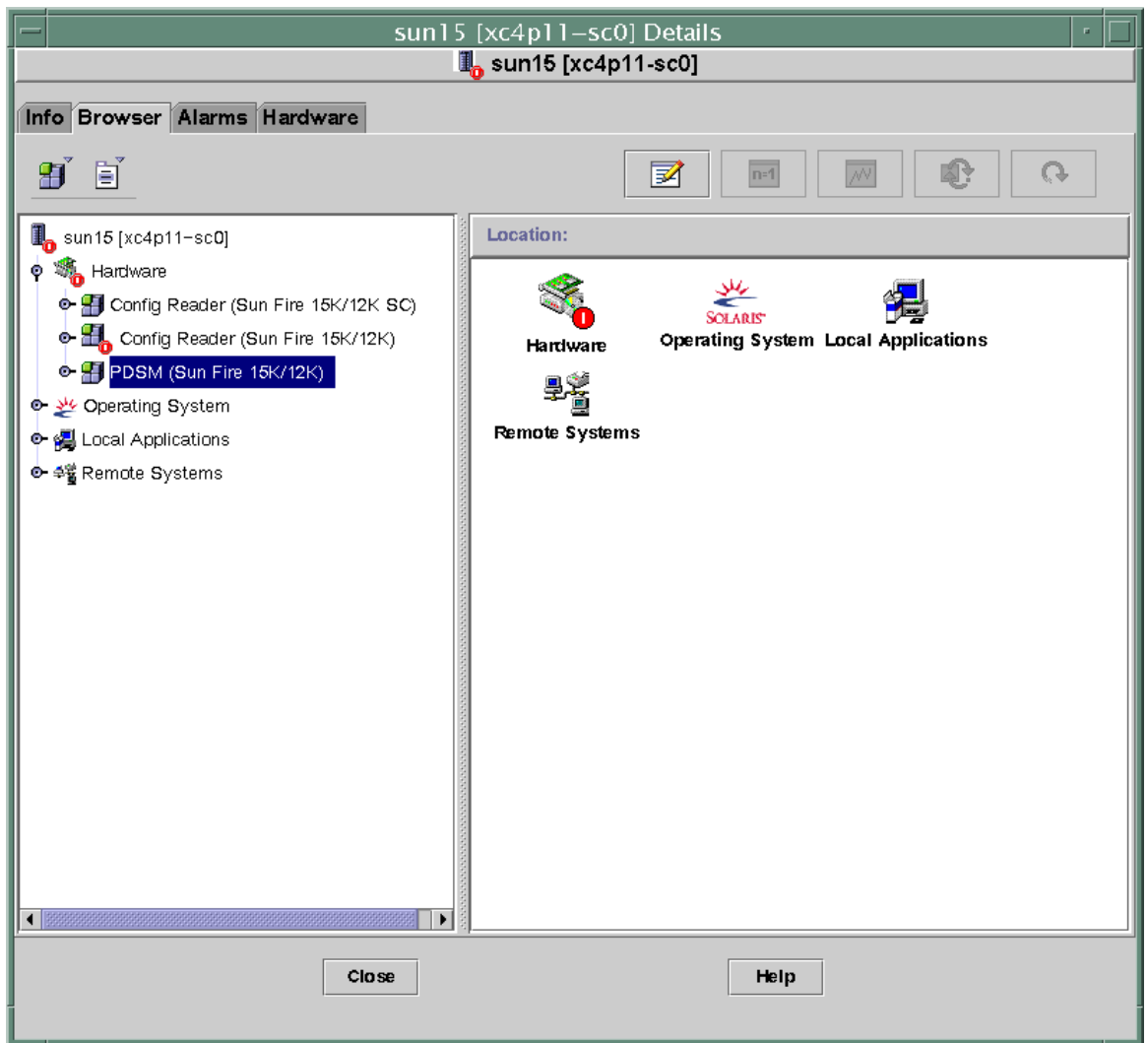


図 6-4 プラットフォーム / ドメインの状態管理 (PDSM) モジュール

PDSM モジュールには、2 通りの表示があります。

- プラットフォーム表示
- ドメイン表示 (A から R のドメインごとに 1 つ)

プラットフォーム表示

プラットフォーム表示には、以下のテーブルがあります。

- プラットフォーム情報
- プラットフォームのスロット 0 のボード
- プラットフォームのスロット 1 のボード
- プラットフォームの空きスロット
- 電源装置
- ファントレー

プラットフォーム情報

次の表は Sun Fire 15K/12K の PDSM モジュールが提供するプラットフォーム情報の属性をまとめています (表 6-77)。

表 6-77 Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのプラットフォーム情報属性

属性	規則 (ある場合)	説明
プラットフォーム ID		プラットフォームの識別子
プラットフォームタイプ		プラットフォームのタイプ
最大ドメイン数		最大ドメイン数 (18)
アクティブなドメイン数		この Sun Fire 15K/12K システム上のアクティブなドメイン数
SC の電源		システムコントローラの電源状態: ON か OFF

プラットフォームのスロット 0 のボード

次の表は Sun Fire 15K/12K の PDSM モジュールが提供するプラットフォームのスロット 0 のボードの属性をまとめています (表 6-78)。

表 6-78 Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのプラットフォームのスロット 0 のボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ボード ID		FRU ID(スロット ID) 形式の、スロット 0 にあるボードの識別子: CPU (SBx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
ボードの状態		スロット 0 のボードの状態: ACTIVE、ASSIGNED、FREE のいずれか
電源の状態		スロット 0 のボードの電源の状態: ON か OFF

表 6-78 Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのプラットフォームの
スロット 0 のボード属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
テストの状態		CPU のテスト状態 : UNKNOWN_TEST_STATUS、 IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
テストレベル		スロット 0 のボードに対する POST テストのレベル
ドメイン ID		スロット 0 のボードに割り当てられているドメイン の識別子 : A ~ R か UNASSIGNED

プラットフォームのスロット 1 のボード

次の表は Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールが提供するプラットフォームのスロット 1 のボードの属性をまとめています (表 6-79)。

表 6-79 Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのプラットフォームの
スロット 1 のボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ボード ID		FRU ID(スロット ID) 形式の、スロット 1 にある ボードの識別子 : HPCI (IOx) の形式で、x はボード がある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
ボードの状態		スロット 1 のボードの状態 : ACTIVE、ASSIGNED、 FREE のいずれか
電源の状態		スロット 1 のボードの電源の状態 : ON か OFF
テストの状態		ボードのテスト状態 : UNKNOWN_TEST_STATUS、 IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
テストレベル		スロット 1 のボードに対する POST テストのレベル
ドメイン ID		スロット 1 のボードに割り当てられているドメイン の識別子 : A ~ R か UNASSIGNED

プラットフォームの空きスロット

次の表は Sun Fire 15K/12K の PDSM モジュールが提供するプラットフォームの空きスロットの属性をまとめています (表 6-80)。

表 6-80 Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのプラットフォームの空きスロット属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ボード ID		使用可能なボードの識別子: 入出力カード番号 (IOx) か、システムボード番号 (SBx) の形式で、x はこのボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
ボードの状態		使用可能なボードの状態: FREE か ASSIGNED
電源の状態		使用可能なボードの電源状態: OFF か --
テストの状態		使用可能なボードのテスト状態: UNKNOWN か --
テストレベル		このボードに対する POST テストレベル
ドメイン ID		使用可能なボードに割り当てられているドメインの識別子: A ~ R か UNASSIGNED

電源装置

次の表は Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールが提供するプラットフォームの電源装置の属性をまとめています (表 6-81)。

表 6-81 Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのプラットフォームの電源装置属性

属性	規則 (ある場合)	説明
電源装置 ID		FRU ID(スロット ID) の形式の電源装置の識別子: PS (PSx) の形式で、x は電源装置番号 (0 ~ 5)
電源の状態		DC 0 か DC 1 のいずれかがオンの場合 ON。DC 0 および DC 1 の両方がオフの場合 OFF。

ファントレイ

次の表は Sun Fire 15K/12K の PDSM モジュールが提供するプラットフォームのファントレイの属性をまとめています (表 6-82)。

表 6-82 Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのプラットフォームのファントレイの属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ファントレイ ID		FRU ID (スロット ID) の形式のファントレイの識別子: FT (FTx) の形式で、x はファントレイ番号 (0 ~ 7)
電源の状態		ファントレイの電源状態: ON か OFF
ファンの速度		ファンの速度: OFF、NORMAL、HIGH のいずれか

ドメイン X 表示

ドメイン X 表示 (X は A から R の範囲のドメイン識別子) には、そのドメインに関する次のテーブルがあります。

- ドメイン X の情報
- ドメイン X のスロット 0 のボード
- ドメイン X のスロット 1 のボード
- ドメイン X の空きスロット

ドメイン X の情報

次の表は Sun Fire 15K/12K の PDSM モジュールが提供するドメイン X 情報の属性をまとめています (表 6-83)。

表 6-83 Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのドメイン X 情報属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ドメイン ID		ドメインの識別子 : A ~ R
ドメインのタグ		ドメインのタグ : domainX の形式で、X は A ~ R
ドメインの状態		SMS の <code>showplatform</code> コマンドの出力で得られるドメインの状態 : Running Solaris、Powered Off など 詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』の <code>showplatform(1M)</code> を参照。
Solaris ノード名		Solaris オペレーティング環境ノードのホスト名
キースイッチ		仮想のキースイッチ位置 : ON、STANDBY、OFF、DIAG、SECURE、UNKNOWN のいずれか
ドメイン ACL		ドメインのアクセス制御リスト - コンマ区切りのリスト : 入出力カード番号 (IOx) か、システムボード番号 (SBx) の形式で、x はこのボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
主入出力ボード		このドメインとシステムコントローラ間の通信に使用されている主入出力ボードの識別子 : HPCI (IOx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
内部 Ethernet ボード		アクティブな Ethernet コントローラがある入出力ボードの識別子 : HPCI (IOx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)

ドメイン X のスロット 0 のボード

次の表は Sun Fire 15K/12K の PDSM モジュールが提供するドメイン X のスロット 0 のボード属性をまとめています (表 6-84)。

表 6-84 Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのドメイン X のスロット 0 のボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ボード ID		FRU ID(スロット ID) 形式の、スロット 0 にあるボードの識別子: CPU (SBx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
ボードの状態		スロット 0 のボードの状態: ACTIVE、ASSIGNED、FREE のいずれか
電源の状態		スロット 0 のボードの電源の状態: ON か OFF
テストの状態		CPU のテスト状態: UNKNOWN_TEST_STATUS、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
テストレベル		スロット 0 のボードに対する POST テストのレベル
ドメイン ID		スロット 0 のボードに割り当てられているドメインの識別子: A ~ R か UNASSIGNED

ドメイン X のスロット 1 のボード

次の表は Sun Fire 15K/12K の PDSM モジュールが提供するドメイン X のスロット 1 のボード属性をまとめています (表 6-85)。

表 6-85 Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのドメイン X のスロット 1 のボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ボード ID		FRU ID(スロット ID) 形式の、スロット 1 にあるボードの識別子: HPCI (IOx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
ボードの状態		スロット 1 のボードの状態: ACTIVE、ASSIGNED、FREE のいずれか
電源の状態		スロット 1 のボードの電源の状態: ON か OFF

表 6-85 Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのドメイン X のスロット 1 のボード属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
テストの状態		CPU のテスト状態 : UNKNOWN_TEST_STATUS、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
テストレベル		スロット 1 のボードに対する POST テストのレベル
ドメイン ID		スロット 1 のボードに割り当てられているドメインの識別子 : A ~ R か UNASSIGNED

ドメイン X の空きスロット

次の表は Sun Fire 15K/12K の PDSM モジュールが提供するドメイン X の空きスロット属性をまとめています (表 6-86)。

表 6-86 Sun Fire 15K/12K PDSM モジュールのドメイン X の空きスロット属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ボード ID		使用可能なボードの識別子 : 入出力カード番号 (IOx) か、システムボード番号 (SBx) の形式で、x はこのボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)。
ボードの状態		使用可能なボードの状態 : FREE か ASSIGNED
電源の状態		使用可能なボードの電源状態 : OFF か --
テストの状態		使用可能なボードのテスト状態 : UNKNOWN か --
テストレベル		このボードに対する POST テストレベル
ドメイン ID		使用可能なボードに割り当てられているドメインの識別子 : A ~ R か UNASSIGNED

動的再構成 (DR) モジュール

動的再構成 (DR) モジュールの詳細は、第 8 章を参照してください。

SC 監視モジュール

SC 監視モジュールは、アクティブな Sun Fire 15K/12K システムコントローラ上の SMS (System Management Services) デーモンを監視します。Sun Fire 15K/12K SC 監視モジュールは、システムコントローラにエージェントをインストールしたときに自動的に読み込まれますが、手動で読み込み解除できます。

図 6-5 は、プラットフォームの詳細ウィンドウの「ブラウザ」タブと「ローカルアプリケーション」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコン - SC 監視 (Sun Fire 15K/12K) - を表しています。

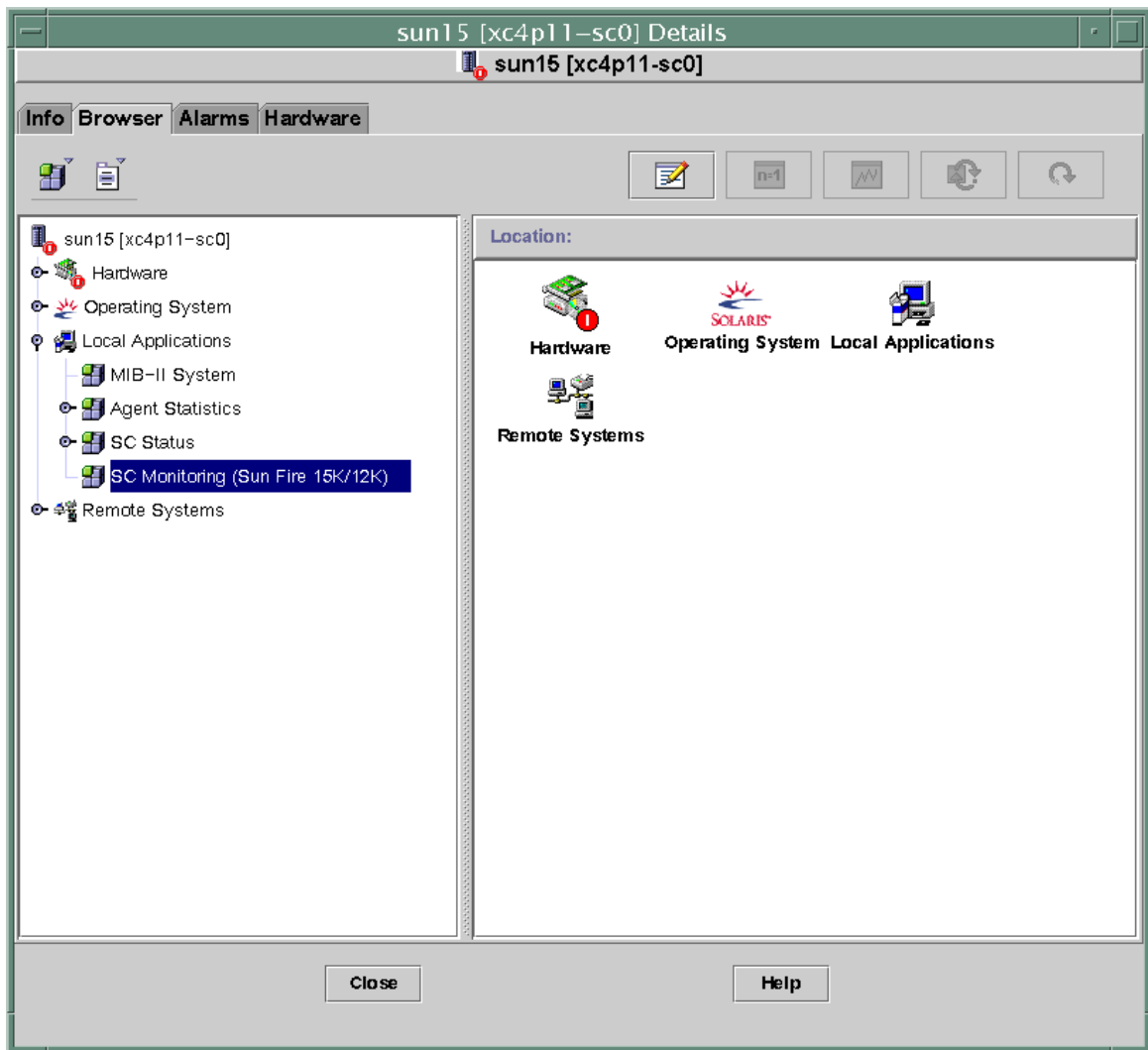


図 6-5 SC 監視モジュール

SMS デーモンの多くは Sun Fire 15K システムの動作にきわめて重要です。SC 監視モジュールは、SMS デーモンに問題が発生したとき (再起動を含む)、割り当てられている優先順位に従ってアラームを生成します。SMS デーモンについての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 管理者マニュアル』を参照してください。現在のプロセスの状態の表示については、ps(1) コマンドを参照してください。

このモジュールは、以下の SMS デーモンを監視します。

- Capacity-on-Demand デーモン
- ドメイン構成管理 (dca) - ドメインごとに 1 つ

- ドメインサービス監視デーモン (dsmd)
- ドメイン X サーバー (x/dxs、x は a ~ r の範囲)
- イベントフロントエンドデーモン (efe)
- Error and Fault handling デーモン (efhd)
- イベントログアクセスデーモン (elad)
- イベントレポートデーモン (erd)
- 環境状態監視デーモン (esmd)
- フェイルオーバー管理デーモン (fomd)
- FRU アクセスデーモン (frad)
- ハードウェアアクセスデーモン (hwad)
- キー管理デーモン (kmd)
- 管理ネットワークデーモン (mand)
- メッセージログ記録デーモン (mld)
- OpenBoot PROM サポートデーモン (osd)
- プラットフォーム構成デーモン (pcd)
- SMS 起動デーモン (ssd)
- タスクマネージャデーモン (tmd)

SC 監視の属性 - SC デーモンプロセス

次の表は Sun Fire 15K/12K SC デーモンプロセスの属性をまとめています (表 6-87)。

表 6-87 Sun Fire 15K/12K SC デーモンプロセスの属性

属性	規則 (ある場合)	説明
コマンド		このデーモンのコマンド名
プロセス ID		このデーモンのプロセス識別番号
親プロセス ID		このデーモンの親のプロセス識別番号
ユーザー ID		このデーモンが管理下にあるユーザー識別子
ユーザー名		ユーザー ID に関連付けられているユーザー名
実効ユーザー ID		実行ユーザー識別子
グループ ID		ユーザーのグループ識別子
実効グループ ID		ユーザーの実効グループ識別子
セッション ID		セッションリーダーのプロセス識別子
プロセスグループ ID		プロセスグループリーダーのプロセス識別子
TTY		このデーモン用の制御端末 (つねに空白)

表 6-87 Sun Fire 15K/12K SC デーモンプロセスの属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
開始時刻		プロセスが起動された時刻 (24 時間以内の場合) か 日付け (24 時間を超える場合)
CPU 使用時間		このプロセスが動作している CPU 時間
状態		デーモンの状態: 動作中のとき R、休眠中のとき S など
待ちチャンネル		プロセスが休眠しているイベントのアドレス。空 白の場合、プロセスは動作中。
スケジューリングクラス		このプロセスのスケジューリングクラス名 (使用 可能な 3 つのスケジューリングアルゴリズムのい ずれかを示す): <ul style="list-style-type: none"> • sys - カーネルが所有するシステムプロセス (最 高の優先順位) • rt - リアルタイムプロセス (スケジューラに よって変更されることのない一定の優先順位の プロセス) • ts - タイムシェアリングプロセス (大量の CPU 時間を消費する場合は低い優先順位、大量の CPU 時間を消費しない場合は高い優先順位が動 的に割り当てられるプロセス)
アドレス		このプロセスのメモリーアドレス
サイズ		スワップ可能なプロセスのイメージのメインメモ リー上のサイズ (ページ単位)
優先順位		プロセスの優先順位
nice		プロセスのシステムスケジューリング優先順位の 10 進値 (該当する場合)
CPU 使用時間率		使用可能な CPU 時間に対する割合で表した、こ のデーモンの現在の CPU 使用量
メモリー使用率		マシンの全物理メモリーに対する割合で表した、 このデーモンの現在のメモリー使用量
コマンド行	rDownProc	このデーモンの起動に使用された完全なコマンド 文字列

SC 監視アラーム規則 - プロセス停止規則 (rDownProc)

この節では、SC 監視モジュールのアラーム規則について説明します。このアラーム規則のしきい値を変更することはできません。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを生成します。

プロセス停止規則は、dca または dxs 以外の SMS デーモンが停止した場合に重大アラームを生成します。SC 監視モジュールテーブルの「コマンド行」欄が -- の場合、プロセスは停止しているとみなされます。

対策：システム管理者に連絡してください。

SC 状態モジュール

SC 状態モジュールは、システムコントローラがメインまたは予備のどちらの状態であるかを監視し、どのシステムコントローラがアクティブ、すなわちメインのシステムコントローラであるかを簡単に判定できます。システムコントローラの状態についての詳細は、SC 構成リーダーのテーブルを参照してください。

Sun Fire 15K/12K SC 状態モジュールは、システムコントローラにエージェントをインストールしたときに自動的に読み込まれますが、手動で読み込み解除できます。

このモジュールを見つけるには、最初に SC の詳細ウィンドウを開きます。SC の詳細ウィンドウの表示の詳細は、159 ページの「SC 構成リーダーモジュール」を参照してください。

図 6-6 は、ホスト (SC) の詳細ウィンドウの「ブラウザ」タブと「ローカルアプリケーション」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコン - SC 状態 - を表しています。図 6-6 にはまた、「SC 状態」アイコンの下に「SC 情報」アイコンも示されています。このアイコンをクリックすると、SC 情報テーブルが表示されます。

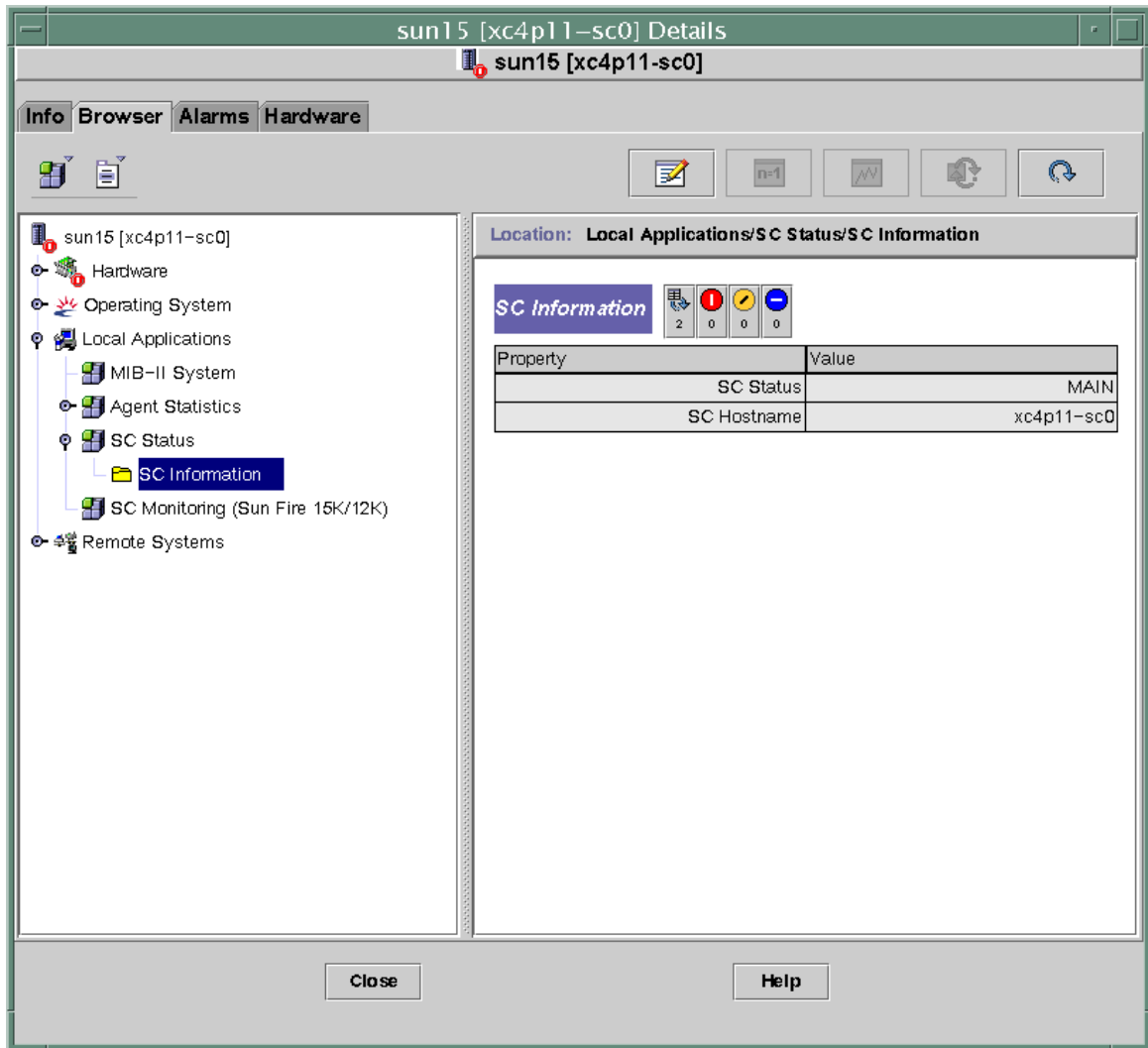


図 6-6 SC 情報 (MAIN の状態であることが示されている)

SC 状態属性

SC 状態属性値は、以下の 3 つのうちのいずれかです。

- MAIN - このシステムコントローラはメインとして機能している。
- SPARE - このシステムコントローラは予備として機能している。
- UNKNOWN - このシステムコントローラの役割は不明です。

SC 状態のアラーム規則 (rscstatus)

SC 状態アラーム規則は、システムコントローラの状態が MAIN 以外の場合に使用不可アラームを生成します。

プラットフォームおよびドメインログファイルの表示

エラーの診断のためにプラットフォームおよびドメインログファイルを表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-run ccat /var/opt/SUNWsymon/log/platform.log
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-run ccat /var/opt/SUNWsymon/log/agent.log
```


第7章

システムコントローラからのプラットフォーム / ドメインの状態管理

この章では、Sun Management Center 3.5 の GUI と PDSM モジュールを使って Sun Fire 15K/12K システムに対する動的再構成 (DR) 操作とその他の管理操作を行う方法を説明します。DR 操作とは、Sun Fire 15K/12K ドメインに対するボードの追加や、ドメインからのボードの削除、ドメイン間のボードの移動などの操作のことです。こうした DR 操作の一部または他の操作の一部として、ボードのテストや ACL の更新、ボードの電源のオンまたはオフなどのその他の管理操作を行うことができます。

Sun Fire 15K/12K システム専用の 2 つのモジュールには、Sun Fire 15K/12K プラットフォームとドメインを管理するための機能が含まれています。

- プラットフォーム / ドメインの状態管理 (PDSM) — システムコントローラ上で動作するモジュールです (この章の後の節で説明)。
- 動的再構成 (DR) - Sun Fire 15K/12K ドメイン上で動作するモジュールです。このモジュールの使用方法については、第 8 章を参照してください。

Sun Management Center コンソールからの PDSM 監視および管理機能には、1 つのプラットフォーム表示と最高 18 個のドメイン表示が用意されています。このモジュールがある場所と表示可能なテーブルについては、170 ページの「プラットフォーム / ドメインの状態管理モジュール」を参照してください。

前提条件

Sun Management Center 3.5 の GUI を使って DR 操作を行うには、DR 操作そのものを理解する必要があります。Sun Fire 15K/12K システムにおける DR 操作については、以下のマニュアルを参照してください。

- 『System Management Services (SMS) 1.4 Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』 - この章で取り上げる PDSM モジュールの基礎となる操作について解説

- 『Sun Fire 15K/12K Dynamic Reconfiguration (DR) ユーザーマニュアル』 - 第 8 章で取り上げている、ドメイン DR モジュールの基礎となる操作について解説
- cfigadm のマニュアルページ - 第 8 章で取り上げている ドメイン DR モジュールの基礎となるコマンドについて解説

DR 操作に関する一般的な事項と判明している制限事項および問題点については、『System Management Services (SMS) 1.4 インストールマニュアル』および『ご使用にあたって』を参照してください。

PDSM がサポートする SMS のコマンド

プラットフォーム / ドメインの状態管理モジュールは、System Management Services (SMS) のコマンド行インタフェース (CLI) コマンドの一部をサポートしています。言い換えれば、SMS の CLI コマンドを利用しなくても、Sun Management Center のグラフィカルユーザーインタフェース (GUI) を使って同様にシステムコンポーネントを監視・管理することができます。SMS コマンドについての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』を参照してください。

表 7-1 は、PDSM がサポートしている SMS の CLI コマンドの一覧です。

表 7-1 PDSM がサポートする SMS の CLI コマンド

SMS の CLI コマンド	Sun Management Center の GUI メニュー項目	説明
addboard	ボードを追加	ドメインにボードを割り当て、接続、構成します。
addtag	タグを追加	ドメインにドメイン名 (タグ) を割り当てます。
deleteboard	ボードを削除	ドメインからボードを構成解除、切断、割り当て解除します。
deletetag	タグを削除	ドメインに割り当てられているドメイン (タグ) を削除します。
moveboard	ボードを移動	別のドメインにボードを移動します。
poweroff	電源オフ	ボードの電源をオフにします。
poweron	電源オン	ボードの電源をオンにします。
rcfgadm -t	ボードのテスト	ボードをテストします。

表 7-1 PDSM がサポートする SMS の CLI コマンド (続き)

SMS の CLI コマンド	Sun Management Center の GUI メニュー項目	説明
reset	ドメインのリセット	指定されたドメインのすべての CPU ポートにリセットを送信します。
setkeyswitch	キースイッチ	仮想キースイッチの位置を変更します。
setupplatform -a -r	アクセス制御リスト	既存の ACL に対するボードの追加と削除

システムコントローラからのプラットフォーム管理操作

この節では、システムコントローラからプラットフォーム全体の管理操作を行う方法を説明します。具体的には、以下の DR 操作手順を説明します。

- 「ボードの追加」
- 「ボードの削除」
- 「ボードの移動」

またこの節では、以下の DR 操作手順も説明します。

- 「ボードまたは周辺装置の電源オン」
- 「ボードまたは周辺装置の電源オフ」
- 状態の表示

プラットフォーム情報の表示

システムコントローラからプラットフォーム全体の管理操作を行うには、「ハードウェア」タブにある PDSM モジュールのプラットフォーム表示関係のテーブルを使用します。プラットフォーム表示のテーブルについての詳細は、171 ページの「プラットフォーム表示」を参照してください。

ボードの追加

ボードの追加機能は、プラットフォーム上のドメインにボードを割り当て、接続、または構成します。ボードの追加についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』の `addboard(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを追加する

注 – 空きスロットのみ割り当てることができます。

1. `platadmn` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. プラットフォームのスロット 0 または 1 のボード、あるいは空きスロットのテーブル内の、追加するボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「ボードを追加」をクリックします。
「ボードの追加」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認して、ドロップダウンリストボックスからボードの追加先のドメインを選択します。
5. 追加後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンをクリックします。
6. 「ボードを追加」ボタンをクリックします。
パネルにボードの追加処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードの削除

ボードの削除機能は、プラットフォーム上のドメインからシステムボードを構成解除、切断、または割り当て解除します。ボードの削除についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』の `deleteboard(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを削除する

1. `platadm` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. プラットフォームのスロット 0 または 1 のボードのテーブル内の、削除するボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「ボードを削除」をクリックします。
「ボードの削除」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認します。
5. 削除後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンをクリックします。
6. 「ボードを削除」ボタンをクリックします。
パネルにボードの削除処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードの移動

ボードの移動機能は、プラットフォーム上の別のドメインにボードを移動します。移動するボードは、関係する両方のドメインの ACL に登録されている必要があります。ボードの移動の詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』の `moveboard(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを移動する

1. `platadm` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. プラットフォームのスロット 0 または 1 のボードのテーブル内の、移動するボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「ボードを移動」をクリックします。
「ボードの移動」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認して、ドロップダウンリストボックスから、ボードの移動先のドメインを選択します。

5. 移動後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンをクリックします。
6. 「ボードを移動」ボタンをクリックします。
パネルにボードの移動処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードまたは周辺装置の電源オン

電源オン機能は、プラットフォーム上のボード、電源装置、ファントレーの電源をオンにします。ボードまたは周辺装置の電源オン操作についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』の `poweron(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードまたは周辺装置の電源をオンにする

1. `platoper` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. 対応するプラットフォーム表示テーブル内の、電源をオンにするボード、電源装置、またはファントレーを右クリックします。
操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「電源オン」をクリックします。
「電源オン」パネルが表示されます。
4. 適切なボードまたは周辺装置を選択したことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

ボードまたは周辺装置の電源オフ

電源オフ機能は、プラットフォーム上のボード、電源装置、ファントレーの電源をオフにします。ボードまたは周辺装置の電源オフ操作についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』の `poweroff(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードまたは周辺装置の電源をオフにする

1. platoper グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. 対応するプラットフォーム表示テーブル内の、電源をオフにするボード、電源装置、またはファントレーを右クリックします。
操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「電源オフ」をクリックします。
「電源オフ」パネルが表示されます。
4. 適切なボードまたは周辺装置を選択したことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

状態の表示

状態の表示機能は、ボードまたはスロットに対して最後に実行された DR (動的再構成) 関係のコマンドの状態を表示します。この状態表示は、現在実行されている状態に基づいて動的に更新されます。コマンドがエラーで停止した場合は、エラーメッセージが表示されます。ただし、コマンドが実行されていないか、コマンドがエラーなしで終了した場合は、「No status from the agent」というメッセージが表示されます。

注 – 許可されていない DR 操作を行おうとすると、状態メッセージが返されます。今回のリリースにおける DR 操作の制限事項については、『System Management Services (SMS) 1.4 インストールマニュアル』および『ご使用にあたって』を参照してください。

▼ 状態を表示する

1. platadmin または platoper グループのメンバーとしてログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、状態を表示するシステムボードまたはスロットを右クリックします。
ボードまたはスロットの操作メニューが表示されます。

3. メニューから「状態の表示」をクリックします。

「状態の表示」ダイアログボックスが表示され、最新の DR コマンドの実行状態が示されます (コマンドが実行されている場合)。最新の状態が表示されるまでに、少し時間 (最長で 1 分) がかかることがあります。

このとき、DR 処理で問題が発生した場合は、状態として、223 ページの図 8-6 に示すようなメッセージが表示されます。

構成処理が正常終了するか、コマンドが実行されていない場合は、223 ページの図 8-7 に示すようなメッセージが表示されます。

4. 状態の表示を確認したら、「了解」ボタンをクリックします。

システムコントローラからのドメイン管理操作

この節では、システムコントローラから Sun Fire 15K/12K ドメインの管理操作を行う方法を説明します。具体的には、以下の DR 操作手順を説明します。

- 「ボードの追加」
- 「ボードの削除」
- 「ボードの移動」

またこの節では、以下の DR 操作手順も説明します。

- ボードの電源オン
- ボードの電源オフ
- ボードのテスト
- 「タグの追加」
- 「タグの削除」
- 「キースイッチ位置の変更」
- アクセス制御リスト (ACL) の更新
- ドメインのリセット
- 状態の表示

システムコントローラからのドメイン情報の表示

システムコントローラから Sun Fire 15K/12K ドメインの管理操作を行うには、「ハードウェア」タブにある PDSM モジュールのドメイン表示関係のテーブルを使用します。ドメイン表示のテーブルについての詳細は、175 ページの「ドメイン X 表示」を参照してください。

ボードの追加

ボードの追加機能は、特定のドメインにボードを追加します。ボードの追加についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』の `addboard(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを追加する

1. `platadm` か `dmnxadm`、`dmnxrcfg` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。`x` は追加するボードが存在するドメインの ID です。
2. ドメイン `X` のスロット 0 または 1 のボードのテーブル内の、追加するボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「ボードを追加」をクリックします。
「ボードの追加」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認して、ボードの追加先のドメインを選択します。
5. 追加後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンをクリックします。
6. 「ボードを追加」ボタンをクリックします。
パネルにボードの追加処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードの削除

ボードの削除機能は、特定のドメインからシステムボードを構成解除、切断、または割り当て解除します。ボードの削除についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』の `deleteboard(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを削除する

1. `platadm` か `dmnxadm`、`dmnxrcfg` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。`x` は、削除するボードが存在するドメインの ID です。

2. ドメイン X のスロット 0 または 1 のボードのテーブル内の、削除するボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「ボードを削除」をクリックします。
「ボードの削除」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認します。
5. 削除後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンをクリックします。
6. 「ボードを削除」ボタンをクリックします。
パネルにボードの削除処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードの移動

ボードの移動機能は、別のドメインにボードを移動します。移動するボードは、関係する両方のドメインの ACL に登録されている必要があります。ボードの移動の詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』の `moveboard(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを移動する

1. Sun Management Center コンソールにログインします。
`platadm` グループのメンバーとしてログインした場合は、追加のアクセス権限は必要ありません。`dmnxadm` または `dmnxrcfg` グループ (x はドメイン) のメンバーとしてログインした場合は、操作に関係する両方のドメインに対するアクセス権が必要です。
2. ドメイン X のスロット 0 または 1 のボードのテーブル内の、移動するボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「ボードを移動」をクリックします。
「ボードの移動」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認して、ボードの移動先のドメインを選択します。
5. 移動後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンをクリックします。

6. 「ボードを移動」ボタンをクリックします。
パネルにボードの移動処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードの電源オン

ボードの電源オン機能は、特定のドメインにあるボードの電源をオンにします。ボードの電源オン操作についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』の `poweron(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードの電源をオンにする

ボードの電源をオンにするには、そのボードの電源状態が OFF である必要があります。

1. `platadm` か `platoper`、`dmnxadmin`、`dmnxrcfg` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。`x` は、電源をオンにするボードが存在するドメインの ID です。
2. 適切なドメイン `X` 表示のテーブル内の、電源をオンにするボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「電源オン」をクリックします。
「電源オン」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

ボードの電源オフ

ボードの電源オフ機能は、特定のドメインにあるボードの電源をオフにします。ボードの電源オフ操作についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』の `poweroff(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードの電源をオフにする

ボードの電源をオフにするには、そのボードの電源状態が ON である必要があります。

1. platadmн か platoper、dmnxadmн、dmnxrcfg グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。 x は、電源をオフにするボードが存在するドメインの ID です。
2. ドメイン X のスロット 0 または 1 のボードのテーブル内の、電源をオフにするボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「電源オフ」をクリックします。
「電源オフ」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

ボードのテスト

ボードのテスト機能は、特定のドメイン内のボードをテストします。ボードのテストについての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』の rcfgadm(1M) コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードをテストする

1. dmnxadmн グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。 x は、テストするボードがあるドメインの ID です。
2. ドメイン X 表示テーブル内の、テストするボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「ボードのテスト」をクリックします。
「ボードのテスト」パネルが表示されます。
4. テストオプション横のラジオボタンをクリックします。
5. テストを強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」のチェックボックスをクリックします。このオプションを選択すると、メニューに注意書きが表示されます。テストを強制的に行わない場合は、必ずチェックボックスを空白にしておいてください。

- 適切なボードと適切なオプションを選択したことを確認して、「テスト開始」ボタンをクリックします。
パネルにボードのテスト処理の進行状況が表示されます。
- 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ドメインのタグの追加 / 変更

ドメインのタグの追加 / 変更機能は、ドメインに指定されたドメインタグ名を追加するか、ドメインタグ名を変更します。ドメインには、名前タグを1つだけ割り当てることができ、そのタグはすべてのドメイン間で一意である必要があります。ドメインタグの追加または変更についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』の `addtag(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ドメインのタグを追加または変更する

- `platadm` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
- ドメイン X 情報テーブル内の、タグを追加または変更するドメイン (A ~ R) を右クリックします。
ドメイン操作のメニューが表示されます。
- メニューから「タグを追加」をクリックします。
「タグの追加」パネルが表示されます。
- 適切なドメインを選択したことを確認して、「新規タグの設定」のテキストボックスに新しいドメインタグ名を入力します。
- 「了解」ボタンをクリックします。

タグの削除

タグの削除機能は、ドメインに割り当てられているタグ名を削除します。タグの削除についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』の `deletetag(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ドメインのタグを削除する

1. `platadm` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. ドメイン *X* 情報テーブル内の、タグを削除するドメイン (A ~ R) を右クリックします。
ドメイン操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「タグを削除」をクリックします。
「タグの削除」パネルが表示されます。
4. 適切なドメインを選択したことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

キースイッチ位置の変更

キースイッチ位置の変更機能は、ドメインの仮想キースイッチ位置を以下のいずれかの値に変更します。

- オン
- オフ
- 診断
- 保護
- スタンバイ

仮想キースイッチとそれぞれの位置についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』の `setkeyswitch(1M)` の説明を参照してください。

▼ キースイッチ位置を変更する

1. `dmnxadm` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。*x* は、キースイッチ位置を変更するドメインの ID です。
2. ドメイン *X* 情報テーブル内の、キースイッチ位置を変更するドメイン (A ~ R) を右クリックします。
ドメイン操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「キースイッチ」をクリックします。
「キースイッチ」パネルが表示されます。
4. 設定する位置のラジオボタンをクリックします。



注意 – キースイッチ位置をオンからオフに直接変更しようとする、エラーメッセージが返されることもなく、単にその操作が失敗します。キースイッチ位置をオンからオフに変更するには、まずスタンバイ位置に変更します。つまり、オンからスタンバイに変更し、それからオフに変更します。

5. 「了解」ボタンをクリックします。

アクセス制御リスト (ACL) の設定 / 変更

アクセス制御リストの設定 / 変更機能は、特定のドメインのアクセス制御リストを設定または変更します。デフォルトではドメインの ACL リストは空です。このため、最初に ACL リストを設定して、ドメインに割り当てるすべてのボードを追加する必要があります。ドメインの ACL リストに登録されていないボードをそのドメインから割り当てることはできません。ACL の設定 / 変更についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』の `setupplatform(1M)` の説明を参照してください。

注 – Sun Management Center 3.5 GUI のアクセス制御リストは、Systems Management Services (SMS) の `setupplatform(1M)` コマンドで Available Component List (使用可能な構成要素リスト) と呼ばれているリストと同じものです。

▼ アクセス制御リストを設定または変更する

1. `platadm` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. ドメイン X 情報テーブル内の、ACL を設定または変更するドメイン (A ~ R) を右クリックします。
ドメイン操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「アクセス制御リスト」をクリックします。
「アクセス制御リスト」パネルが表示されます。
4. ACL にスロットを追加する場合は、左側のリストボックス (「ACL リストに追加」) からスロットを選択して、「追加」をクリックします。ACL からスロットを削除する場合は、右のリストボックス (「ACL 内のスロット :」) からスロットを選択して、「削除」をクリックします。
5. ACL リストの内容を確認して、「了解」ボタンをクリックします。

ドメインのリセット

ドメインのリセット機能は、特定のドメインのすべての CPU ポートのリセットして、ドメインのハードウェアをクリーンな状態に戻します。ドメインのリセットについての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』の `reset(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ドメインをリセットする

ドメインをリセットするには、仮想キースイッチが `secure`（保護）以外の位置である必要があります。キースイッチが `secure` 位置の状態ではドメインをリセットしようとすると、エラーメッセージが返されます。キースイッチ位置の変更方法については、200 ページの「キースイッチ位置の変更」を参照してください。

1. `dmnxadmin` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。 x は、リセットするドメインの ID です。
2. ドメイン X 情報テーブル内の、リセットするドメイン ($A \sim R$) を右クリックします。
ドメイン操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「ドメインのリセット」をクリックします。
「ドメインのリセット」パネルが表示されます。
4. ドメインをリセットしてもよいことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

状態の表示

状態の表示機能は、ボードまたはスロットに対して最後に実行された DR (動的再構成) 関係のコマンドの状態を表示します。この状態表示は、現在実行されている状態に基づいて動的に更新されます。コマンドがエラーで停止した場合は、エラーメッセージが表示されます。ただし、コマンドが実行されていないか、コマンドがエラーなしで終了した場合は、「No status from the agent」というメッセージが表示されます。

注 - 許可されていない DR 操作を行おうとすると、状態メッセージが返されます。今回のリリースにおける DR 操作の制限事項については、『System Management Services (SMS) 1.4 インストールマニュアル』および『ご使用にあたって』を参照してください。

▼ 状態を表示する

1. `platadm` か `platoper`、`dmnxadm`、`dmnxrcfg` グループのメンバーとしてログインします。 x は、状態を表示するシステムボードまたはスロットが存在するドメインの ID です。
2. 適切なボードテーブル内の、状態を表示するシステムボードまたはスロットを右クリックします。
ボードまたはスロットの操作メニューが表示されます。
3. メニューから「状態の表示」をクリックします。

「状態の表示」ダイアログボックスが表示され、最新の DR コマンドの実行状態が表示されます(コマンドが実行されている場合)。最新の状態が表示されるまでに、少し時間(最長で 1 分)がかかることがあります。

このとき、DR 処理で問題が発生した場合は、状態として、223 ページの図 8-6 に示すようなメッセージが表示されます。

構成処理が正常終了するか、コマンドが実行されていない場合は、223 ページの図 8-7 に示すようなメッセージが表示されます。

4. 状態の表示を確認したら、「了解」ボタンをクリックします。

DR 操作に失敗した場合の対処方法

動的再構成 (DR) 操作に失敗する原因はいくつか考えられます。

- ユーザーがその操作を行う権限を持っていない。多くの場合、操作はコンソールレベルでは行うことができません。しかし、コンソールに問い合わせないと操作権限を判定できないケース (特にボードの移動操作) もあります。この場合は、ユーザーはその操作を行うことができますが、「Generic data request error」というエラーで、操作は失敗します。
- Sun Management Center サーバーとエージェント間のグループ設定の矛盾、あるいは 16 個のグループ数制限を超えているという問題があるために、ユーザーがその操作に対する適切な権限を持っていない。この場合は、「Insufficient security privilege (セキュリティ権限がありません)」または「Not writable error (書き込み不能エラー)」というエラーで、操作は失敗します。セキュリティアクセス権に関する詳細は、第 3 章を参照してください。具体的には、55 ページの「1 つのユーザー ID に対するグループ ID 数の制限」にグループ数制限 (16) に関する詳しい説明があります。
- プラットフォームエージェントとのネットワーク接続が停止している。この場合は、「Timeout error (タイムアウトエラー)」というエラーで操作は失敗します。

「Timeout error」以外のエラーメッセージが返された場合は、以下のファイルを参照して、エラーの詳細情報を入手してください。

- /var/opt/SWUNWsymon/log 内の platform.log と pdsm.log ファイル
- /tmp/pdsm.log ファイル
- コンソールログファイル
- /var/opt/SUNWSMW/SMS バージョン /adm/platform/messages (「SMS バージョン」は、SMS1.4 などの動作中の SMS のバージョン)

ドメインからの動的再構成 (DR) 接続点

この章では、Sun Management Center 3.5 の GUI と動的再構成モジュールを使い、Sun Fire 15K/12K および 6800/4810/4800/3800 のドメインから動的再構成 (DR) を行うときの操作方法を説明します。DR 操作とは、Sun Fire ドメインに対するボードのアタッチや、ドメインからのボードのデタッチ、Sun Fire ドメインへのボードの構成などの操作のことです。こうした DR 操作の一部または他の操作の一部として、ボードのテスト、ボードの電源のオンまたはオフなどのその他の管理操作を行うことができます。

前提条件

Sun Management Center 3.5 の GUI を使って DR 操作を行うには、DR 操作そのものを理解している必要があります。Sun Fire システムにおける DR 操作については、以下のマニュアルを参照してください。

- 『Sun Fire 15K/12K Dynamic Reconfiguration (DR) ユーザーマニュアル』 - Sun Fire 15K に対する DR モジュールの基礎となる操作について解説 Sun Fire 15K/12K システムでの DR 操作に関する一般的な注意事項と判明している制限事項および問題点については、『System Management Services (SMS) 1.4 インストールマニュアル』および『ご使用にあたって』を参照してください。
- 『Sun Fire 6800, 4810, 4800, 3800 システム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』 - Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムに対する DR モジュールの基礎となる操作について解説
- `cfgadm(1M)` のマニュアルページ - DR モジュールの基礎となるコマンドについて解説

動的再構成 (DR) モジュール

DR モジュールでは、ドメインからテーブル内の接続点に対する DR 操作を行うことができます。これらの操作は、Sun Management Center 3.5 の GUI を使用してのみ、`cfgadm(1M)` コマンドのときと同じ方法で行うことができます。このモジュールは、Sun Fire 15K/12K や 3800/4800/4810/6800 システムで動作します。

このモジュールは、Sun Management Center ソフトウェアのインストール中に自動的にインストールされますが、初めて使用するときには、手動で読み込む必要があります。また、このモジュールは必要に応じて読み込み解除することができます。また、このモジュールは必要に応じて読み込み解除することができます。Sun Management Center のモジュールの読み込みおよび読み込み解除の具体的な情報は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

図 8-1 は、ドメインのホストの詳細ウィンドウの「ブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコン (DR Sun Fire (3800-15K)) を表しています。

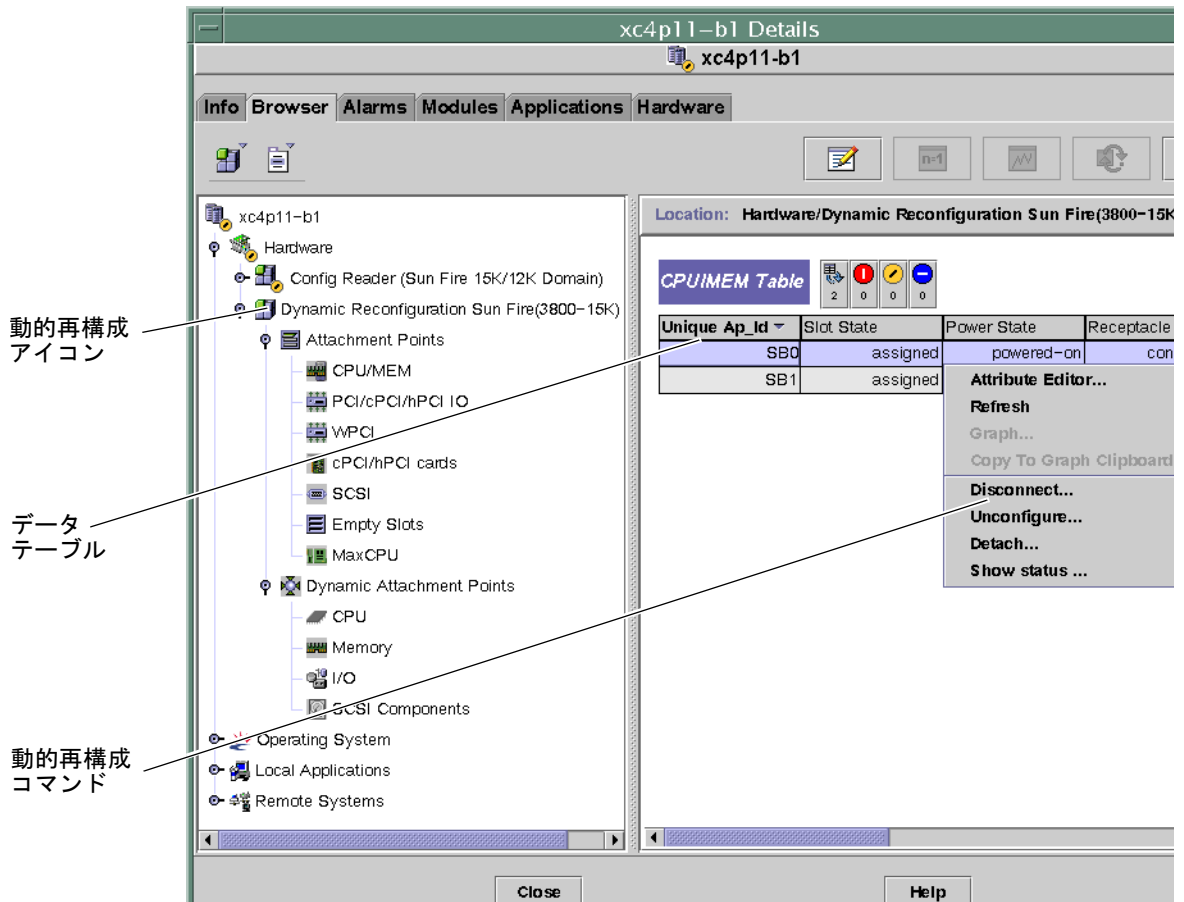


図 8-1 動的再構成 (DR) の機能

動的再構成 (DR) の属性

動的に再構成可能なボードまたはデバイスの最新の状態を調べるには、詳細ウィンドウの右側にある DR 関係のデータテーブルを使用します。

DR モジュールが提供するテーブルは、以下の 2 つのセクションに分かれています。

- 接続点 - システムボードや入出力ボードなどの大きなコンポーネントの単一接続点
- 動的接続点 - CPU モジュールや DIMM、SCSI ドライブなどの個別デバイスとコンポーネントの動的接続点

接続点

接続点はボードとそのスロットの総称です。接続点テーブルは、以下のタイプのボードスロットに関する情報を提供します。

- CPU/ メモリー
- PCI/cPCI/hPCI 入出力ボード
- WPCI
- cPCI/hPCI カード
- SCSI
- 空きスロット
- MaxCPU (Sun Fire 15K/12K システムのみ)

CPU / メモリー

次の表は、CPU / メモリーボードの接続点属性を簡単にまとめています (表 8-1)。

表 8-1 CPU / メモリーボードの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID : SBx の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態 : assigned か unassigned
電源の状態		電源の状態 : powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態 : connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態 : configured か unconfigured
タイプ		ボードのタイプ : CPU
状態		ボードの状態 : ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報 : powered-on、assigned など

表 8-1 CPU / メモリーボードの接続点属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のとき <i>y</i> (はい)、そうした操作が進行中でないとき <i>n</i> (いいえ)。
物理 ID		物理接続点 ID: <code>/devices/pseudo/dr@0:SBx</code> の形式で、 <i>x</i> はボードが装着されているセンタープレンスロットの番号 (0 ~ 17)

PCI/cPCI/hPCI 入出力ボード

次の表は、PCI/cPCI/hPCI 入出力ボードの接続点属性を簡単にまとめています (表 8-2)。Sun Fire 3800/4800/4810/6800 システムの場合、テーブルには、PCI と cPCI 入出力ボードの属性だけ表示されます。Sun Fire 15K/12K システムの場合は、hPCI 入出力カードの属性だけ表示されます。

表 8-2 PCI/cPCI/hPCI 入出力ボードの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		<code>cfgadm</code> から得られた一意の論理接続点 ID: <code>IOx</code> の形式で、 <i>x</i> はボードが装着されているセンタープレンスロットの番号 (0 ~ 17)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態: <code>assigned</code> か <code>unassigned</code>
電源の状態		電源の状態: <code>powered-on</code> か <code>powered-off</code>
受容装置		受容装置の状態: <code>connected</code> 、 <code>disconnected</code> 、 <code>empty</code> のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態: <code>configured</code> か <code>unconfigured</code>
タイプ		ボードのタイプ: <code>PCI</code> 、 <code>CPI</code> 、 <code>HPCI</code> 、 <code>HPCI+</code> のどれか
状態		ボードの状態: <code>ok</code> 、 <code>unknown</code> 、 <code>failed</code> 、 <code>unusable</code> のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報: <code>powered-on</code> 、 <code>assigned</code> など

表 8-2 PCI/cPCI/hPCI 入出力ボードの接続点属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のとき <i>y</i> (はい)、そうした操作が進行中でないとき <i>n</i> (いいえ)。
物理 ID		物理接続点 ID: /devices/pseudo/dr/@0:IO <i>x</i> の形式で、 <i>x</i> はボードが装着されているセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)

WPCI

次の表は、WPCI ボードの接続点属性を簡単にまとめています (表 8-3)。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

表 8-3 WPCI ボードの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID: IO <i>x</i> の形式で、 <i>x</i> はボードが装着されているセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態: <code>assigned</code> か <code>unassigned</code>
電源の状態		電源の状態: <code>powered-on</code> か <code>powered-off</code>
受容装置		受容装置の状態: <code>connected</code> 、 <code>disconnected</code> 、 <code>empty</code> のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態: <code>configured</code> か <code>unconfigured</code>
タイプ		ボードのタイプ: <code>WPCI</code>
状態		ボードの状態: <code>ok</code> 、 <code>unknown</code> 、 <code>failed</code> 、 <code>unusable</code> のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報: <code>powered-on</code> 、 <code>assigned</code> など

表 8-3 WPCI ボードの接続点属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のとき <i>y</i> (はい)、そうした操作が進行中でないとき <i>n</i> (いいえ)。
物理 ID		物理接続点 ID: /devices/pseudo/dr/@0:IO <i>x</i> の形式で、 <i>x</i> はボードが装着されているセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)

cPCI/hPCI カード

次の表は、cPCI/hPCI カードの接続点属性を簡単にまとめています (表 8-4)。Sun Fire 3800/4800/4810/6800 システムの場合、テーブルには、cPCI カードの属性だけ表示されます。Sun Fire 15K/12K システムの場合は、hPCI 入力カードの属性だけ表示されます。

表 8-4 cPCI/hPCI の接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID: (pcisch2:e04b1slot3 など)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態: assigned か unassigned
電源の状態		電源の状態: powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態: connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態: configured か unconfigured
タイプ		タイプ: pci-pci/hp など
状態		ボードの状態: ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		一般的な情報: unknown など

表 8-4 cPCI/hPCI の接続点属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のとき y (はい)、そうした操作が進行中でないとき n (いいえ)。
物理 ID		物理接続点 ID : /devices/pci@9d,7000000:e04b1slot3 など

SCSI

次の表は、SCSI の接続点属性を簡単にまとめています (表 8-5)。

表 8-5 SCSI の接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID : pcisch3:e04b1slot2
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態 : assigned か unassigned
電源の状態		電源の状態 : powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態 : connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態 : configured か unconfigured
タイプ		タイプ : scsi/hp など
状態		コンポーネントの状態 : ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		この構成部品の一般的な情報 : unknown など
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のとき y (はい)、そうした操作が進行中でないとき n (いいえ)。
物理 ID		物理接続点 ID : /devices/pci@9d,600000:e04b1slot2 など

空きスロット

次の表は、空きスロットの接続点属性を簡単にまとめています (表 8-6)。

表 8-6 空きスロットの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID : pcisch0:e17b1slot1 など
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態 : assigned か unassigned
電源の状態		電源の状態 : powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態 : connected、disconnected、 empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態 : configured か unconfigured
タイプ		ボードのタイプ : unknown
状態		コンポーネントの状態 : ok、unknown、failed、 unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報 : assigned か unknown
構成日時		このスロットがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作 が進行中でないとき n (いいえ)
物理 ID		物理接続点 ID : /devices/pci@9d,6000000:e17b1slot1 など

MaxCPU

次の表は、MaxCPU ボードの接続点属性を簡単にまとめています (表 8-7)。この表は、Sun Fire 15K システムの場合にのみ表示されます。

表 8-7 Sun Fire 15K/12K の MaxCPU ボードの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた MaxCPU ボードの一意の論理接続点 ID
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態: assigned か unassigned
電源の状態		電源の状態: powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態: connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態: configured か unconfigured
タイプ		ボードのタイプ: MCPU
状態		ボードの状態: ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報: powered-on、assigned など
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のとき y (はい)、そうした操作が進行中でないとき n (いいえ)。
物理 ID		MaxCPU ボードの物理的な接続点 ID

動的接続点

動的接続点とは、システムボード上の、CPU やメモリー、入出力デバイスなどのコンポーネントを意味します。こうした動的接続点は、DR ドライバによって作成されます。DR ドライバについての詳細は、『Sun Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』の dr(7D) マニュアルページを参照してください。動的接続点テーブルは、以下のタイプのコンポーネントに関する情報を提供します。

- CPU
- メモリー
- 入出力デバイス
- SCSI コンポーネント

CPU コンポーネント

次の表は、CPU コンポーネント (構成部品) の動的接続点属性を簡単にまとめています (表 8-8)。

表 8-8 CPU コンポーネントの動的接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID: SBx::cpu y の形式で、 x はボードが装着されているセンタープレーンのスロット番号 (0 ~ 17)、 y は CPU 番号 (0 ~ 3)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態: assigned か unassigned
電源の状態		電源の状態: powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態: connected
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態: configured か unconfigured
タイプ		コンポーネントタイプ: CPU
状態		コンポーネントの状態: ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		この CPU タイプの一般的な情報: cpuid 2、speed 750 MHz、ecache 8 MBytes など このフィールドについては、『Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』の cfgadm_sbd(1M) のマニュアルページを参照。
構成日時		このコンポーネントがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のとき y (はい)、そうした操作が進行中でないとき n (いいえ)。
物理 ID		物理接続点 ID: /devices/pseudo/dr@0:SBx::cpu y の形式で、 x はボードが装着されているセンタープレーンのスロット番号 (0 ~ 17)、 y は CPU 番号 (0 ~ 3)

メモリーコンポーネント

次の表は、メモリーコンポーネントの動的接続点属性を簡単にまとめています (表 8-9)。

表 8-9 メモリーコンポーネントの動的接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID : SBx::memory の形式で、x はボードが装着されている センタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態 : assigned か unassigned
電源の状態		電源の状態 : powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態 : connected
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態 : configured か unconfigured
タイプ		コンポーネントタイプ : memory
状態		コンポーネントの状態 : ok、unknown、failed、 unusable のどれか
情報		このメモリータイプの一般的な情報 : base address 0x0, 2097 152 KBytes total, 420920 KBytes permanent など このフィールドについては、 『Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』 の cfgadm_sbd(1M) のマニュアルページを参照。
構成日時		このコンポーネントがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作 が進行中のとき y (はい)、そうした操作が進行中でな いとき n (いいえ)。
物理 ID		物理接続点 ID : /devices/pseudo/dr@0:SBx::memory の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンスロット の番号 (0 ~ 17)

入出力コンポーネント

次の表は、入出力コンポーネントの動的接続点属性を簡単にまとめています (表 8-10)。

表 8-10 入出力コンポーネントの動的接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID: IOx::pciy の形式で、x はボードが装着されているセ ンタープレーンのスロット番号 (0 ~ 17)、y は PCI 番 号 (0 ~ 3)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態: assigned か unassigned
電源の状態		電源の状態: powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態: connected
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態: configured か unconfigured
タイプ		コンポーネントタイプ: io
状態		コンポーネントの状態: ok、unknown、failed、 unusable のどれか
情報		この io タイプの一般的な情報: device/pci@23d,700000 referenced など この フィールドについては、『Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』の cfgadm_sbd(1M) の マニュアルページを参照。
構成日時		このコンポーネントがドメインに構成された日時
ビジョ		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作 が進行中のとき y (はい)、そうした操作が進行中でな いとき n (いいえ)
物理 ID		物理接続点 ID: /devices/pseudo/dr@0:IOx::pciy の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロッ ト番号 (0 ~ 17)、y は PIC 番号 (0 ~ 3)

SCSI コンポーネント

次の表は、SCSI コンポーネント (構成部品) の動的接続点属性を簡単にまとめています (表 8-11)

表 8-11 SCSI コンポーネントの動的接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた SCSI コンポーネントの一意の論理接続点 ID
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態: assigned か unassigned
電源の状態		電源の状態: powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態: connected
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態: configured か unconfigured
タイプ		コンポーネントタイプ: disk、CD-ROM、tape のどれか
状態		コンポーネントの状態: ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このタイプの一般的な情報
構成日時		このコンポーネントがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のとき y (はい)、そうした操作が進行中でないとき n (いいえ)
物理 ID		SCSI コンポーネントの物理的な接続点 ID

ドメインからの動的再構成 (DR) 操作

この節では、Sun Management Center 3.5 の DR モジュールを使い、Sun Fire ドメインから DR (動的再構成) 操作を行う方法を説明します。ドメインからの DR 操作はすべて、cfgadm(1M) コマンドに依拠しています。cfgadm(1M) コマンドのさまざまなオプションについては、『Sun Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』のコマンドの説明を参照してください。

Sun Fire のドメインには、論理的な側面と物理的な側面の両方があります。

- 「論理」ドメインは、特定のドメインに所属するものとしてグループ化されたスロットの集まりです。スロットには、システムボードが存在することもあるが、存在しないものもあります。
- 「物理」ドメインは、物理的に相互接続された、論理ドメイン内のボードの集まりです。

占有されているか、空いているかに関係なく、スロットは論理ドメインのメンバーになることができますが、物理ドメインの構成要素であることはありません。起動後、ボードまたは空きスロットは、論理ドメインに割り当てたり、論理ドメインから割り当て解除したりできます。Solaris オペレーティング環境からの要求があると、ボードは物理ドメインの構成要素になります。空きスロットが物理ドメインの構成要素になることはありません。

以下では、ドメインからの次の DR およびその他の管理操作について説明します。

- ボードの割り当て
- ボードの割り当て解除
- ボードのアタッチ
- ボードのデタッチ
- ボードの接続
- ボードの切断
- ボードまたはコンポーネントの構成
- ボード、コンポーネント、メモリーの構成解除
- ボードの電源オン
- ボードの電源オフ
- ボードのテスト
- 状態の表示

サポートされている `cfgadm` のオプション

表 8-12 は、DR モジュールがサポートする `cfgadm(1M)` のオプションの一覧です。`cfgadm(1M)` コマンドのさまざまなオプションについては、『Sun Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』のコマンドの説明を参照してください。

表 8-12 DR がサポートする `cfgadm` のオプション

<code>cfgadm</code> のオプション	Sun Management Center の GUI メニュー項目	説明
<code>-c configure</code>	アタッチ	ボードをアタッチします。
<code>-c disconnect</code>	デタッチ	ボードをデタッチします。
<code>-x assign</code>	割り当て	ボードを割り当てます。
<code>-c disconnect</code>	割り当て解除	割り当て解除
<code>-x unassign</code>		

表 8-12 DR がサポートする cfgadm のオプション (続き)

cfgadm のオプション	Sun Management Center の GUI メニュー項目	説明
-c connect	接続します。	ボードを接続します。
-c disconnect	切断	ボードを切断します。
-c configure	構成	ボードまたはコンポーネントを構成します。
-c unconfigure	構成解除	ボードまたはコンポーネントを構成解除します。
-x poweron	電源オン	ボードの電源をオンにします。
-x poweroff	電源オフ	ボードの電源をオフにします。
-t	テスト	ボードをテストします。

ドメインからのドメイン情報の表示

Sun Fire のドメインから DR 操作を行うときは、「ハードウェア」タブにある DR (動的再構成) モジュールの接続点と動的接続点テーブルを表示します。

ボードがドメインの ACL に登録されていることの確認

ドメインからシステムボードに対して DR 操作を行うには、そのボードがドメインの ACL リストに登録されている必要があります。

ボードの割り当て

ボードの割り当て機能は、論理ドメインにシステムボードを追加します。

▼ ボードを割り当てる

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードの割り当て先のドメインにログインします。

2. 適切なボードテーブル内の、割り当てるボードの一意の接続点 ID を右クリックします。

ボード操作のメニューが表示されます。

3. メニューから「割り当て」をクリックします。

次のメッセージの入った「割り当て」確認ボックスが表示されます。

```
Assign a slot.  
Are you sure you want to assign?
```

4. 選択したボードを割り当ててもよい場合は、「了解」ボタンをクリックします。割り当てない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、割り当て操作を取り消します。

ボードの割り当て解除

ボードの割り当て解除機能は、論理ドメインからシステムボードを削除します。

▼ ボードを割り当て解除する

1. esadm グループのメンバーとして、割り当て解除するシステムボードが存在するドメインにログインします。

2. 適切なボードテーブル内の、割り当て解除するボードの一意の接続点 ID を右クリックします。

ボード操作のメニューが表示されます。

3. メニューから「割り当て解除」をクリックします。

次のメッセージの入った「割り当て解除」確認ボックスが表示されます。

```
Unassign.  
Are you sure you want to unassign?
```

4. 選択したボードを割り当て解除してもよい場合は、「了解」ボタンをクリックします。割り当て解除しない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、割り当て解除操作を取り消します。

システムボードのアタッチ

ボードのアタッチ機能は、特定のドメインで動作している Solaris オペレーティング環境に指定されたシステムボードをアタッチします。この操作では、DR モジュールによって一連の処理が自動的に行われます。

- 論理ドメインへのシステムボードの割り当て
- システムボードの電源オン
- システムボードのテスト
- システムコントローラ経由でのドメインへのシステムボードの物理的な接続
- ドメイン上で動作する Solaris オペレーティング環境でのシステムボード上のコンポーネントの構成。この処理によって、ドメイン上で動作するアプリケーションがそれらコンポーネントを利用できるようになります。

システムボードとその他のコンポーネントの初期状態によっては、あるいはハードウェア上の問題によってアタッチ操作が正常終了しない場合、一部の自動処理は行われません。

▼ システムボードをアタッチする

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードのアタッチ先のドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、アタッチするシステムボードの一意的接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「アタッチ」をクリックします。
次のメッセージの入った「アタッチ」確認ボックスが表示されます。

```
Attach a board.  
Attach will connect and configure the selected board.  
Are you sure you want to attach?
```

4. 選択したボードをアタッチしてもよい場合は、「了解」ボタンをクリックします。アタッチしない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、アタッチ操作を取り消します。

システムボードのデタッチ

ボードのデタッチ機能は、特定のドメインで動作している Solaris オペレーティング環境から指定されたシステムボードをデタッチします。この操作では、DR モジュールによって一連の処理が自動的に行われます。

- ドメイン上で動作する Solaris オペレーティング環境でのシステムボード上のコンポーネントの構成解除。この処理によって、ドメイン上で動作するアプリケーションはそれらコンポーネントを利用できなくなります。
- システムコントローラとの通信を通じての、ドメインからのシステムボードの物理的な切断。これ以降、システムボードは依然論理ドメインの構成要素ではありませんが、物理ドメインの構成要素ではなくなります。
- システムボードの電源オフ。

システムボードとその他のコンポーネントの初期状態によっては、あるいはハードウェア上の問題によってデタッチ操作が正常終了しない場合、一部の自動処理は行われません。

▼ システムボードをデタッチする

1. esadm グループのメンバーとして、デタッチするシステムボードが存在するドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、デタッチするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。

ボード操作のメニューが表示されます。

3. メニューから「デタッチ」をクリックします。

「デタッチ」確認ダイアログボックスが表示されます (図 8-2)。

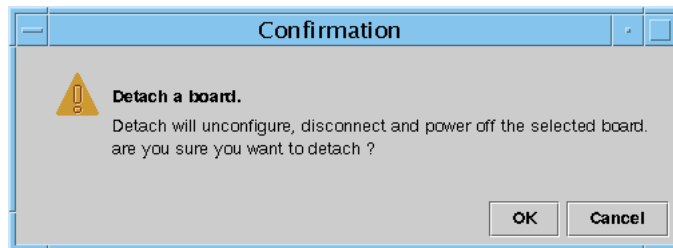


図 8-2 「デタッチ」確認ダイアログボックス

4. 選択したボードをデタッチしてもよい場合は、「了解」ボタンをクリックします。デタッチしない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、デタッチ操作を取り消します。

ボードの接続

この操作機能では、以下の処理が行われます。

- 論理ドメインへのシステムボードの割り当て (ボードが使用可能で、論理ドメインの構成要素でない場合)
- システムボードの電源オン
- システムボードのテスト
- 物理ドメインへのシステムボードの接続

▼ システムボードを接続する

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードの接続先のドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、接続するシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「接続」をクリックします。
次のメッセージの入った「接続」確認ボックスが表示されます。

Connect
Are you sure you want to connect?

4. 選択したボードを接続してもよい場合は、「了解」ボタンをクリックします。接続しない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、接続操作を取り消します。

注 – Sun Fire 15K/12K システムでは、「中止」ボタンをクリックすることによって完全に操作を中止できます。

ボードの切断

この機能では、以下の処理が行われます。

- システムボードの構成解除 (必要な場合)
- 物理ドメインからのシステムボードの切断

▼ SCSI ボード以外のシステムボードを切断する

1. esadm グループのメンバーとして、切断するシステムボードが存在するドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、切断するシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「切断」をクリックします。
「切断」パネルが表示されます (図 8-3)。

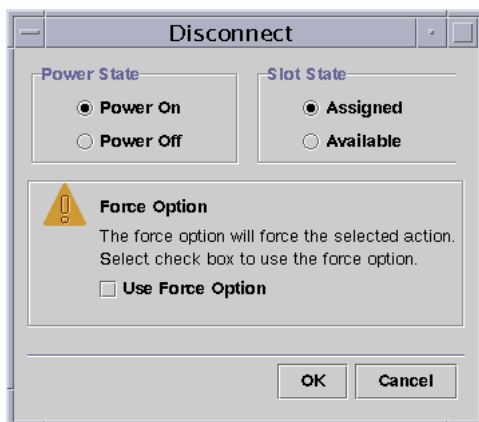


図 8-3 「切断」パネル

4. 適切な「電源の状態」オプションのラジオボタンをクリックします。切断後、ボードは指定された電源状態になります。
5. 適切な「スロットの状態」オプションのラジオボタンをクリックします。切断後、ボードは指定された電源状態になります。
6. 切断操作を強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」のチェックボックスをクリックします。強制的に行わない場合は、「強制オプションを使用する」のチェックボックスを空白のままにしておきます。
7. 選択したボードを切断してもよい場合は、「了解」ボタンをクリックします。切断しない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、切断操作を取り消します。

注 – Sun Fire 15K/12K システムでは、「中止」ボタンをクリックすることによって完全に操作を中止できます。

▼ SCSI ボードを切断する

esadm グループのメンバーとして、切断する SCSI ボードがあるドメインにログインします。

- 適切なボードテーブル内の、切断する SCSI ボードの一意的接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
- メニューから「切断」をクリックします。
次のメッセージの入った「切断」パネルが表示されます。

Disconnect
Are you sure you want to continue?

- 選択した SCSI ボードを切断してもよい場合は、「了解」ボタンをクリックします。切断しない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、切断操作を取り消します。

ボード、コンポーネント、メモリーの構成

この機能では、以下の処理が行われます。

- システムボードの接続 (必要な場合)
- ドメイン上で動作する Solaris オペレーティング環境でのシステムボードまたはボード上のコンポーネントかメモリーの構成。この処理によって、ドメイン上で動作するアプリケーションがボード、またはボード上のコンポーネントあるいはメモリーを利用できるようになります。

▼ システムボード、またはコンポーネント、メモリーを構成する

- esadm グループのメンバーとして、システムボードかコンポーネント、メモリーの構成先のドメインにログインします。
- 適切なボードテーブル内の、構成するシステムボードかコンポーネント、メモリーの一意的接続点 ID を右クリックします。
ボードかコンポーネント、メモリー操作のメニューが表示されます。

3. メニューから「構成」をクリックします。

次のメッセージの入った「構成」確認ボックスが表示されます。

```
Configure
Are you sure you want to configure?
```

4. 選択したボードかコンポーネント、メモリーを構成してもよい場合は、「了解」ボタンをクリックします。構成しない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、構成操作を取り消します。

注 – Sun Fire 15K/12K システムでは、「中止」ボタンをクリックすることによって完全に操作を中止できます。

ボード、コンポーネント、メモリーの構成解除

構成解除機能は、システムコントローラ、またはボード上のコンポーネント、メモリーを構成解除します。この処理により、ドメイン上で動作するアプリケーションは、ボードまたはコンポーネント、メモリーを利用できなくなります。

▼ システムボードまたはコンポーネントを構成解除する

1. esadm グループのメンバーとして、構成解除するシステムボードまたはコンポーネントがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、構成解除するシステムボードまたはコンポーネントの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボードまたはコンポーネントの操作メニューが表示されます。
3. メニューから「構成解除」をクリックします。
次のメッセージの入った「構成解除」パネルが表示されます。

```
Select Force Option
The force option will force the selected action.
Select check box to use the force option.
```

4. 構成解除操作を強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」のチェックボックスを選択します。強制的に行わない場合は、「強制オプションを使用する」のチェックボックスを空白のままにしておきます。
5. 選択したボードまたはコンポーネントを構成解除してもよい場合は、「了解」ボタンをクリックします。構成解除しない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、構成解除操作を取り消します。

注 – Sun Fire 15K/12K システムでは、「中止」ボタンをクリックすることによって完全に操作を中止できます。

▼ メモリーを構成解除する

1. esadm グループのメンバーとして、構成解除するメモリーがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、構成解除するメモリーコンポーネントの一意の接続点 ID を右クリックします。
メモリーコンポーネントの操作メニューが表示されます。
3. メニューから「構成解除」をクリックします。
「メモリーの構成解除」パネルが表示されます (図 8-4)。

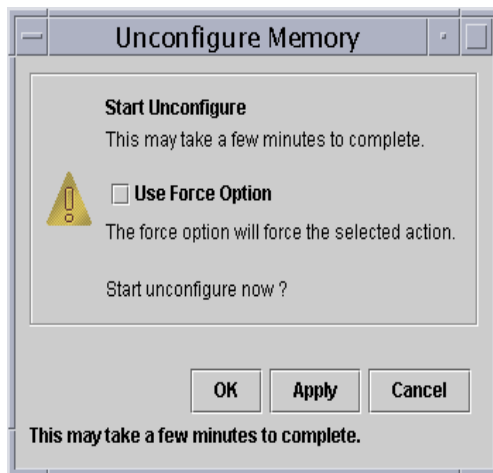


図 8-4 「メモリーの構成解除」パネル

4. 構成解除操作を強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」のチェックボックスを選択します。強制的に行わない場合は、「強制オプションを使用する」のチェックボックスを空白のままにしておきます。
5. メモリーの構成解除を開始する場合は、「了解」ボタンをクリックします。構成解除しない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、構成解除操作を取り消します。

ボードの電源オン

ボードの電源オン機能は、システムボードの電源をオンにします。テストするシステムボードは論理ドメインに割り当てられている必要がありますが、物理ドメインの構成要素である必要はありません。

▼ ボードの電源をオンにする

1. esadm グループのメンバーとして、電源をオンにするシステムボードがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、電源をオンにするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「電源オン」をクリックします。
次のメッセージの入った「電源オン」確認ボックスが表示されます。

```
Power On a board.  
Are you sure you want to power on?
```

4. システムボードの電源をオンにしてもよい場合は、「了解」ボタンをクリックします。オンにしない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、電源オン操作を取り消します。

ボードの電源オフ

ボードの電源オフ機能は、システムボードの電源をオフにします。テストするシステムボードは論理ドメインに割り当てられている必要がありますが、物理ドメインの構成要素である必要はありません。

▼ ボードの電源をオフにする

1. esadm グループのメンバーとして、電源をオフにするシステムボードがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、電源をオフにするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「電源オフ」をクリックします。
次のメッセージの入った「電源オフ」確認ボックスが表示されます。

```
Power Off a board.  
Are you sure you want to power off?
```

4. システムボードの電源をオフにしてもよい場合は、「了解」ボタンをクリックします。オフにしない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、電源オフ操作を取り消します。

ボードのテスト

ボードのテスト機能は、システムボードをテストします。テストするシステムボードは論理ドメインに割り当てられている必要がありますが、物理ドメインの構成要素である必要はありません。

▼ ボードをテストする

1. esadm グループのメンバーとして、テストするシステムボードが存在するドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、テストするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「テスト」をクリックします。
「ボードのテスト」パネルが表示されます (図 8-5)。

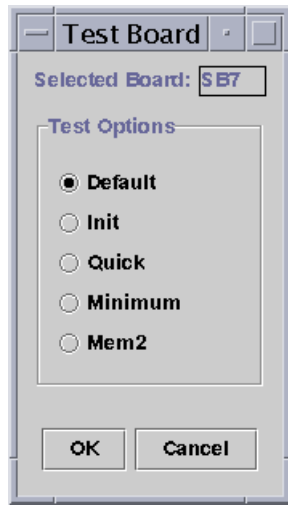


図 8-5 「ボードのテスト」 パネル

4. テストオプション横のラジオボタンをクリックします。
5. 適切なボードと適切なオプションを選択したことを確認したら、「了解」ボタンをクリックして、テストを開始します。テストしない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、テストを取り消します。

注 – Sun Fire 15K/12K システムでは、「中止」ボタンをクリックすることによって完全に操作を中止できます。

状態の表示

状態の表示機能は、ボードまたはスロットに対して最後に実行された DR (動的再構成) 関係のコマンドの状態を表示します。この状態表示は、現在実行されている状態に基づいて動的に更新されます。実行中のコマンドがエラーで停止した場合は、`cfgadm(1M)` プログラムからエラーメッセージが表示されます。ただし、コマンドが実行されていないか、コマンドがエラーなしで終了した場合は、「No status from the agent」というメッセージが表示されます。

▼ 状態を表示する

1. `esadm` グループのメンバーとして、状態を表示するシステムボードまたはスロットがあるドメインにログインします。

- 適切なボードテーブル内の、状態を表示するシステムボードまたはスロットの一意の接続点 ID を右クリックします。

ボードまたはスロットの操作メニューが表示されます。

- メニューから「状態の表示」をクリックします。

「状態の表示」ダイアログボックスが表示され、最新の DR コマンドの実行状態が表示されます (コマンドが実行されている場合)。

このとき、DR 処理で問題が発生した場合は、状態として、図 8-6 に示すようなメッセージが表示されます。



図 8-6 ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (異常終了の場合)

構成処理が正常終了するか、コマンドが実行されていない場合は、図 8-7 に示すメッセージが表示されます。

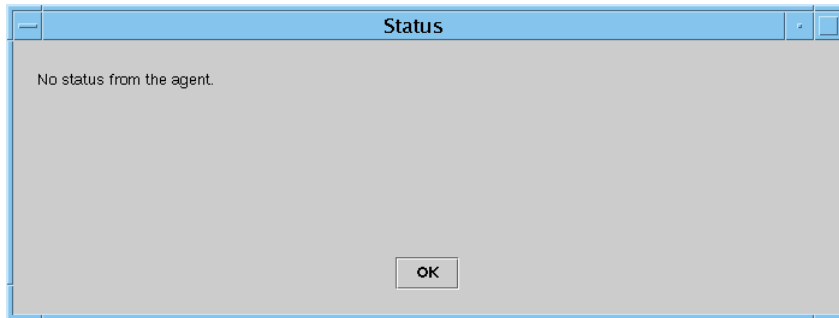


図 8-7 ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (正常終了の場合)

- 状態の表示を確認したら、「了解」ボタンをクリックします。

CLI によるインストールと設定

CLI による Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアのインストール

Sun Management Center サーバーとシステムコントローラ、Sun Fire 15K/12K ドメイン、コンソールには、Sun Management Center 3.5 主要ソフトウェアと Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアをインストールします。



注意 – システムコントローラが CP2140 ボードの場合は、そのサポートのために、システムコントローラと Sun Management Center サーバーの両方にシステムコントローラ用エージェントソフトウェアを再インストールする必要があります。

詳細なインストール方法については、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の付録 B の「es-inst による Solaris プラットフォームへのインストール」を参照してください。

インストール作業の過程で、各追加製品の一覧が表示され、製品をインストールするかどうか問い合わせがあります。以下の 2 つは、Sun Fire 15K/12K システムに固有の製品です。

- Sun Fire 15K/12K Monitoring
- Sun Fire 15K ~ 3800 プラットフォーム用動的再構成 (ドメインで動的再構成を使用する場合)

インストールが完了すると、インストールされた製品の一覧が表示され、Sun Management Center コンポーネントを設定するかどうか、問い合わせがあります。

注 – Sun Management Center ソフトウェアのインストールまたはセットアップでは、**y** (はい)、**n** (いいえ)、**q** (終了) のいずれかを入力します。

CLI による Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアの設定

Sun Management Center サーバーとシステムコントローラ、Sun Fire 15K/12K ドメイン、コンソールには、Sun Management Center 3.5 主要ソフトウェアと Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアを設定します。

詳細な設定方法については、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の付録 B の「es-setup による Solaris プラットフォーム上の設定」を参照してください。

インストールで追加製品を選択していて、主要製品の設定を完了すると、選択された製品ごとにセットアップスクリプトが実行されます。Sun Management Center サーバーまたはコンソールの場合、Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアの設定は特に必要ありません。システムコントローラと Sun Fire 15K/12K ドメインの場合は、Sun Fire 15K/12K 用追加ソフトウェアの設定が必要になります。

システムコントローラの設定

ここでは、システムコントローラに Sun Management Center 3.5 ソフトウェアをインストールしてセットアップする方法を説明します。このソフトウェアのインストールと設定は、両方のシステムコントローラで行う必要があります。手順は同じです。システムコントローラに Sun Management Center ソフトウェアを再インストールす

る場合は、その前に、そのシステムコントローラから Sun Management Center ソフトウェアをアンインストールしてください (34 ページの「CLI によるソフトウェアのアンインストール」を参照)。

Sun Fire 15K/12K ドメインの設定が開始されると、以下のメッセージが表示されます。

```
-----  
Starting Sun Management Center Sun Fire 15K/12K Platform Setup  
-----  
  
....  
  
Is this Sun Fire 15K/12K platform configured with a spare SC?  
[y|n|q]
```

5. Sun Fire 15K/12K システムに予備のシステムコントローラが構成されている場合は、y (はい)、予備のシステムコントローラがない場合は n (いいえ) を入力します。y を選択した場合は、以下のメッセージが表示されます。

```
Enter the alternate SC hostname (not 主ホスト名) for this platform.  
Alternate SC hostname: 代替ホスト名
```

6. 予備 (または代替) のシステムコントローラがある場合は、そのシステムコントローラのホスト名を入力します。
以下のメッセージが表示されます。

```
The Platform agent will create a composite object that includes  
Sun Management Center agents loaded on Sun Fire 15K/12K domains.  
  
The default port to be checked for Sun Fire 15K/12K Domains is:  
161.  
  
Do you want to change the port that will be checked? [y|n|q]
```



注意 – すべての Sun Fire 15K/12K ドメインについて、ドメインエージェントのセットアップで指定したのと同じポート番号を指定してください。ポート番号が異なると、Sun Fire 15K/12K 複合オブジェクトが機能しません。

7. デフォルトのポートを変更しない場合は n、変更する場合は y を入力します。y を入力すると、新しいデフォルトのポート番号を指定するよう求められます。新しいポート番号を入力してください。

Sun Management Center Sun Fire 15K/12K システムコントローラのエージェントの設定が開始されると、次のメッセージが表示されます。

```
-----  
Starting Sun Management Center Sun Fire 15K/12K System Controller Agent Setup  
-----
```

SC 用に使用されているマシンに従って、次のメッセージのうちのいずれかが表示されます。

- CP1500 が使用されていることが検出された場合：

```
Proper setup requires loading the drivers i2c, i2cadc, i2cgpio.  
This will enable us to collect voltage and temperature data for  
the CP1500.  
Please refer to the SPARCengine ASM Reference Manual for more  
information.
```

```
Would you like to continue? [y|n|q]
```

注 - **y** を入力して続行すると、es-start スクリプトによって、CP1500 上で以下に示すドライバが自動的に読み込まれます。

- CP2140 が使用されていることが検出された場合：

```
Proper setup requires loading the Solaris Management Console  
software and patches for CP2140 support.  
This will enable us to collect temperature data for the CP2140.
```

```
Would you like to continue? [y|n|q]
```

- CP1500 と CP2140 のどちらも使用されていないことが検出された場合：

```
Error, an unsupported SC type has been detected.  
SC is neither CP1500 nor CP2140.
```

```
Would you like to continue? [y|n|q]
```

8. `y` を入力して、システムコントローラのエージェントの設定をします。設定をしない場合は `n`、終了する場合は `q` を入力します。

`y` と入力すると、システムコントローラのエージェントの設定が最後まで行われて、次のメッセージが表示されます。

```
Do you want to start Sun Management Center agent now? [y|n|q]
```

9. ここで Sun Management Center の主要エージェントと Sun Fire 15K/12K プラットフォームエージェント、Sun Fire 15K/12K システムコントローラエージェントを起動する場合は、`y` を入力します。これらのソフトウェアを起動しない場合は、`n` を入力します。

Sun Fire 15K/12K ドメインの設定

この項では、Sun Fire 15K/12K のドメインエージェントの設定方法を説明します。このための手順は、監視するすべてのドメインで同じです。ドメインに Sun Management Center ソフトウェアを再インストールする場合は、その前に、そのドメインから Sun Management Center 3.5 ソフトウェアをアンインストールしてください (34 ページの「CLI によるソフトウェアのアンインストール」を参照)。

Sun Fire 15K/12K ドメインの設定が開始されると、以下のメッセージが表示されます。

```
-----  
Starting Sun Management Center Sun Fire 15K/12K Domain Setup  
-----
```

```
....
```

```
The Domain Config Reader for Sun Fire 15K/12K systems will collect  
configuration and status information for your tape drives at  
regular polling intervals. This can be disruptive to tape drive  
controllers that do not allow concurrent access.
```

```
Would you like to disable this feature? [y|n|q]
```

1. テープドライブに対するポーリングを無効にする場合は y、無効にしない場合は n を入力します。

テープドライブコントローラによって同時並行アクセスが禁止されている場合は、この機能を無効にできます。

いずれの場合も、以下のメッセージが表示されます。

Do you want to start Sun Management Center agent now [y|n|q]

2. ここで Sun Management Center の主要エージェントと Sun Fire 15K/12K ドメインエージェントを起動する場合は、y を入力します。これらのソフトウェアを起動しない場合は、n を入力します。

用語集

この用語集では、このマニュアル、および Sun Fire 15K/12K システム専用のモジュール用の Sun Management Center のグラフィカルユーザーインターフェース (GUI) で使用されている略語と頭文字語をまとめています。

A

- ABUS address bus (アドレスバス) の略語
- AC Alternating Current (交流) の略語で、電源装置からの入力交流電流を意味します。
- ACL アクセス制御リスト (Access Control List)。 (Sun Management Center の GUI で使用されているこの用語は、System Management Services (SMS) で使用されている Available Component List (使用可能なコンポーネントリスト) と同じものです。
- AMX Address Multiplexer (アドレスマルチプレクサ) ASIC を意味します。
- AR Address Register (アドレスレジスタ) ASIC を意味します。
- ASIC Application-specific integrated circuit (特定用途向け集積回路) の略語
- ASM Advanced System Monitoring の略語
- ASR Automatic System Recovery (自動システム回復) の略語
- AXQ system address controller (システムアドレスコントローラ) ASIC を意味します。

C

- C 摂氏
- CBH console bus hub (コンソールバスハブ) の略語
- CLI command-line interface (コマンド行インタフェース) の略語
- COD Capacity-on-Demand オプションを意味します。
- codd Capacity-on-Demand デーモン
- CP Centerplane (センタープレーン) の略語で、Sun Fireplane インターコネクトともいいます。
- CPU central processing unit (中央演算処理装置) の略語
- CS または CSB centerplane support board (センタープレーンサポートボード) を意味します。
- CSN シャーシのシリアル番号

D

- DARB Data Arbiter (データアービター) ASIC を意味します。
- DAT digital audio tape (デジタルオーディオテープ) の略語
- DBUS data bus (データバス) を意味します。
- DC Direct Current (直流) の略語で、施設の電源からの直流電流を意味します。
- dca Domain Configuration Administration (ドメイン構成管理) の略語
- DCR Domain Config Reader (ドメイン構成リーダー) の略語
- DDS digital data storage (デジタルデータ記憶装置) の略語
- DIMM dual inline memory module の略語
- DMX Data Multiplexer (データマルチプレクサ) ASIC を意味します。
- DNS Domain Name Service (ドメインネームサービス) の略語
- DR Dynamic Reconfiguration (動的再構成) の略語
- dsmd Domain Service Monitoring Daemon (ドメインサービス監視デーモン) の略語
- DX Data Extract (データ抽出) ASIC を意味します。

x/dxs Domain X Server (ドメイン X サーバー) のことで、X は a ~ r の範囲の英字です。

D キャッシュ データキャッシュのことです。

E

ECC Error-Correcting Code (誤り訂正コード) の略語

efe Event Front-end Daemon (イベントフロントエンドデーモン)

efhd Error and Fault handling デーモン

elad イベントログアクセスデーモン

erd イベントレポートデーモン

esmd Environmental Status Monitoring Daemon (環境状態監視デーモン)

EX または EXB 拡張ボード

E キャッシュ 外部キャッシュのことです。

F

fomd Failover Management Daemon (フェイルオーバー管理デーモン)

frad FRU Access Daemon (FRU アクセスデーモン)

FRU field-replaceable unit (現場交換可能ユニット) の略語

FT Fan tray (ファントレー) の略語

G

GUI graphical user interface (グラフィカルユーザーインタフェース) の略語

H

- HK housekeeping (ハウスキーピング) を意味します。
- HPCI、hPCI、hsPCI Hot-swap PCI (ホットスワップ PCI) 集合部品を意味します。
- HPCI+、hPCI+、hsPCI+ Hot-swap PCI (ホットスワップ PCI) プラス集合部品を意味します。
- HUP Hang-up (ハングアップ) 信号を意味します。
- hwad Hardware Access Daemon (ハードウェアアクセスデーモン)

I

- ICMP Internet Control Message Protocol の略語
- ID identifier (識別子) を意味します。
- IO Input/Output (入出力) の略語で、MaxCPU ボードや hsPCI ボードなどを意味します。
- IOA Input/Output Adapter (入出力アダプタ) の略語
- IP Internet Protocol (インターネットプロトコル) の略語
- I キャッシュ 命令キャッシュのことです。

J

- JDK Java Development Kit

K

- kmd Key Management Daemon (キー管理デーモン)

M

- mand Management Network Daemon (管理ネットワークデーモン)
- MB または M バイト megabyte (メガバイト) を意味します。
- MHz megahertz (メガヘルツ)
- MIB management information base の略語
- mlsd Message Logging Daemon (メッセージログ記録デーモン)

N

- NIC network interface card (ネットワークインタフェースカード) の略語
- NIS Network Information Services の略語

O

- OBP OpenBoot PROM の略語
- OID object identifier (オブジェクト識別子) を意味します。
- osd OpenBoot PROM Support Daemon (OpenBoot PROM サポートデーモン)

P

- Paroli 並列光リンクのことです。
- pcd Platform Configuration Daemon (プラットフォーム構成デーモン)
- PCI peripheral component interconnect の略語
- PCR プラットフォーム構成リーダー
- PDSM プラットフォーム / ドメインの状態管理

- PFA predictive failure analysis (予測障害分析) の略語
- POR Power-on Reset (電源投入リセット) の略語
- POST Power-On Self-Test (電源投入時セルフテスト) の略語
- PROC プロセッサ
- PROM programmable read-only memory の略語
- PS power supply (電源装置) の略語
-

R

- RBUS response bus (応答バス) を意味します。
- RIO Read Input/Output (入出力読み取り) ASIC を意味します。
- RMX Response Multiplexer (応答マルチプレクサ) ASIC を意味します。
- RSM remote shared memory (遠隔共有メモリー) の略語
- RT Real-time process (リアルタイムプロセス) を意味します。
-

S

- SAN storage area network (ストレージエリアネットワーク) の略語
- SB system board (システムボード) の略語で、CPU ボードなどのことです。
- SBBC Sun Fire Boot Bus Controller の略語
- SC system controller (システムコントローラ) の略語
- SCM System Controller Monitoring (システムコントローラの監視) の略語
- SCSI small computer system interface の略語
- SDC Sun Fire Data Controller (Sun Fire データコントローラ) ASIC を意味します。
- SDI System Data Interface (システムデータインタフェース) ASIC のことで、拡張ボードには、この ASIC が 6 つあります。
- SDI0 System Data Interface (システムデータインタフェース) のマスター ASIC のことで、5 つあるシステムデータインタフェース ASIC のマスターです。

- SDI3 5つあるシステムデータインタフェース ASIC の3つ目です。
- SDI5 5つあるシステムデータインタフェース ASIC の5つ目です。
- SEEPROM serially electrically erasable PROM の略語
- SIMM dual inline memory module の略語
- SMS System Management Services の略語
- SNMP Simple Network Management Protocol の略語
- SRS Sun Remote Services の略語
- ssd SMS Startup Daemon (SMS 起動デーモン) を意味します。
- SSM scalable shared memory (スケーラブル共有メモリー) の略語
- SYS System process (システムプロセス) を意味します。

T

- tmd Task Manager Daemon (タスクマネージャデーモン)
- TNG the next generation (次世代) を意味します。
- TS Time-sharing process (タイムシェアリングプロセス) を意味します。

U

- UPA UltraSPARCa Port Architecture の略語

V

- V Volts (ボルト) または Voltage (電圧) の略語
- VDC 直流電圧を意味します。

W

- WCI Sun Fire Link Interface ASIC のこと
- WcApp Sun Fire Link および Sun Fire 15K/12K の SMS インタフェースデーモンのこと
- WPCI Sun Fire Link PCI のこと
- wrsm Sun Fire Link Remote Shared Memory 用のドライバ
- wssm Sun Fire Link Scalable Shared Memory 用のドライバ

ふ

- プロセッサリスト MaxCPU ボード

索引

C

CP 1500

ドライバ、インストール, 236

CPU コンポーネント、属性

動的接続点, 215

CPU ボード、属性, 107

CPU / メモリーボード、属性

接続点, 208

ドメイン, 143

D

DIMM、属性

ドメイン, 151

プラットフォーム, 122

H

hPCI、属性

カード, 146

接続点, 211

カセット, 118

ボード

ドメイン, 144

入出力デバイス, 209

プラットフォーム, 108, 110

M

MaxCPU ボード、属性

接続点, 214

ドメイン, 145

プラットフォーム, 116

N

NIS ネームサーバー, 47

P

Paroli カード、属性

ドメイン, 147

プラットフォーム, 119

PCI デバイス、属性, 164

S

SCSI コンポーネント、属性

動的接続点, 218

SCSI、属性

接続点, 212

SC 構成 リーダー

アイコン, 159

アラーム規則, 167

CPU

温度 (cpCPUTemp), 168

- 状態 (cpCPUStatus), 168
- エラー数
 - ディスク (cpDskErrCnt), 169
 - テープ (cpTpeErrCnt), 169
- ボードの電圧 (cpBrdVolt), 167
- 属性, 160
 - PCI デバイス, 164
 - SC ボード, 162
 - システム, 161
 - ディスクデバイス, 165
 - テープデバイス, 166
 - ネットワークインタフェース, 166
 - プロセッサ, 162
 - メモリーモジュール, 163
- SC デーモンプロセス、属性, 181
- SC の監視
 - アイコン, 179
 - アラーム規則
 - プロセスの停止 (rDownProc), 183
 - 監視対象の SMS デーモン, 180
 - 属性
 - SC デーモンプロセス, 181
- SC の状態
 - アイコン, 183
 - アラーム規則
 - SC の状態 (rscstatus), 185
 - 属性, 184

W

- WCI、属性, 154
- Web インタフェース, 43
- WPCI ボード、属性
 - ドメイン, 144
 - ドメインの DR, 210
 - プラットフォーム, 113

あ

- 空きスロット、属性
 - プラットフォーム, 174
 - ドメイン, 178
- 接続点, 213
- アクセス制御 (ACL)

- ACL の設定または変更, 201
- ボードがドメインの ACL に登録されていること
の確認, 220
- アラーム規則
 - CPU
 - 温度 (cpCPUTemp), 168
 - 状態
 - システムコントローラ
(cpCPUStatus), 168
 - ドメイン (scCPUStatus), 155
 - hPCI カード (scHPCId), 130
 - OK/BAD/UNKNOWN (scOBURul), 131
 - OK/FAIL 規則 (scOkFail), 131
 - ON/OFF 規則 (scOnOff), 132
 - POST の状態
 - POST の状態 (scPOST), 132
 - ドメイン (scPOSTStatus), 156
- SC の状態 (rscstatus), 185
- エラー数
 - DIMM (scDimmErrCnt), 155
 - ディスク
 - システムコントローラ
(cpDskErrCnt), 169
 - ドメイン (scDskErrCnt), 156
 - テープ
 - システムコントローラ (cpTpeErrCnt), 169
 - ドメイン (scTpeErrCnt), 158
 - リンク
 - 状態 (scLnkSt), 158
 - 妥当性 (scLnkVld), 159
- システムボード
 - DR の状態 (scDrStat), 134
 - テストの状態 (scBTest), 134
- 状態の検査 (scStateCheck), 157
- 電源装置の遮断器 (scBreakr), 133
- ドメイン停止と記録停止 (scStop), 129
- フェイルオーバー状態 (scFoStat), 130
- プロセスの停止 (rDownProc), 183
- ボード
 - 温度 (scBTemp), 128
 - 電圧
 - システムコントローラ (cpBrdVolt), 167
 - 電圧 (scBVolt), 128
 - 電源 (scBPower), 127
 - 電流 (scBCurrt), 127

い

- インストール
 - CP 1500 のドライバ, 236
 - 概要, 10
 - 図, 10
 - スクリプト, 3
 - 注意事項, 3
 - ホストと対応する階層, 13

お

- オブジェクト
 - 検出、属性, 125
 - プラットフォーム
 - 作成, 66
 - ポート番号, 66
- 温度
 - アラーム規則
 - システムコントローラ, 168
 - プラットフォーム, 128
 - しきい値, 168
 - 摂氏, 96

か

- 拡張ボード、属性, 100

き

- キースイッチ、位置の変更, 200

く

- グループ、管理
 - Sun Fire 15K/12K モジュール, 53
 - Sun Management Center, 48
 - System Management Services
 - PDSM 操作, 53
 - デフォルト, 50
 - スーパーユーザー, 46
 - 制限, 55

け

- 検出オブジェクト、属性, 125

こ

- 構成解除、ドメインからの
 - コンポーネント, 227
 - ボード, 227
 - メモリー, 228
- 構成、ドメインからの
 - コンポーネント, 226
 - ボード, 226
 - メモリー, 226
- コンソール
 - 起動, 39
 - 終了, 40
 - 設定, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 24, 25, 26, 27, 28

さ

- サーバー
 - 起動, 39
 - 再構成, 42
 - 最小メモリー容量, 12
 - 選択, 12
 - 停止, 40, 42
 - ホスト名, 43
- 再インストール
 - System Management Services ソフトウェア, 41
- 再構成
 - サーバー, 42
 - システムコントローラ, 41
 - データの退避, 42
 - ドメイン, 43
 - プラットフォーム, 41
- 削除
 - タグ、ドメイン, 199
 - ボード
 - ドメイン, 195
 - プラットフォーム, 190

し

- システムコントローラ
 - CP 1500 のドライバのインストール, 236
 - インストール, 234
 - エージェント, 5
 - 再構成, 41
 - 周辺装置、属性, 104
 - 状態, 184
 - 属性, 102
 - デーモンプロセス, 181
 - ハードウェアの概要, 83
 - 物理表示, 84
 - 予備, 235
 - 論理表示, 88
- システム、属性
 - システムコントローラ, 161
 - ドメイン, 142
 - プラットフォーム, 96
- 詳細ウィンドウ
 - ドメイン, 77
 - ハードウェアの概要, 78
 - 物理表示, 79
 - 論理表示, 81
 - 「ハードウェア」タブ, 68
- ハードウェアの概要、概略, 68
- 物理表示、概略, 68
- プラットフォーム, 69
 - ハードウェアの概要, 70
 - 物理表示, 73
 - 論理表示, 75
- モジュール、Sun Fire 15K/12K エージェント, 67
- 論理表示、概略, 69
- システムコントローラ, 82
 - ハードウェアの概要, 83
 - 物理表示, 84
 - 論理表示, 88
- 状態の表示
 - PDSM
 - ドメイン, 202
 - プラットフォーム, 193
 - ドメインの DR, 231

す

- スーパーユーザーのアクセス権, 46
- スクリプト
 - インストール (es-inst), 3
 - セットアップ (es-setup), 3, 41
 - 注意事項, 3
- スロット 0 のボード、属性
 - ドメイン, 177
 - プラットフォーム, 172
- スロット 1 のボード、属性
 - ドメイン, 177
 - プラットフォーム, 173
- スロット、定義, 219

せ

- 切断、ドメインからの
 - ボード, 224
 - SCSI, 226
- 設定
 - ACL, 201
 - 概要, 10
 - 図, 10
 - スクリプト, 3, 41
 - ネットワーク上の共通の場所, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 24, 25, 26, 27, 28
 - ワークステーション, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 24, 25, 26, 27, 28
- センタープレーンサポートボード、属性, 101
- センタープレーン、属性, 98
- 前提条件, xxiii, 187, 205

そ

- ソフトウェアの起動, 38
 - コンソール, 39
 - サーバー, 39
 - システムコントローラ, 38
 - ドメイン, 38
- ソフトウェアの終了、コンソール, 40
- ソフトウェアの停止, 39
 - コンソール, 40

サーバー, 40, 42
システムコントローラ, 40, 42
ドメイン, 40, 42

つ

追加

タグ、ドメイン, 199
ボード
ドメイン, 195
プラットフォーム, 190
追加製品 (ライセンス契約の下に使用許可)
Web インタフェース, 43
概略, 3

て

停止回数

記録 (rstop), 66
ドメイン (dstop), 66
ディスクデバイス、属性
システムコントローラ, 165
ドメイン, 152
データの退避, 42
テープデバイス、属性
システムコントローラ, 166
ドメイン, 153

電圧

アラーム規則
システムコントローラ, 167
プラットフォーム, 128
注意, 167

電源オフ

周辺装置
SC からの
プラットフォーム, 192
ボード
SC からの
ドメイン, 197
プラットフォーム, 192
ドメインからの, 229

電源オン

周辺装置
SC からの

プラットフォーム, 192
ボード
SC からの
ドメイン, 197
プラットフォーム, 192
ドメインからの, 229

電源装置、属性, 106, 174

と

ドメイン

インストール, 237
起動, 38
再構成, 41, 43
情報、属性, 176
属性, 123
停止, 40, 42
ハードウェアの概要, 78
表示へのアクセス, 54
物理表示, 79
リセット, 202
論理表示, 81
ドメイン構成リーダー
アイコン, 138
アラーム規則, 155

CPU の状態 (scCPUStatus), 155
DIMM エラー数 (scDimmErrCnt), 155
POST の状態 (scPOSTStatus), 156
状態の検査 (scStateCheck), 157
ディスクエラー数 (scDskErrCnt), 156
テープエラー数 (scTpeErrCnt), 158
リンクの状態 (scLnkSt), 158
リンクの妥当性 (scLnkVld), 159
再表示, 141
属性, 142

CPU / メモリーボード, 143
DIMM, 151
hPCI ボード, 144
MaxCPU ボード, 145
Paroli カード, 147
WCI, 154
WPCI ボード, 144
hPCI カード, 146
システム, 142
ディスクデバイス, 152
テープデバイス, 153

- ネットワークインタフェース, 153
 - プロセッサ, 148
 - メモリーコントローラ, 149
 - メモリーバンク, 150
- ドメインの動的再構成 (DR)
 - SCSI の切断, 226
 - アイコン, 206
 - サポートされている `cfgadm` のオプション, 219
 - 状態の表示, 231
 - 接続 `ten`, 207
 - 属性
 - CPU コンポーネント, 215
 - CPU / メモリー, 208
 - hPCI カード, 211
 - hPCI 入出力ボード, 209
 - MaxCPU, 214
 - SCSI, 212
 - SCSI コンポーネント, 218
 - WPCI, 210
 - 空きスロット, 213
 - 入出力コンポーネント, 217
 - メモリーコンポーネント, 216
 - 動的接続点, 207, 214
 - 物理、定義, 219
 - ボードのアタッチ, 222
 - ボードの構成、コンポーネント、メモリー, 226
 - ボードの接続, 224
 - ボードの切断, 224
 - ボードのテスト, 230
 - ボードのデタッチ, 223
 - ボードの電源オフ, 229
 - ボードの電源オン, 229
 - ボードの割り当て, 220
 - ボードの割り当て解除, 221
 - ボードまたはコンポーネントの構成解除, 227
 - メモリーの構成解除, 228
 - 論理、定義, 219
- ドメインのリセット, 202

に

- 入出力コンポーネント、属性
 - 動的接続点, 217

ね

- ネームサービススイッチ, 47
- ネットワークインタフェース、属性
 - システムコントローラ, 166
 - ドメイン, 153

は

- 「ハードウェア」タブ, 68
- ハードウェアの概要
 - 概略, 68
 - システムコントローラ
 - 表示, 83
 - ドメイン
 - 表示, 78
 - プラットフォーム
 - 情報, 72
 - ハードウェア資源, 72
 - 表示, 70
- パッケージ
 - Sun Fire 15K/12K, 4
 - 最小ディスク容量, 4

ひ

- 表示
 - ドメイン、アクセス, 54
 - 物理, 68
 - プラットフォーム、アクセス, 54
 - 論理, 69

ふ

- ファントレー、属性, 175, 105
- 複合
 - アイコン, 58
 - 検出, 61
 - 更新, 62
 - 作成, 60
 - 障害の追跡, 64
 - プラットフォーム, 57
- 物理表示
 - システムコントローラ

- 表示, 84
- ドメイン
 - 表示, 79
- プラットフォーム
 - 表示, 73
 - 概略, 68
- プラットフォーム
 - オブジェクト
 - 作成, 66
 - システムコントローラ, 65
 - 再構成, 41
 - 情報、属性, 172
 - ハードウェアの概要, 70
 - 表示へのアクセス, 54
 - 複合, 57
 - 物理表示, 73
 - 論理表示, 75
- プラットフォーム構成リーダー
 - アイコン, 94
 - アラーム規則, 126
 - hPCI カード (scHPCId), 130
 - OK/BAD/UNKNOWN (scOBURul), 131
 - OK/FAIL 規則 (scOkFail), 131
 - ON/OFF 規則 (scOnOff), 132
 - POST の状態 (scPOST), 132
 - システムボード
 - DR の状態 (scDrStat), 134
 - テストの状態 (scBTest), 134
 - 電源装置の遮断器 (scBreakr), 133
 - ドメイン停止と記録停止 (scStop), 129
 - フェイルオーバー状態 (scFoStat), 130
 - ボード
 - 温度 (scBTemp), 128
 - 電圧 (scBVolt), 128
 - 電源 (scBPower), 127
 - 電流 (scBCurrt), 127
- 再表示, 95
- 属性, 96
 - CPU ボード, 107
 - DIMM, 122
 - hPCI カセット, 118
 - hPCI ボード, 108, 110
 - MaxCPU ボード, 116
 - Paroli カード, 119
 - WPCI ボード, 113
 - 拡張ボード, 100
 - 検出オブジェクト, 125

- システム, 96
- システムコントローラ, 102
- システムコントローラの周辺装置, 104
- センタープレーン, 98
- センタープレーンサポートボード, 101
- 電源装置, 106
 - ドメイン, 123
 - ファントレイ, 105
 - プロセッサ, 120
 - メモリーバンク, 121
- プラットフォーム / ドメインの状態管理
 - ACL の設定または変更
 - ドメイン, 201
 - アイコン, 170
 - キースイッチ位置の変更
 - ドメイン, 200
 - グループ権限、要件, 53
 - サポートされる SMS コマンド, 188
 - 状態の表示
 - ドメイン, 202
 - プラットフォーム, 193
 - 属性
 - ドメイン
 - 空きスロット, 178
 - 情報, 176
 - スロット 0 のボード, 177
 - スロット 1 のボード, 177
 - プラットフォーム
 - 空きスロット, 174
 - 情報, 172
 - スロット 0 のボード, 172
 - スロット 1 のボード, 173
 - 電源装置, 174
 - ファントレイ, 175
 - タグの削除
 - ドメイン, 199
 - タグの追加/変更
 - ドメイン, 199
 - ドメイン表示, 175
 - アクセス, 54
 - プラットフォーム表示, 171
 - アクセス, 54
 - ボードの移動
 - ドメイン, 196
 - プラットフォーム, 191
 - ボードの削除
 - ドメイン, 195
 - プラットフォーム, 190

- ボードの追加
 - ドメイン, 195
 - プラットフォーム, 190
- ボードのテスト
 - ドメイン, 198
- ボードの電源オフ
 - ドメイン, 197
- ボードの電源オン
 - ドメイン, 197
- ボードまたは周辺装置の電源オフ
 - プラットフォーム, 192
- ボードまたは周辺装置の電源オン
 - プラットフォーム, 192
- リセット
 - ドメイン, 202
- プロセッサ、属性
 - システムコントローラ, 162
 - ドメイン, 148
 - プラットフォーム, 120

へ

- 変更
 - ACL, 201
 - キースイッチ位置, 200
 - タグ、ドメイン, 199

ほ

- ボードのアタッチ、ドメインからの, 222
- ボードの移動
 - ドメイン, 196
 - プラットフォーム, 191
- ボードの接続、ドメインからの, 224
- ボードのテスト
 - SC からの, 198
 - ドメインからの, 230
- ボードのデタッチ、ドメインからの, 223
- ボードの割り当て解除、ドメインからの, 221
- ボードの割り当て、ドメインからの, 220
- ポート番号
 - エージェント, 41, 66
 - 確認, 63
 - サーバーホスト, 41

- 注意事項, 235
- デフォルト, 5
- トラップエージェント, 41

- ホスト
 - 監視対象, 59
 - 対応する階層, 13
 - 名前
 - サーバー, 43
 - 非監視対象, 59

め

- メモリーコントローラ、属性, 149
- メモリーコンポーネント、属性
 - 動的接続点, 216
- メモリーバンク、属性
 - ドメイン, 150
 - プラットフォーム, 121

も

- モジュール
 - SC 構成 リーダー, 159
 - SC の監視, 179
 - SC の状態, 183
 - Sun Fire 15K/12K エージェント, 1, 67, 91
 - アラーム規則, 94
 - 属性, 93
 - 読み込み解除可能, 91
 - 読み込み可能, 91
 - ドメイン構成リーダー, 138
 - ドメインの動的再構成 (DR) , 206
 - プラットフォーム
 - 使用不可, 92
 - 必須の SMS デーモン, 93
 - プラットフォーム構成リーダー, 94
 - プラットフォーム / ドメインの状態管理, 170

よ

- 要件
 - 各パッケージの最小ディスク容量, 4
 - サーバーの最小メモリー容量, 12

ネットワークポートの設定, 5

ろ

ログファイル, 44, 185

論理表示

概略, 69

システムコントローラ

表示, 88

ドメイン

表示, 81

プラットフォーム

表示, 75

